

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙. 二葉亭四迷
4. 三輪弘忠. 巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明. 鈴木三重吉
7. 千葉省三. 浜田廣介
8. 少年詩. 童謡. 金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑. 江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉. 坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法
15. 試験

【評価方法】

定期試験. レポート. 出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論 (堀尾幸平著. 中日文化. 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英米の文学

小野迪雄

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国文学を中心に考察する。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

中国の文学

寺尾 剛

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

<主なテーマ>

- ・花木蘭（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・妻への愛－「悼亡詩」の系譜
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係
など

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

プリント

情報と社会

梅田敏文

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 e-ビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 機械とコンピュータ
- 第8講 システムの概念
- 第9講 情報化社会の課題（1）
- 第10講 情報化社会の課題（2）
- 第11講 情報化社会の課題（3）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、ミニテスト、レポートなどで評価する。

【テキスト】

情報化社会とコンピューター倫理（梅田敏文著 マナハウス）

情報と社会

沖野皓一

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会1

國信潤子

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を考える。

【授業計画】

（長久手キャンパス）

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民際交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協力関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的経済資源の不平等分配がある。この格差は正のため、また国際、民際交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業界から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

（星が丘キャンパス）

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に男女に対して期待される異なる役割、意識、行動様式などを指す。新世紀にはいり、従来の固定的性別分業とは異なり、性別にとらわれない新たな社会的役割行動様式の青年たちが増加してきている。それは固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮、能力開発、そして経済、社会的自立、生活面での自立などを目指す生き方である。ここ50年ほどの日本における女性の社会的地位の変容について社会学的データなどで紹介する。また法制改革、国際人権規約なども紹介する。原則としてテキストにそって授業を進める。グループ討議、視聴覚教材なども取り入れる。

【評価方法】

（長久手キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

（星が丘キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

【テキスト】

（長久手キャンパス）

特になし、随時配布

（星が丘キャンパス）

「女性学・男性学へジェンダー論入門へ」伊藤、國信共著（有斐閣刊 2002年）

【参考文献・資料】

（長久手キャンパス）

「ジェンダーと開発」田中、伊藤、大沢他 国際開発事業団出版 2002年 2800円

（星が丘キャンパス）

授業で随時紹介

ジェンダーと社会2

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈ことば〉とジェンダー
- 第3回 〈書く女〉の登場(1)
- 第4回 〈書く女〉の登場(2)
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
- 第7回 母と娘の物語(1)
- 第8回 母と娘の物語(2)
- 第9回 家族の物語
- 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化
- 第12回 まとめ

*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経緯や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

(長久手キャンパス)

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2～3回 プライバシー権、名誉権
- 第4～5回 自己決定権
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

(星が丘キャンパス)

- 第1回 日本の近代化と明治憲法の制定
- 第2回 ポツダム宣言の受諾と降伏の憲法史的意味
- 第3～4回 日本国憲法制定の経緯
- 第5回 日本国憲法の基本原理
- 第6回 プライバシー権、名誉権
- 第7～8回 自己決定権
- 第9回 表現の自由
- 第10回 信教の自由と政教分離
- 第11回 生存権・環境権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

【評価方法】

(長久手キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

(星が丘キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義I (第2版) (初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

郷土の歴史と文化

秦達之

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、「三大英傑」以後、一見平穏無事で、パッとしないかにみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいにも留意しつつ、隣県の三重・岐阜にも時には視野を拡げ、受験時の暗記的歴史から、考え、愉しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか)」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと娼婦運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしていく。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨、大嶋光義編 中部日本教育文化会)

都市と環境

谷口 武

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
 第2講 概論1：自然環境と人間
 第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
 第4講 各論2： ”
 第5講 各論3：都市形成の促進
 第6講 各論4： ”
 第7講 各論5：現代都市生活の高度化
 第8講 各論6： ”
 第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
 第10講 各論8： ”
 第11講 各論9：都市環境の改善
 第12講 各論10： ”
 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）
 なにが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）
 都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）
 環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）
 環境生物学への招待・地球生物圏と人間・（鈴木賢英著 文化書房博文社）

メディアと文化

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
 第2回～7回 「編集」という創造
 ・怪物の作り方
 ・テーマとコンセプト
 ・人の流れと思考の奥行き
 ・発想の手順
 ・WORK SHOP
 フォトストーリー
 コラージュ
 店内レイアウト
 雑誌の企画
 第8回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？
 ・モノが持つ言語
 ・素材の力、場の力
 ・伝達技術と表現手段
 ・WORK SHOP
 即席インスタレーション
 第11回～12回 社会が生んだ表現
 ・表現の自由と人権
 ・芸術が果たす役割
 第13回 「見る」「聞く」行為について
 状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

【評価方法】

レポートによる。

国際情勢

富江良治

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起こる新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

井戸平八郎

【授業の概要】

人間らしい生活を営むには、今日では福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉とは何か」、「福祉はいかにあるべきか」は難しい課題である。障害者福祉や老人介護など、現代的な問題を視野に入れて福祉について学ぶ。

【授業計画】

第1章 福祉は誰のために

第2章 援助と自立

第3章 児童問題と超高齢社会

第1節 児童福祉について

第2節 子どもの人権は守られているか

第3節 高齢者福祉

第4節 ターミナルケアから学ぶこと

第4章 バリア・フリーからユニバーサル・デザイン

第5章 これからの地域福祉

第6章 Well Being

ビデオ、スライド、OHPを利用。

【評価方法】

テストによる評価。

【参考文献・資料】

授業中に紹介。

こころの世界

青柳眞紀子

【授業の概要】

私達一人ひとりが持っているこころ。しかしそれを目で見ることにはできない。こころが様々な行動や反応を通して現われるのを観察し、そこから科学的に法則性を見つけだそうとする心理学の観点から、日常生活の中で身近に感じるような事柄を中心に心の世界を探っていく。

【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 原因の帰属
9. 対人関係
10. 態度変容
11. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

こころの世界

加藤智宏

【授業の概要】

日常生活を送る中で、私たちは様々なコミュニケーションをとっています。またそれらは、家庭、学校、乗り物の中、地下街など、その時々環境、状況の中で展開しています。

この授業では、日常生活での経験を話題に取り上げ、そこで起きた現象が心理学ではどの様に理解されているのかを中心に講義していきます。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 認知心理学
- c. 発達心理学
- d. 社会心理学
- e. 臨床心理学

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

ことばの世界

松本雄子

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

私達が日常なにげなく行っているコミュニケーションを様々な角度から分析する。コミュニケーションの基礎概念や理論を、現実社会での生活に関連しながら講義する。その中で、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。授業は講義中心ではあるが、ビデオを使つての講義や、グループディスカッション及び自己評価するなど、学生参加型の授業も取り入れる。

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

ことばの世界

山本雅子

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト(1)
- 第3回 ウチとソト(2)
- 第4回 敬語(1)
- 第5回 敬語(2)
- 第6回 性差(1)
- 第7回 性差(2)
- 第8回 世代差(1)
- 第9回 世代差(2)
- 第10回 名古屋方言(1)
- 第11回 名古屋方言(2)
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

渡辺泰明

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 マーケティングの意義（ケース：スミスクリン・ベックマン）
- 第2講 マーケティング・プロセス（ケース：青山商事）
- 第3講 市場機会の発見（ケース：根本特殊化学）
- 第4講 顧客と製品に関する戦略（ケース：花王）
- 第5講 価格戦略（ケース：サンギ）
- 第6講 コミュニケーション戦略（ケース：アサヒビール）
- 第7講 流通戦略（ケース：GM）
- 第8講 ケース・スタディーNo.1
- 第9講 ケース・スタディーNo.2
- 第10講 ケース・スタディーNo.3
- 第11講 外資系金融機関の仕事No.1
- 第12講 外資系金融機関の仕事No.2
- 第13講 期末試験

【評価方法】

出席状況と期末試験の結果により評価する。

【テキスト】

MBAマーケティング（株式会社グロービス著 グイヤモンド社）

【参考文献・資料】

随時資料配布

ビジネスの世界

小池弘道

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界は、企業を維持・発展させるための倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 1) ビジネス社会におけるビジネスの種類
- 2) 会社組織について
- 3) 仕事の遂行
リーダーシップ、創意と工夫、責任と権限、縦糸・横糸（指示命令系統、部署間の連携）
- 4) 日本のビジネス社会が現在抱えている問題点
企業の業績不振
終身雇用・年功序列の崩壊
グローバル化
- 5) 世界経済が抱えている問題点
- 6) ビジネス社会で役立つ個人の能力・知識

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない（必要に応じ資料配布）

【参考文献・資料】

日本の常識は、どこまで通じるか
（ジョリー・佐々木幸子、小池弘道 風媒社）

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今、子どもから高齢者まで多くの人が心を病んでいると言われていています。心の病いは、その個人や年代に特有のものもあれば、時代や環境などの社会的要因によるものもあります。実際の事例をひきながら、心の臨床を説き明かし、メンタルヘルス(心の健康)について考えます。

【授業計画】

概論(第1～3講)

- 概論1 心の病い：歴史、種類、症状のとらえ方
- 概論2 ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 概論3 脳と心：正常と異常の心理学

各論(第4～10講)

- 各論1 青年期、思春期にはじまる統合失調症
- 各論2 感情の障害としての躁うつ病(気分障害)
- 各論3 ストレスとその反応：神経症と心身症
- 各論4 やまらない、止まらない：薬物依存
- 各論5 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
- 各論6 大人とは異なる児童・小児の障害
- 各論7 老人と高齢者の病い：器質性障害

総論(第11～12講)

- 総論1 病いを前にして：治療、面接、カウンセリング
- 総論2 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動

終講： 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

大学生のための精神医学(高橋俊彦、近藤三男著 岩崎学術出版社)

【参考文献・資料】

新版精神医学事典(加藤正明ほか編集 弘文堂)
精神を病むということ(秋元波留夫/上田敏著 医学書院)
図解雑学 心の病と精神医学(影山任佐著 ナツメ社)

暮らしの経済

村上貴美子

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

第1回 最近の経済状況と用語解説

生活と経済の関わり

第2回 消費者の権利と意思決定

第3回 価値観と消費の多様化

第4回 生活をとりまく環境変化

第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか

第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか

第7回 教育と経済

第8回 サービスとはタダ(無料)のことでしょうか

第9回 余暇の為に働く

第10回 住宅とまちづくり

第11回 国際化と生活

第12回 未来を考える

毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

【評価方法】

出席状況宿題レポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生活の経済学(井原哲夫著 東洋経済新報社)

外国の言語と文化 1

角田達朗

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆(チュイトウ)』
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』
(原作なし)

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

外国の言語と文化 1

朱新建

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

1. 中国語の発音一声調・韻母(1)
2. 中国語の発音一声母
3. 中国語の発音一韻母・音節
4. 中国語発音のまとめ
5. 中国語会話一お名前は?
6. 中国語会話一お住まいはどちらですか。
7. 中国語会話一何が食べたいですか
8. 中国語会話一お久しぶりです。
9. 中国語の自己紹介
10. 中国語会話一中国の映画は面白いですか
11. 中国映画試写会
12. 中国語会話一中国語の上達は速いですね。
13. 前期試験

【評価方法】

平常点と試験による総合評価をします。

【テキスト】

Let's Study Chinese 1 (CD-ROM付) (朱 新建
あるむ)

外国の言語と文化 2

尹 大辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

- 韓国 (金両基監修 新潮社)
- 韓国と日本の比較文化論 (金煥著 明石書店)
- 総合韓国語 1 (油谷幸利・南相瓊著 白帝社)

外国の言語と文化 3

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら…
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

外国の言語と文化 3

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

第1回～3回 文字と発音

以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題（解答付）は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

【評価方法】

a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

【テキスト】

エクспレス ロシア語 桑野 隆著 白水社

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ（講談社現代新書）

外国の言語と文化 4

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風習・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化 5

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- フランスの地理
- フランスの建国
- フランス国民の起源
- フランスの社会問題
- フランスの家族
- 教育制度
- フランスとヨーロッパ
- フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化についても理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 人称代名詞、serとestar動詞、hay
6. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
7. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
8. 動詞（直説法現在）
9. 再帰動詞
10. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
11. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
12. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

文章表現論

加藤孝男

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習します。

【授業計画】

- 第1講 はじめに
- 2～3 日記について
- 4～6 名文を読む
- 7～8 表現のレトリック
- 9～10 芸術的表現の手法
- 11～12 表現の実践
- 13～14 まとめ

【評価方法】

試験によって評価します。
また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

文章表現論

青木 健

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現Ⅰ)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現Ⅱ)
- 第3回～7回
例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。
- 第8回～12回
課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

田所光男

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック(?)にルーブルとかオルセー... 皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくらかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、フランスのユダヤ人に焦点を当てます。まず、世界に広く散在するユダヤ人の文化と歴史、及び反ユダヤ主義について概論を行ないます（5回）。次いで、パリとユダヤ移民との関わりを見た後（3回）、ショーア後のフランスに生きるユダヤ人のアイデンティティ模索を検討します（5回）。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ディアスポラ、越境、アイデンティティ、人種主義、迫害、ジェノサイド、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義、主体など、様々な問題を考えて行きます。

【評価方法】

授業への積極的な参加、及び数種類のレポート。

【テキスト】

異文化への視線（佐々木英昭編著 名古屋大学出版会）
その他、適宜プリントを配布します。

現代芸術 1

森美恵子

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

現代芸術 1

小川晃治

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあつて、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

- 他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。
- 基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。
- 日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。
- 基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。
- 漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。
- 和漢の書道史を通じ、書の美の概要を学ぶ。
- 奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。
- 鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。
- 室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。
- 江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中の美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。
- 現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代芸術 2

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代芸術 2

浅田まり子

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 発声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング1（自然体）
- 第4講 音楽療法 1（歴史と機能）
- 第5講 ヴォイストレーニング2（呼吸法）
- 第6講 サウンドスケープ（音の風景）
- 第7講 音楽療法 2（受容性）
- 第8講 音のしくみ1（メロディーとリズム）
- 第9講 ヴォイストレーニング（楽器の確保）
- 第10講 音のしくみ2（コードなど）
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

*音楽の機能を健康的に活かし、自己満足的な音楽ではなく、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を目指します。

*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。（歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど）

【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

【テキスト】

授業中に指示

現代芸術 3

横山萬里

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,000円

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」
コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

なし。

女性学・男性学

井深淳子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

【授業計画】

- 第1回 はじめに
- 第2～5回 家族問題
- 第6～9回 子育て
- 第10～11回 現代の病巣
- 第12～13回 女性が働き続けることについて

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

女性学への招待〔新版〕（井上輝子著 有斐閣）

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

女性学・男性学

伊藤公雄

【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験的主夫論／働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん／男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

<参考図書> 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）

伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学——ジェンダー論入門』（有斐閣）

【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

【テキスト】

男性学入門（伊藤公雄 作品社 1,680円）

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

第1回 戦後型男女分業と経済構造～高度経済成長から男女共同参画社会基本法までを概括し、男女の共同関係の新しいあり方をさぐる。

第2回 戦後型男女分業主義を支えたマスメディア～その機能と対抗法をメディア内部から分析。

【評価方法】

出席状況と簡単なレポートなどによる。

【テキスト】

授業中に指示する。

エコロジー

大島光昭

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

エコロジーの基礎

自然環境の保護と育成

陸地環境

水域環境

流域圏環境

化石燃料と環境

地球の温暖化

酸性雨

光化学オキシダント

浮遊粉塵

化学物質と環境

オゾン層の破壊

生物濃縮と生態系の攪乱

ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【テキスト】

「生態学（エコロジー）」改訂版（大島光昭著 三恵社）700円

伝統文化

林 和利

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説。
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 能について
7. 狂言について
8. 歌舞伎について
9. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化学食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

生活の化学

八代有

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠からざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物一作物
1) 作物とは?
2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則—遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 (2) 作物の改良方法
- 第10回 2) 作物の改良方法
- 第11-12回 6. バイオテクノロジー
1) バイオテクノロジーとは?
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
(1) 倫理
(2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界 2

石崎宏矩

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどのようにクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計(生物時計)とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない(刷り込み)。刷り込みの起こる機構は?○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命—40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命—人間を含めて—の危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを書かせてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

「進化とはなんだろうか」長谷川真理子著(岩波ジュニア新書)。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

ー地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるためにー

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了（新書館）
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史（ナツメ社）
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊（丸善）
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹（PHP）
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代（草思社）
- (6) 太陽 ーその素顔と地球環境との関わりー ケネス・R. ラング著 渡辺 堯/桜井邦朋訳（シュプリンガー・フェアラーク東京）
- (7) 理科年表 国立天文台編（丸善）

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

我々は日常生活の中で、数学の恩恵を受けて暮らしている。数学は云うまでもなく膨大な内容を持つ学問体系であるが、ここではいろいろな分野の入門的・基本的な事項を解説し、演習により少しでも多く身につけることをめざす。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生命の倫理

加藤太喜子

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新書）

健康と医学

渡邊一功

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

【授業計画】

- 1) 性感染症
感染症とは 性感染症の現状と予防
- 2) 免疫とアレルギー
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学
性功能 避妊 妊娠
- 6) 胎児からの子育て
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気
一般的症状 主な病気 障害児
染色体と遺伝子異常

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて」アンケート調査後、創薬の歴史から新薬開発まで、動物実験や治験の評価法も含めて解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりのかたちと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体、危険なくすりの飲み合わせと副作用など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 最近許可されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法を解説
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端治験薬を含めた治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し、講義する。なお、何時でも「病気とくすりに関する質問」をメールで受けつけ、プライバシーを守ってお答えします。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題を取りあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪
9. 体脂肪を正しく落とす方法
10. 筋肉と運動神経
11. 健康づくりのための運動
12. Walking
13. 性のとらえ方
14. 性への理解
15. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子
寺田邦昭 門間 博

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

月曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バドミントン
火曜日	1限	松田	テニス・ゴルフ
	2限	松田	テニス・ゴルフ
	3限	山本	卓球・バレーボール
	3限	松田	バドミントン・ゴルフ
水曜日	4限	山本	卓球・バレーボール
	1限	門間	テニス・バスケットボール
	2限	門間	テニス・バスケットボール
	3限	門間	テニス・バドミントン
	3限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バドミントン
	4限	山本	バレーボール・卓球
	木曜日	1限	寺田
2限		寺田	ニュースポーツ
3限		杉山	バドミントン・テニス
3限		山本	卓球・バレーボール
金曜日	4限	山本	卓球・バレーボール
	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バレーボール
	4限	杉山	テニス・バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。(天候によって種目を変更する場合があります。)
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(300円)を必要とします。

【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用 (授業概要)

杉山 和 山本啓子 松田秀子
寺田邦昭 門間 博

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

月曜日	2限	杉山	ゴルフ
	3限	杉山	ゴルフ
	火曜日	1限	松田
火曜日	2限	松田	バドミントン
	3限	山本	バドミントン
	3限	松田	テニス
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
	3限	門間	サッカー
木曜日	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
	1限	寺田	ニュースポーツ
	2限	杉山	ゴルフ
金曜日	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
	2限	杉山	バレーボール
金曜日	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(600円)を必要とします。

スポーツ応用

杉山 和

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（600円）を必要とします。

[ゴルフ]

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習（ショート・ミドルアイアン）
- 7～8. ウッド練習（1、3ウッド）
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～14. 総合練習
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

[バレーボール]

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

山本啓子

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの迫体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ポレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

寺田邦昭

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- *第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- *天候によって種目を変更する場合があります。
- *授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[スキルトレーニング]

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

打つ技術の獲得

- バッティング（ソフトボールでの打つスキル）
- ショット（ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル）
- ストローク（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- スマッシュ（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- アタック（バレーボールでの打つスキル）
- キック（サッカー・ラグビーでの蹴るスキル）

投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス（ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル）

捕る技術の獲得

- キャッチング（ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル）

- 1週 ガイダンス
- 2～7週 主にアウトドア種目を中心に実施する。
- 8～13週 主にインドア種目を中心に実施する。
- 14週 テスト（各種スポーツにおけるスキルテスト）

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

門間 博

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明

ダブルスゲーム

〔ソフトボール〕

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

〔サッカー〕

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ文化論

勝部篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験とレポートの成績および出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

スポーツ文化論

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追究する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

英語コミュニケーション1

シャレル・A. ラインツマ

【Course Content】

This is a four skills class consisting of a wide variety of topics and some comparative cultural topics, as well as global and local issues. Students are expected to actively participate in all phases of the class, and in this way build on their abilities to use English effectively.

There will be an emphasis on students improving and expanding their basic English skills. Students will use conversation, group / pair work, activities, and projects.

【Schedule】

A variety of topics will be introduced. In addition, there may be: short videos, handouts, and written exercises.

【Assessment】

Assessments will be based on attendance, class participation, including written assignments [Attendance: 50%; in class participation: 50%]

【Textbooks】

TBA

英語コミュニケーション1

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

Students will work in groups, and will select their own topics with a purpose and an objective in mind. The following are topic for the first semester.

- Current events
- Entertainment
- Business issues
- Cultural differences
- Traveling

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announce on the first day of class.

英語コミュニケーション1

セブテンバー・スミス

【Course Content】

The focus of this course is on English conversation and listening skills. The conversation in class, both studied and carried out, will be based on social themes and issues that are of interest or concern for young adults. The ensuing discussions from the themes introduced affords a forum for use of vocabulary and speech patterns previously studied during the students' secondary education.

The classes shall be comprised of listening units, the expression of ideas and opinions on a given topic within groups or pairs, and extrapolated discussion on related topics. While some writing is required, the principal activity will be listening and speaking.

【Schedule】

The areas from which topics are to be drawn for this course include:

- 1) Men and Women, Gender and Relationships
- 2) Rights: Personal, Human and Animal
- 3) Social Behavior and Misbehavior
- 4) Ethics

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, effort made by the students to communicate in English in the class, and the semester's work. No test will be given.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

英語コミュニケーション1

サミュエル・ミラー

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate conversational skills on a variety of topics; to get them to enjoy English. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics. Each student may also be asked to give a very short presentation at some point during the semester. Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards
CAMBRIDGE)

英語コミュニケーション1

リونا・R. キャメロン

【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing; but the lesson activities will emphasise listening and speaking skills. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot during the classes in English.

【Schedule】

In each lesson, students will practice practical English in either pairs or groups.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

英語コミュニケーション1

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills.

Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express themselves using English.

【Schedule】

This will be a one semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to : -
Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V),
Natural word groups, Homonyms, Large numbers,
Word groups and Word relationships, Giving and receiving directions.

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and small tests.

【Textbooks】

Text to be announced.

【Reference】

None

英語コミュニケーション2

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

The goal of this course is to improve the students ability in reading and to teach them to write coherent essays in English using paragraph form.

Although the students will use and improve their oral and listening skills, the emphasis will be on reading and writing. The reading will be based on recent and I hope interesting topics. They will also be taught how to write and to arrange essays of at least four paragraphs logically consisting of the essay topic introduction, a minimum two paragraph explanatory body and, finally, a concluding and/or summarizing paragraph.

【Schedule】

Classes will consist of readings in English with appropriate exercises, discussion of the readings, and explanations on paragraph and essay writing.

【Assessment】

The students' grades will be based on attendance and essays.

【Textbooks】

More True Stories, Second Edition (Sandra Heyer, Longman)

英語コミュニケーション2

サミュエル・ミラー

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate reading and writing skills; to get them to enjoy English. A writing assignment - in which students will be asked to formulate sentences employing the grammar we have introduced in class or perhaps a paragraph or two on a theme - will be assigned every other week. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics.

Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards
CAMBRIDGE)

英語コミュニケーション2

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

Students will work in groups, and will select their own topics with a purpose and an objective in mind. The following are topic for the first semester.

- Current events
- Entertainment
- Business issues
- Cultural differences
- Traveling

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announce on the first day of class.

英語コミュニケーション2

セブテンパー・スミス

【Course Content】

The aim of this course is to develop writing skills, both general and analytical, through reading and writing on global topics of concern to people world-wide. The forms of writing to be explored are essay, editorial, news story, and "letter to the editor" styles of prose, using excerpts from independent media, both printed and electronic. In addition to reading and writing, some in-class discussion of the topics being studied will be required.

【Schedule】

Areas of study from which the topics are to be drawn include:

- 1) The Media
- 2) The Environment
- 3) First-World/Third World
- 4) Globalization

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, effort made by the students to communicate in English in the class, and the semester's work. No test will be given.

【Textbooks】

No textbooks will be used, but a series of reading and worksheets will be provided

英語コミュニケーション2

シャレル・A. ラインツマ

【授業の概要】

This course is designed to help students improve their communication skills. In this course students will build on skills they already possess. There will be numerous opportunities for the students to practice and hone their skills using a mix of: conversation, pair / group work, activities and projects. The students hold the responsibility for the amount of progress they make.

【授業計画】

A variety of topics will be introduced. In addition, there will be short videos, pronunciation practice, handouts, and some written exercises.

【評価方法】

Assessment is based on attendance and participation, including homework. Desire to improve and motivation will also be factored into the grades.

【テキスト】

TBA (to be announced)

英語コミュニケーション3

アラン・デイヴィーズ

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking and listening skills. To this end, students will be provided with a wide range of communication tasks designed to provide intensive practice in expressing their feelings, ideas, opinions, and so forth, on given topics. Classroom activities will include role play, small group mini-discussion, communication games, etc., and students will be given maximum opportunity to actively use English for real communication throughout the 90-minute class. A special feature of this course is the emphasis placed on learning to identify, collect and use lexical 'chunks' (phrasal vocabulary) as a powerful tool for communication.

【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Family and friends
2. Places
3. Personal experiences of life
4. Relationships
5. Talk/Tell about yourself
6. Introduction to lexical chunks

【Assessment】

Class work - 70%

Homework - 30%

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

英語コミュニケーション3

ラリー・A. パドウィル

【Course Content】

The aim of this course is to improve your speaking and listening abilities.

Many foreign language learners concentrate on grammar and vocabulary, but never use this English in actual conversation. Emphasis will be given to effectively using the English knowledge you have already acquired and then applying it to conversation practice activities. A variety of topics will be discussed. We will practice in pairs, small groups, and with the whole class.

【Schedule】

The first part of the course will be used to review fundamental English conversational patterns, particularly yes / no and WH... questions and answers. We will then go on to activities in which you can practice communicating.

【Assessment】

You will be graded on your desire to improve your English speaking and listening skills. This means actively participating in class activities. Improving your English is up to you.

【Textbooks】

A text, if necessary, will be announced on the first day of school. You should have a Japanese / English and English / Japanese dictionary.

英語コミュニケーション3

リオナ・R. キャメロン

【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing; but the lesson activities will emphasise listening and speaking skills. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot during the classes in English.

【Schedule】

In each lesson, students will practice practical English in either pairs or groups.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

英語コミュニケーション3

シャレル・A. ラインツマ

【Course Content】

This is a four skills class consisting of a wide variety of topics and some comparative cultural topics, as well as global and local issues. Students are expected to actively participate in all phases of the class, and in this way build on their abilities to use English effectively.

There will be an emphasis on students improving and expanding their basic English skills. Students will use a mix of: conversation, pair / group work, activities, and projects.

【Schedule】

A variety of topics will be introduced. In addition, there may be short videos, handouts, and written exercises.

【Assessment】

Assessments will be based on attendance, and class participation, including written assignments [Attendance: 50%; in class participation: 50%]

【Textbooks】

TBA

英語コミュニケーション3

フランソワーズ・ダフ

【Course Content】

This course is aimed at students who wish to improve their ability to talk confidently about themselves, their friends and family, their occupation, leisure activities, likes and dislikes, etc. in English.

Everyday oral communication and listening skills will be the focus the class.

Discussion of cultural issues will also be included.

The students will be expected to be active participants in all class activities.

The students will be required to keep a shared diary in English, which accounts for 40% of their grade.

【Schedule】

People: Self / Friends / Family

Day to day: Routine / Free time / Occupations

Places: My place / Travelling / The environment

【Assessment】

-Shared diary: 40%

-Participation in class activities: 40%

-Conversation test: 20%

【Textbooks】

None

英語コミュニケーション3

ポール・ルイス

【Course Content】

This course aims to take students beyond “survival” level English and allow them to begin making use of the language to express themselves. During the course, students will practice all four skills of English-speaking, listening, reading, and writing, with particular emphasis on the first two.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Each week, students will practice various activities, in small groups or pairs.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on class participation, ability, and attendance.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション3

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

The aim of this course is to improve the students' abilities to speak and listen to English by their active participation in classroom activities.

【Assessment】

Assessment will be based upon
attendance
class participation

【Textbooks】

New Person to Person 1

英語コミュニケーション4

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

The goal of this course is to improve the students ability in reading and to teach them to write coherent essays in English using paragraph form.

Although the students will use and improve their oral and listening skills, the emphasis will be on reading and writing. The reading will be based on recent and I hope interesting topics. They will also be taught how to write essays and to arrange them logically into at least four paragraph essays consisting of the essay topic introduction, a minimum two paragraph explanatory body and, finally, a concluding and / or summarizing paragraph.

【Schedule】

Classes will consist of readings in English with appropriate exercises, discussion of the readings, and explanations on paragraph and essay writing.

【Assessment】

The students' grades will be based on attendance and essays.

【Textbooks】

Even More True Stories, Second Edition (Sandra Heyer, Longman)

英語コミュニケーション4

フィリップ・サザンズ

【Course Content】

The purpose of this first year course is to take students beyond high school English and out of the textbook. The emphasis is on fluency and thinking skills.

Conversation is an extremely important skill because it is through conversation that people present themselves as intelligent, interesting (employable) adults.

Therefore, our goal is to have the most interesting conversations possible.

This is not a grammar course or a lecture course. Instead of listening to a lecture, students will be expected to get out of their seats and discuss their topics, in English, with as many classmates as possible.

The weekly activities will include conversations, playing games and even listening to music. Students will write vocabulary lists and keep a notebook.

In order to speak as much English as possible, only English will be spoken in class..

【Schedule】

- 1 - 2 Your classmates
- 3 - 4 Family, Sports
- 5 - 6 Restaurants, A special person
- 7 - 8 Personality and storytelling
- 9 - 10 Dreams / Music
- 11 - 12 Movies / Travel
- 13 Games / Test

【Assessment】

The final mark is based on classwork and homework.

【Textbooks】

Handouts from the instructor

英語コミュニケーション4

サミュエル・ミラー

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate reading and writing skills; to get them to enjoy English. A writing assignment - in which students will be asked to formulate sentences employing the grammar we have introduced in class or perhaps a paragraph or two on a theme - will be assigned every other week. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics.

Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards
CAMBRIDGE)

英語コミュニケーション4

シャレル・A. ラインツマ

【授業の概要】

This course is designed to help students improve their communication skills. In this course students will build on skills they already possess. There will be numerous opportunities for the students to practice and hone their skills using a mix of: conversation, pair / group work, activities and projects. The students hold the responsibility for the amount of progress they make.

【授業計画】

A variety of topics will be introduced. In addition, there will be short videos, pronunciation practice, handouts, and some written exercises.

【評価方法】

Assessment is based on attendance and participation, including homework. Desire to improve and motivation will also be factored into the grades.

【テキスト】

TBA (to be announced)

英語コミュニケーション10

フィリップ・サザンズ

【Course Content】

This is a discussion class. A discussion is a conversation in detail about a topic. Having discussions is a normal part of adult life. Once you learn the basics, you will be able to have interesting discussions with anyone, anywhere.

In order to have interesting, intelligent discussions, we will practice giving opinions, story-telling, summarizing and persuading by agreeing and disagreeing. Each student will research and discuss three topics. We may also watch videos.

【Schedule】

- 1 - 2 Introduction - opinions and reasons
- 3 - 4 Animal testing - News story
- 5 - 6 Discussion game 1
- 7 - 8 Summarizing - Telling stories
- 9 - 10 Controversial Issues - Discussion game 2
- 11 - 12 Refutations - Discussion game 3
- 13 Test

【Assessment】

Student scores are based on homework and classwork. If you are absent from a class, you can not receive a mark for the classroom discussion and homework for that day.

Please come to every class.

【Textbooks】

Handouts from the instructor

英語コミュニケーション10

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on the students level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announced on the first day of class.

英語コミュニケーション10

セブテンバー・スミス

【Course Content】

The purpose of this four-skills course is to utilize and develop all aspects of language learning. Using social themes and issues that are of interest or concern for young adults, the class format of this course allows an intensive exploration of these topics applying all four language skills.

The concurrent focus on speaking, listening, reading and writing provides a general strengthening of the learners' overall second-language skills and also affords the opportunity to compare the differences in English in its spoken and written forms.

【Schedule】

The areas from which topics are to be drawn for this course include:

- 1) Interpersonal Relationships
- 2) The Working World
- 3) The Supernatural and the Unexplained
- 4) The Future: Yours and Ours

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, effort made by the students to communicate in English in the class, and the semester's work. No test will be given.

【Textbooks】

No textbooks will be used, but a series of reading and worksheets will be provided

英語コミュニケーション10

アラン・デイヴィーズ

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking, listening, reading and writing skills. Students will therefore be provided with a range of integrated materials and tasks designed to develop these four language skills areas. Classroom activities will include role play, small group mini-discussion, communication games, and reading and writing practice tasks. Students will have maximum opportunity to use English for real communication throughout the 90-minute class. A special feature of this course is the emphasis placed on learning to identify, collect and use lexical 'chunks' (phrasal vocabulary) as a powerful tool for communication, both in spoken and written English.

【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Family and friends
2. People and Places
3. Memories of the past
4. Relationships
5. Talk/Tell about yourself
6. Reading skills
7. The structure and style of English writing
8. Introduction to lexical chunks

【Assessment】

Class work - 70%

Homework - 30%

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a one semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups. , Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

Text to be announced.

英語コミュニケーション10

リオナ・R. キャメロン

【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot in English during the classes.

The content will review the English that has already been learnt by students previously and increase the students' knowledge and performance in English.

【Schedule】

In each lesson, students will do many kinds of activities, individually, in pairs or groups.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

英語コミュニケーション10

サミュエル・ミラー

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate conversational skills on a variety of topics; to get them to enjoy English. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics. Each student may also be asked to give a very short presentation at some point during the semester
Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards
CAMBRIDGE)

英語コミュニケーション10

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

This course aims to improve the students' abilities in the four language skills in English by reading about and discussing in class cultural differences and writing about these topics outside of class. To be successful the students must be willing to work hard.

【Assessment】

Assessment will be based upon
attendance
class participation
homework
quizzes
essays

【Textbooks】

Culture Riddles—America

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

英字新聞記事のコピーなどを配布。

英語コミュニケーション5

安田千恵

【授業の概要】

LLを利用した主にリスニング、スピーキングの力を養成することを目的とした英語演習

【授業計画】

ビデオ、音声テープを利用し、出来るだけ大量の英語を聴き、日本語を介さず、英文をそのまま理解する力を養うと共に、聴き取った内容に対して、英語で感想を述べる練習を通じ、スピーキングの力も養成したい。

テキストは、アメリカの文化、日常生活を紹介しており演習を通して、アメリカ文化に対しての理解を深めていきたい。

又、LL機能を利用し、発音の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に、64分テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

CUBIC LISTENING CLOSING THE CULTURE GAP
(Timothy Kiggell, Kevin Cleary MACMILLAN
LANGUAGEHOUSE)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

【授業の概要】

TOEIC対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、本科目履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問(発行 アルク)
英字新聞記事のコピーなどを配布。

英語コミュニケーション6

安田千恵

【授業の概要】

リスニング、ディスカッションの演習を通して自分の考えを英語で表現する力を養う。

【授業計画】

社会や日常生活上の様々なトピックについてリスニング、表等の資料の読み取り、ディスカッションの演習を行いながら、その中で使用されている表現方法や語彙を習得し、トピックに対しての意見を英語で論理的に表現出来るよう指導する。表等の資料の読み取り練習は、TOEIC対策としても有効と思われる。

又、LLを利用して、音読の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に60分の音声テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

別途指示する。

英語コミュニケーション7

中村栄造

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手元にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを30分、リーディングを30分毎回行う。なお、毎回、授業内容に関する確認テストを実施する (30分)。

【評価方法】

授業内に行う確認テスト、およびリーディング教材の読解度、中間試験、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

英語コミュニケーション8

大鐘洋司郎

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

【授業計画】

- 第1回 何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」

授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション9

小野迪雄

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているように見える。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion: homework: reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

デイビッド・C. ダイカス

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, and discuss, these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas to essays and discussions based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test.

【Textbooks】

To be announced

コンピュータ演習1 (計算機基礎)

西荒井学

【授業の概要】

コンピュータを情報処理の道具として、効果的に利用していくための必要最小限のコンピュータ基礎知識を学習する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割やプログラミングについても触れていく。また、高度情報社会の特質や問題点にも触れ、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

1. ガイダンス、コンピュータの発展と利用分野の拡大
2. コンピュータの基本構成と利用方法
3. 基本ソフトウェアの活用
4. 情報の表現と情報量
5. ネットワークの利用 (メール, WWW)
6. ソフトウェアの機能と役割
7. 応用ソフトウェアの活用 (ドロー機能)
8. 情報処理の変遷と形態
9. ファイルとデータベース
10. まとめ、総合課題

【授業計画】

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクを必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報リテラシ (大野 豊監修 共立出版)

コンピュータ演習1 (計算機基礎)

神田幸治

【授業の概要】

OS (オペレーティング・システム) 操作、ソフトウェアやツール使用等の実習を通して、コンピュータの基本操作を感覚的かつ体系的に修得する。また、コンピュータの機能、仕組み及びその歴史や社会への影響等を含めた、コンピュータ及びその利用に関する基礎知識の理解を深める。すなわち、直感的に抵抗なくコンピュータを使用するための「センス」と「理論」の双方を学習することを本演習の目標とする。

【授業計画】

以下の計画で進めるが、受講生諸君の理解や進度にあわせて変更もありうる。

1. ガイダンス・パソコンの機能説明・タッチタイピング
2. Windows基本操作
3. ファイル概念
4. 日本語入力
5. 各種ツール (エディタ・ペイント) 利用
6. 情報倫理及びネットワーク
7. 電子メールによるコミュニケーション
8. WWWブラウザを使用した情報収集
9. ソフトウェア概観
10. ハードウェア概観及びコンピュータの仕組み
11. OSの歴史及び変遷
12. 総合演習

【評価方法】

出席並びに課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

随時プリントを配布する。

コンピュータ演習2 (文書処理)

西荒井学

【授業の概要】

コンピュータ処理を学習する手始めとして、WORDを使用し、日本語文書作成を実習形式にて学習する。また、EXCELを利用して、基本的な表計算処理を学習すると共に、Power Pointを利用して、簡単なプレゼンテーション資料作成を学習する。いずれのソフトウェア利用学習においても、その題材はビジネス分野のデータ、情報を対象とする。

1. ガイダンス
2. コンピュータの起動と基本操作
3. 日本語ワープロソフトウェアの利用
4. 文書作成の基礎
5. 文書作成での特殊機能活用
6. 表計算ソフトウェアの活用
7. 表計算と分析処理
8. 表計算ソフトウェアの作図機能
9. 表計算ソフトウェアにおける種々の機能
10. プレゼンテーション・ソフトの活用
11. まとめ、総合練習問題

【授業計画】

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクを必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。指示された課題は、必ず提出すること。

【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)。

コンピュータ演習2 (文書処理)

稲垣 宏

【授業の概要】

これからの情報化社会において、コンピュータを道具として使いこなす能力は欠かせないものになってくる。コンピュータは、人間の創造的活動を助けるための非常に強力な道具になりうる力を秘めている。

この授業では、利用価値が高いと思われる文書作成と表計算を中心に、実際にコンピュータを利用しながら情報処理のテクニックを学ぶ。使用するソフトウェアとしては、マイクロソフト社のワードとエクセルを予定している。

なお、単にコンピュータの操作方法を暗記するだけでは、あまり効果的とはいえない。使用するソフトウェアが変わったり、バージョンが上がったりするとすぐに対応できなくなってしまうからである。この授業では、単なる操作方法の解説に終わらず、少しでもコンピュータのしくみや動作を直感的に理解しながら演習を進めていけるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 文書を入力する
- 第3回 文書を編集する
- 第4回 見栄えのよい文書にする
- 第5回 表を載せる
- 第6回 図を載せる
- 第7回 タブとインデントを設定する
- 第8回 簡条書きを作成する
- 第9回 いろいろな機能を使ってみる
- 第10回 表計算ソフトの基本操作をおぼえる
- 第11回 いろいろな計算をさせる
- 第12回 見栄えのよい表にする

【評価方法】

出席と課題提出により評価する。受講者全員がいつしよに演習をすすめるので遅刻をしないこと。

【テキスト】

プリントを適宜配布する。

コンピュータ演習2 (文書処理)

吉川和男

【授業の概要】

この授業では文書の作成や編集、文書への図表の挿入など文書処理の基本技術を、マイクロソフト社のワープロソフト Word を使って学習する。

また、他のアプリケーションソフトで作成した図表、画像などを文書に取り込む方法を学ぶために、表計算ソフト Excel での簡単な表計算とグラフ作りを行い、Word への取り込みや Excel と Word を組み合わせて使う方法についても学習する。

【授業計画】

- 第1回 はじめに (文書処理について)
- 第2回 コンピュータの起動ほか基本操作
- 第3回 日本語入力システムIMEと文書の入力
- 第4回 Wordの基本操作
- 第5回 文書の編集 (エディタ機能)
- 第6回 文書の整形、レイアウト
- 第7回 練習問題
- 第8回 Wordによる図の作成
- 第9回 Wordによる表作成、計算、グラフ作成
- 第10回 Excelによる表計算、グラフ作成
- 第11回 Excel図表のWordへの挿入、編集
- 第12回 Wordとネットワーク
- 第13回 総合練習問題

【評価方法】

出席状況と受講態度、実習課題提出内容による総合評価。課題は必ず提出すること。

【テキスト】

- 使用せず
- 随時資料配付

コンピュータ演習3 (プログラム)

吉川和男

【授業の概要】

ここではプログラミング言語の一つであるC言語とアルゴリズムの基礎を学習する。

プログラミング言語は多様な発展性を持ち合わせている。たとえば、プログラミング言語を利用すると、対話型ゲームやアニメーションなどを作ることができ、また、マルチメディア技術 (画像、映像、音声など) を盛り込んだ対話型ホームページなども作れるようになる。

授業では身近なことからを例題に取り上げ、C言語やアルゴリズムの基礎を容易に修得でき、その後の応用・発展につながるように内容を構成した。

なお、C言語はJavaやPerlなどのネット対応言語の基礎言語であり、また「情報処理技術者試験」におけるプログラミング能力を問う問題の選択言語にもなっている。

【授業計画】

- 第1～4回：C言語プログラミングの概要

加減乗除の演算や文字などの画面への表示などを通して、C言語の基本的なプログラミングスタイルを学習する。

- 第5～8回：プログラムの流れの制御とアルゴリズム

プログラムでは上から順に実行するのが基本であるが、同じ処理の反復や、処理の条件による選択も必須になる。そのために使う制御文、比較演算子、論理演算子などについて学ぶ。更に、プログラムの流れを視覚的に把握するための流れ図の使い方やアルゴリズムの基礎についても学習する。

- 第9～11回：データの構造と取り扱い

数値データ、文字データあるいは単語 (文字列) などの関連データをまとめて取り扱う配列、構造体、ポインタなどの使い方について学ぶ。

- 第12～15回：関数の基本

長いプログラムを機能単位毎に分割し、全体の見通しを良くする関数について、仕組みと使い方を学ぶ。

【評価方法】

定期試験、出席率、各講義の実習課題により評価。

【テキスト】

- C言語プログラミング (山本雅基他著 デンソークリエイト)

コンピュータ演習4 (情報検索)

稲垣 宏

【授業の概要】

これからの情報化社会において、コンピュータを道具として使いこなす能力は欠かせないものになってくる。コンピュータは、人間の創造的活動を助けるための非常に強力な道具になりうる力を秘めている。

この授業では、表計算ソフトウェアを使ったいろいろな情報処理テクニックを試してみる。

表計算ソフトウェアに関しては、すでに基本的な使い方を学んでいるが、非常に多くの機能をもっているため、まだまだ使いこなしているとはいえない。

表計算というと得点集計みたいなものを想像しがちであるが、私たちの身の回りには、表の形式で表されているものがたくさんある。表計算ソフトウェアは、そういったものを扱う仕事において、大きな貢献をすることができる。また、データ管理機能も備えているため、データベースの構築や情報検索にも利用できる。

なお、使用するソフトウェアとしては、マイクロソフト社のエクセルを予定している。

【授業計画】

- 第1回 いろいろな関数を使う(1)
- 第2回 いろいろな関数を使う(2)
- 第3回 表の書式を変える
- 第4回 いろいろな種類のグラフを作る
- 第5回 データを並びかえる(データベースの構築)
- 第6回 データを抽出する(情報検索)
- 第7回 集計レポートを作る
- 第8回 データを分析する
- 第9回 データをリンクさせる
- 第10回 操作の自動化(1)
- 第11回 操作の自動化(2)
- 第12回 操作の自動化(3)

【評価方法】

出席と課題提出により評価する。受講者全員がいつしよに演習をすすめるので遅刻をしないこと。

【テキスト】

プリントを適宜配布する。

コンピュータ演習4 (情報検索)

吉川和男

【授業の概要】

データベースとは「データ群から、必要な情報を、必要に応じて自在に検索し、活用することができるデータ群」を意味する。このデータベースの考えは、たとえば、住所録、電話帳などの個人用データの管理と検索、あるいは、顧客名簿、商品リストなどの商業用データ群の管理や情報検索等に活用できる。

この授業ではデータベースを作成、活用するための応用ソフトであるAccessを用いて、データベースの設計、入力、並べ替え、検索などについて、具体的な例題を対象にしながら、ソフトの使い方の基本を修得する。

【授業計画】

1. データベース、情報検索とは
2. テーブルの作成
3. フォームの作成(1)
4. テーブルの改良
5. リレーションシップの設定
6. クエリの作成(1)
7. クエリの作成(2)
8. フォームの作成(2)
9. 課題：テーブル間連携による関連情報の検索
- 10~11. テーブル正規化ウィザードの利用
- 12~13. データベースウィザードの活用
14. 課題：データベースからの多面的な情報検索

【評価方法】

出席状況と受講態度、実習課題提出内容による総合評価。

【テキスト】

使用せず。
随時資料配付。

コンピュータ演習5 (統計処理)

三和義秀

【授業の概要】

収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法を講義で学び、その手法においてどのようにコンピュータを活用するかについて実習を行う。

【授業計画】

- 第1回 統計とは、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 Excelのデータ入力、表・グラフの作成
- 第3回 Excelの関数の使い方
- 第4回 統計量の求め方
- 第5回 度数分布表、ヒストグラムの作成
- 第6回 ドットプロット、クロス集計表の作成
- 第7回 平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の意味
- 第8回 代表値と散布度を求める
- 第9回 確率分布と正規分布
- 第10回 2項分布と標準正規分布
- 第11回 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- 第12回 散布図の作成、相関係数、回帰分析
- 第13回 検定の仕組みと方法

【評価方法】

定期試験、レポート及び出欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

Excelで学ぶ“やさしい”統計処理のテクニック
(三和義秀 共立出版株式会社)

コンピュータ演習5 (統計処理)

神田幸治

【授業の概要】

収集した種々のデータを効果的、効率的に整理、分類、加工して活用すること、そしてそのデータを分析し統計的に処理することは、コンピュータがもっとも威力を発揮する作業の一つである。本演習では、表計算ソフト (Microsoft Excel) を使用して、日常的、社会科学的、人文科学的な立場から、いくつかのデータ分析及び統計処理技術に関する実習を行なう。さらに実習を通して、データ分析に必要な統計の基礎を学習する。とりわけ、統計「学」よりもむしろ統計法的「センス」を磨くことに重点を置いた演習を実施する。本演習では、受講生自らが主体的に試行錯誤しつつ課題をこなしていくことになるので、受け身の演習参加では意味がないことに留意してほしい。

【授業計画】

以下の計画に従って進める予定であるが、受講生の理解や進度にあわせて変更することもある。

1. ガイダンス・統計について
2. Excel基本操作1：データ入力・基本計算
3. Excel基本操作2：関数・相対参照と絶対参照
4. Excel基本操作3：図表作成及びクロス集計
5. 統計データ収集・記述統計と推測統計
6. 度数分布とヒストグラム
7. 代表値・散布度・歪度と尖度
8. 確率分布と正規分布
9. 散布図・相関係数・回帰分析
10. 統計的検定の基本的考え方
11. 対立仮説と帰無仮説・片側検定と両側検定
12. 統計的検定の実際
13. 総合課題

【評価方法】

出席、受講態度並びに課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

Excelで学ぶやさしい統計処理のテクニック (三和義秀 著 共立出版)

コンピュータ演習6 (システム開発)

吉川和男

【授業の概要】

文字、数字等のデータはもとより音声や映像などのコンピュータへの入出力やその編集・加工等をしたりするコンピュータシステムは情報システムと呼ばれる。

この授業の学習目標である情報システムの設計・開発では、まず、システムが果たす要件について、人とコンピュータ間のインターフェースやソフトウェアの目的・機能の面から概要を分析する。その結果に基づいてユーザの視点から見たインターフェース等の設計、さらに、プログラム構成やハード構成などの設計を行う。引き続き、ソースプログラムを作成し、テスト・デバッグ等の不備を修正し、システムの運用・保守につなげる。

授業では、このような情報システムの設計・開発の実習を通して、設計・開発各工程における基礎知識を得るとともに、情報システムを設計・開発する能力を養う。実習では、グループによるシステム開発を体験する。開発用ソフトウェアにはVisual C++を使い、Windows上で稼働する基本的なシステムを作成する。

「情報処理システム開発と管理」は「ソフトウェア開発技術者試験」に含まれる内容の一つである。

【授業計画】

1. 情報処理システムとは
2. アルゴリズムの記述方法・構造化プログラミング
3. ソフトウェア開発工程・要求仕様・システムの検討
4. 外部仕様設計
5. 内部設計
6. プログラム設計
7. テスト仕様設計
8. コーディング
9. テスト・デバッグ
10. システムの管理・運用

【評価方法】

各工程実習で作成するレポート（開発ドキュメント他）と開発したシステムの成果（品質）により評価を行う。

【テキスト】

C言語プログラミング（山本雅基他著、デンソークリエイト）

コンピュータ演習7 (インターネット)

長谷川達也

【授業の概要】

コンピュータネットワークは新しいコミュニケーションの形態を生み出し、あらゆる社会システムに「情報化革命」を起こそうとしています。この講義では、インターネットを中心に、ネットワークを肌で感じ、少しでも活用できるようになることを目標としています。

1. コンピュータとネットワークのしくみ

コンピュータの構造（ハードウェア）と動作原理（ソフトウェア）について復習します。またコンピュータネットワークを構成するハードとソフトについても解説します。

2. デジタル画像情報の作成

ネットワークで利用されるデジタル画像情報の特徴と作成手順について説明し、実際に自画像などの画像を作成します。

3. インターネットとは何か

インターネットの生い立ちとしくみ、なにができるのかについて解説します。

4. インターネットの利用

電子メールやWWWの利用法について解説するとともに、実習を行ないます。

5. ホームページの作成

ホームページ記述言語であるHTML言語について解説し、デジタル画像を取り込んだホームページを作成し、ネットワーク上で公開してコミュニケーションを行います。

6. インターネットの問題点と将来

インターネットは情報の質、著作権、セキュリティなどの問題を抱えています。それらの問題について取り上げ、方策や将来像について考えていきます。

【授業計画】

講義だけでなく、マッキントッシュによる実習を多く採り入れてネットワークの利用法を学びます。

【評価方法】

学内LAN利用講習会を受講し、電子メール、WWWの利用の仕方について、事前に講習を受けた学生に限ります。成績は、出席、小テスト、レポート、ホームページのできばえて総合判定します。

【テキスト】

使用せず。

コンピュータ演習7 (インターネット)

杉浦藤虎

【授業の概要】

コンピュータネットワークは、人と人とを結びつけるコミュニケーション形態として現在では学校や職場になくはない存在です。国際的ネットワークから家庭内ネットワークに至るまで、さまざまな目的のネットワークがうまく協調して成り立っています。本講義では、インターネットを中心としたコンピュータネットワークの概念から利用技術、情報の質やセキュリティなどに関する問題点や将来像に至るまでを、演習を通して理解することを目標としています。具体的には主にホームページを記述するための専用言語であるHTML言語を利用してその概念や仕組みを平易に解説します。テキストエディタのみを用いて講義を進めていきます。

【授業計画】

1. ガイダンス (コンピュータの仕組みについて)
2. インターネットの生い立ちと仕組み
3. インターネットのサービスと問題点
4. HTML言語演習1 (WWWとは)
5. HTML言語演習2 (HTMLの基本構造)
6. HTML言語演習3 (見出しとリスト)
7. HTML言語演習4 (表と画像の挿入)
8. HTML言語演習5 (写真集の作成)
9. HTML言語演習6 (リンク: 特定位置へのジャンプ)
10. HTML言語演習7 (アニメーションの挿入とリンク)
11. HTML言語演習8 (スタイルシート)
12. HTML言語演習9 (JavaScript)
13. 総合演習

【評価方法】

出席状況、実習課題などにより総合的に評価します。実習は操作途中からでは理解できない可能性があるため遅刻は厳禁です。遅刻2回で1回の欠席とみなします。なお、受講に際して事前に学内LAN利用講習会に参加し、WWW利用に関する規約を理解していること。

【参考文献・資料】

プリントを配布します。

コンピュータ演習8 (プレゼンテーション)

宮崎慎也 山田雅之

【授業の概要】

パソコンの高性能化と低価格化により、個人が高品質なドキュメントを用いて自由な表現を行える環境が容易に手に入るようになった。それに伴い、プレゼンテーション能力が当然のように要求される場面が多くなってきた。授業では、DTPで広く用いられているPageMakerとパソコンプレゼンテーションの定番であるPowerPointを用いた実習を通じて、ドキュメントの表現力とプレゼンテーション能力の向上を目指す。

【授業計画】

1. 基本操作
2. 作図
3. 作図課題
4. レイアウト
5. オブジェクトの割り付け
6. 印刷について
7. ポスター課題
8. 論文フォーマット
9. PDF文書作成
10. HTML文書作成
11. スライドプレゼンテーション
12. プレゼンテーション課題
- 13.

【評価方法】

出席状況と提出課題によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。

コンピュータ演習9 (画像処理)

石丸 緑

【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理の基礎を学習する。
2次元画像の作成・加工のプロセスを体得し、作品制作までを行う。

【授業計画】

- 1 ガイダンス (画像処理) Photoshopの基本操作
- 2 画像合成演習ー選択範囲、マスクの作成
- 3 画像合成演習ーレイヤー作成
- 4 画像合成演習ーペイント、レタッチ
- 5 画像合成の実践ーカラージュ作品制作
- 6 Illustratorの基本操作
- 7 パスによるオブジェクトの作成 (Illustrator)
- 8 テキストのデザイン (Illustrator)
- 9 グリーティングカードの作成 (Illustrator)
- 10 IllustratorとPhotoshopの連携
- 11 テーマ課題 (実習)
- 12 テーマ課題 (実習)

【評価方法】

出席状況と提出課題
(3課題)の評価採点。

【テキスト】

ビジネスで使いこなすAdobe Illustrator8.0 (アドビシステムズ株式会社1,600円)
ビジネスで使いこなすAdobe Illustrator5.0 (アドビシステムズ株式会社1,600円)

コンピュータ演習10 (音処理)

渡邊 康

【授業の概要】

コンピュータによるサウンド処理技術の基礎を学習する。音データの編集・処理・音楽ファイル作成の実習を通して、サウンド処理の基本原則とプロセスを体得する。さらにオリジナル作編曲への導入部分にも触れる。

【授業計画】

- (1) 授業概要、メディアランドの利用法、Mac Osの基本操作
- (2) MacintoshのAV機能
- (3) Sound Edit 16) チュートリアル
- (4) Sound Edit 16) 目覚まし音制作
- (5) Sound Edit 16) ムービーサントラ制作
- (6) Sound Edit 16) ムービーサントラ制作
- (7) 発表
- (8) EZVision) 課題曲の打ち込み
- (9) EZVision) 課題曲の打ち込み
- (10) EZVision) オリジナル小曲の作制
- (11) クリップサウンド制作
- (12) クリップサウンド制作
- (13) 発表

【評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度の総合評価。

【テキスト】

毎回プリント配布

コンピュータ演習11 (映像処理)

辻 紘良

【授業の概要】

最近では高度な映像処理がパソコンを用いて誰にでも簡単にできるようになっている。ここではデジタル映像処理技術の基礎を学習するとともに、ビデオ素材の処理・編集操作を体験的に学習する。ビデオ素材の作成からムービー作成までを行うことにより一連のデジタル映像処理プロセスを習得する。

毎回、講義の前半は映像処理理論と操作法の説明、後半はパソコンを用いた映像処理の実習を行う。

【授業計画】

1. デジタル映像処理概論
2. デジタルムービー作成のプロセス (シナリオ、カット表)
3. 8m/mビデオカメラの使い方と撮り方
4. 映像とサウンドの取り込み
5. 効果 (画面転換) の使用
6. 文字と画像に特殊効果 (フィルタ) を付ける
7. 映像のモーション設定 (回転、移動、変形)
8. 文字と画像のスーパーインポーズ (重ね合わせ)
9. タイトル画面の作成と文字アニメーション
10. ムービーのコンパイルとビデオテープへの録画

期末には各自小規模なムービーを作成する。それを授業内で発表しかつ期末の課題として提出する。

ビデオカセット、MOは各自用意すること。8 m/mビデオ・カメラは貸し出しする。

【評価方法】

課題の提出状況や期末作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

コンピュータ演習12 (シミュレーション)

辻 紘良

【授業の概要】

コンピュータシミュレーションによりいろいろな社会・経済システムの分析が可能。最近では、情報技術の進展によりパソコンでもシミュレーションが容易にできるようになっています。

ここではシミュレーションの基礎を学習するとともに、パソコンソフトを用いて社会・経済システムのモデル化とシミュレーション分析手法を体験的に学習します。これによりシミュレーションのモデル作成から実行・分析までの一連のプロセスを習得します。

【授業計画】

講義の前半はシミュレーションの理論と基本的な言語の説明、後半は簡単なシミュレーションモデルの作成と実行・分析を行う。

1. シミュレーション概論
2. シミュレーションの体験
3. ネットワークによるモデル化
4. 窓口と待ち行列の表現
5. 要素の流れの選択や統合・分解
6. 待ちファイルの操作、外部データとのI/F
7. 事象処理ロジックと制御文
8. 外部ソフトを取り入れた離散型シミュレーション
9. シミュレーション例
 - 生産管理システム
 - 救急介護システム
 - 臓器移植システム

【評価方法】

授業中の課題や期末の課題提出の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Visual SLAMによるシステムシミュレーション改訂版
(森戸晋他著 共立出版 2001)

言語文化論

小野迪雄

【授業の概要】

＜多言語・多民族の複合社会＞といわれるアメリカの社会について、考えてみる。植民国家としてスタートしたアメリカには、後に労働力の必要などもあって大量の移民を受容するが、同時に他国にはみられない奴隷制度の後遺症をかかえた、複雑な社会事情がある。講義ではそのうち、主にアメリカの文化地理（人口移動と文化的多様性）、宗教、言語、文学の面から考察する。

上記の四つのテーマを手掛かりとしてアメリカの社会をみていくが、当然、他の諸分野にもふれなければならないが、それはテーマの理解を掘りさげるためのきっかけとしたい。

【授業計画】

講義形式で授業を進めるが、進度に合わせてレポートの提出もある。

【評価方法】

試験を中心とし、レポートの内容や受講の意欲を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを随時配布。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

社会学概論

谷口 茂

【授業の概要】

社会学は、人間同士の関係に視座を据えて、個人・社会集団・社会事象について研究する学問である。授業では、わが国現代社会を、総合的・実証的・人間志向的観点から、検討・分析することによって、その実像に迫ることとする。

そのさい、わが国現代社会が直面する、4つの大きな潮流を手掛かりとして、その現状を把握し、その問題点にメスを入れ、将来の展望を探りたい。

1. 経済システムの転換
2. 情報化
3. 国際化
4. 少子・高齢化

【授業計画】

講義方式で授業を進めていくが、小テストを数回実施し、これを採点・返却することによって、レポートの書き方を指導することも考えている。

【評価方法】

期末試験の成績と小テストの成績にもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その代わりに、資料を作成して配布する。

フィールドワーク論

谷沢 明

【授業の概要】

フィールドワークとは、現地調査・野外研究のことである。社会の事象を把握し、実証的に解明する手法として、このフィールドワークはきわめて有効な手段となりえる。フィールドワークの三要素は、「あるく・みる・きく」という行為であろう。まずは資料を探訪するために自らの足で歩く。そして物事を自分の目で深く見つめる。さらに地域で暮らす人々の話に謙虚に耳を傾ける。それがフィールドワークの基本である。このようにモノに対峙し、人間の営為と意志を読み取る作業をおし、本物を見きわめる目と洞察力を養ってほしいと願っている。

【授業計画】

1. フィールドワークとは何か～あるく・みる・きく～
2. 景観を読む～ムラの風景から人間の営みをみる～
3. 風土と地方色を探る～日本の民家から～
4. 日本文化を探る～住まいをとおして～
5. 生活文化を探る～居住形式から～
6. 民俗芸能の見方～奥三河の田峯田楽～
7. 民俗芸能の見方～奥三河の花～
8. 街の見方・調べ方
9. 宮本常一のフィールドワーク論
～師から学んだもの～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

統計学概論

根本二郎

【授業の概要】

推測統計学について講義します。統計学的な考え方や統計的手法は、実社会においてますますその必要性が大きくなっています。特に、大量の情報があふれる現代社会では、情報処理のツールとして統計学を欠くことはできません。この講義では、基本的には下に挙げた教科書（「新・涙なしの統計学」）に沿って講義を進めますが、必要に応じて実際のデータ分析の紹介も行います。

【授業計画】

下記テキストのうち「新・涙なしの統計学」の目次を参照して下さい。

【評価方法】

期末試験と出席状況で評価します。

【テキスト】

D. ロウントリー「新・涙なしの統計学」（加納悟 新世社）

【参考文献・資料】

なし

経済学概論 I

秦 忠夫

【授業の概要】

大学生もすでに経済社会の一員で、「経済」はみなさんの身近なところで動いています。しかし、漠然としていて奥行きが深いため、どのような仕組みで動いているのか大いに興味はあるが理解を深めるてかがりがつかみにくいと思っている人が多いのではないのでしょうか。経済の動きがわかるようになるためには、まず経済学の基本を一通り勉強し、現実の動きを興味をもってフォローしていくことが大切です。この講義は、経済全体の動きを分析対象とするマクロ経済学の基礎を習得してもらうことを主たるねらいとしています。単に理論の説明に終わらず、できるだけ現実の日本経済の動きと関連づけて解説する方針です。

解説がていねいで入門書として最適と思われる下記のテキストを使用して、マクロ経済学の基礎を一通り幅広く勉強します。必要に応じ補足資料を配付します。

【授業計画】

講義形式。理解を確かめるため時々小テストを実施します。

【評価方法】

期末試験と小テストの結果を総合して評価します。

【テキスト】

マクロ経済学・入門（第2版）（福田慎一・照山博司著 有斐閣 2,100円）

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介します。

経済学概論 II

荒山裕行

【授業の概要】

社会は家計と企業によって構成されている。それらを結びつけているのが市場（しじょう）である。ミクロ経済学は、家計、企業、そして市場の働きを理解するための理論、すなわち道具である。この道具を身につけることで、私たちの身の回り経済活動の多くがいと簡単に理解可能になる。

【授業計画】

- 1 ミクロ経済学の考え方
- 2 市場の均衡
- 3 家計の行動
- 4 消費の理論
- 5 需要曲線
- 6 さまざまな財：代替財と補完財
- 7 企業の理論
- 8 供給曲線
- 9 完全競争
- 10 独占と寡占
- 12 不完全な市場：公共財
- 13 不完全な市場：外部性
- 14 所得分配：賃金と利率
- 15 何が明らかになったのか

【評価方法】

中間レポート（30%）と期末試験（70%）の合計得点で評価する。

【テキスト】

『明快ミクロ経済学』 荏開津典生 日本評論社

【参考文献・資料】

経済に関連する図書館の本、インターネット情報、テレビ・ラジオ番組、毎日配達される新聞などの全てが生きた「参考文献」になる。これらを大学生活の一部分に取り入れること。

社会心理学

石田米和

【授業の概要】

大きく変容する社会経済環境への“適応・不適応”をキーワードにして、人と人、人と社会の間に生ずる様々な現象を解明し、人間や社会の在り方についての洞察力、問題解決能力等を養っていくことを主な目的とする。

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

【評価方法】

- ・真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。
- ・評価はレポート提出、定期試験、受講態度により行う。

【テキスト】

未定。

コミュニケーション論

松本雄子

【授業の概要】

本講義では、コミュニケーション研究の領域を概観し、基本的な概念を学ぶ。ここでのコミュニケーションは人間の活動だけに限定し、その様々な形態を見ていくことによって、その特質を考える。

さらに、現代社会において重要視されているメディアとの関わり合いについても論じ、情報化が社会に及ぼす影響を及ぼすのかを考えていく。

【授業計画】

コミュニケーションの基礎概念を学び、コミュニケーションという学問の見方または考え方の理解を深めることを目的とする。そのために、様々な形態のコミュニケーション—個人内コミュニケーション、対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション、異文化コミュニケーション、レトリカル・コミュニケーション、マスコミュニケーションなど—を考察して、コミュニケーション全般的な特徴を考察する。

授業の進め方としては、テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。

【評価方法】

成績は学期末の試験をとくに参考とするが、出席状況や授業への参加度も考慮する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション（古田暁 監修 石井敏、岡部朗一、久米昭元 著 有斐閣）

文化人類学

水口千里

【授業の概要】

文化人類学は、一般的に他民族を対象とする異文化理解の学問だと認識されてきた。しかし、私たちにとって「異文化」は、必ずしも他民族社会にのみ存在するのではない。日本の中でも、地域や世代による生活習慣の違いに「異文化」を意識することが少なくない。本講義は、日本に伝わる事例も視野に入れ、現代社会と比較検討して「自文化」を理解することを目的とする。スライド、ビデオなど視聴覚教材も併用する。

【授業計画】

- 第1講 概論1 文化人類学と関連学問
第2講 概論2 フィールドワークとデスクワーク
第3講～6講 各論1 精神社会をひもとく
1. 天国と地獄・あの世とこの世
2. おばけ・幽霊・妖怪
3. ねがい・うらない・おまじない
第7講～9講 各論2 食をとりまく文化を読む
1. 「とりあえずビール」と一気コール（飲酒の意味）
2. 本膳料理から合コンへ（宴会の型）
3. デパ食からファミレス・回転寿司へ（外食の発展）
4. 雑煮とクリスマスケーキ（行事食の変貌）
第10講～第11講 各論3 贈る文化を探る
1. ギフトとプレゼント
2. 贈与交換が生み出すもの
第12講～13講 各論4 外国人から見たニッポンを知る
1. 海外博物館の日本コレクション
2. 海外の日本研究者が求めたもの
第14講～15講 総論 異文化から自文化を理解する

【評価方法】

出席状況と講義時間中の小レポートおよび講義最終時間におこなう単位認定試験（論述形式）でおこなう。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は講義時間中に適宜紹介する。

政治学概論

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、イスラム原理主義および政治指導者について重点的に取り上げたい。

【授業計画】

- 国内政治と国際政治
 - 戦後世界における国際関係
 - トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
 - 政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
- 市民社会と大衆社会
 - 市民社会と古典的デモクラシー
 - 大衆社会とマス・デモクラシー
 - 立法国家と行政国家
- 「55年体制」の成立とその崩壊
 - 冷戦構造と55年体制との関連
 - 日本の政治風土－田中角栄の場合－
- 政治権力
 - 権力とは何か
 - 王権神授説→社会契約論→“人民”の支配
 - リーダーシップ
 - マス・メディア、シンボル

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートとテキストの持込を許可する。

【テキスト】

現代政治学の基礎 増補改訂版（西尾林太郎 早稲田経営出版 2,000円）

法学概論

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

教育学概論

江藤恭二

【授業の概要】

教育の概念の説明に始まって、教育の史的展開を日本を中心にして述べ、教育内容・方法の問題、教育行政のしくみを明らかにし、さらに現代教育の諸問題について触れる。教育の原理的・史的基盤から、実践的問題を明らかにして、教育学のパースペクティブの把握につとめる予定である。

【授業計画】

1. 教育とは何か（2回）
2. 教育のあゆみ（4回）
3. 教育内容と方法（2回）
4. 教育行政のしくみ（3回）
5. 現代教育の諸問題（4回）

【評価方法】

授業のさいの小テスト（3 or 4回）とレポートによる。

【テキスト】

とくに定めずプリントを適宜配布する。

ジェンダー論

國信潤子

【授業の概要】

近年、公的文書などにもジェンダー (gender) ということが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に期待される役割、意識、行動様式などの性別区分を指す。新世紀にはいり従来の固定的性別分業とは異なり、個性的な新たな社会的役割行動様式をとる青年たちが増加してきている。そこには固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮があり、独創性にあふれている。これからの経済・社会的自立、生活面での自立などを目指す生き方を共に考える。

【授業計画】

この講座では現代社会におけるジェンダー関係を社会学的な統計データなどで紹介し、現代日本における女性・男性の社会的位置付けを国際比較をしつつ考察する。また各種法制の変革、国際条約・規約などにみるジェンダー関係変容を考察し、日本におけるジェンダー関係の将来を展望する。大半は講義形式である。ビデオ視聴、グループ討議なども一部取り入れる。テキストの他に随時資料を配付する。

【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、授業後の感想カードなどの総合評価による。

【テキスト】

「女性学・男性学～ジェンダー論入門～」有斐閣 伊藤國信他著 2002年刊

【参考文献・資料】

- ・「日本のフェミニズム」全7巻、付録8巻(岩波書店刊)
- ・「女性のデータブック」第3版 有斐閣

都市環境デザイン概論

吉田邦彦 河辺泰宏 垂井洋蔵 日色真帆
太田 裕 清水裕二 齋藤基之 高橋敏郎

【授業の概要】

都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明する。この講義を通して都市環境デザインの全体像とそのひろがりを理解するとともに、建築と都市に関する今日のテーマについてその一端を紹介する。

一級建築士受験資格の取得を目指している人には、本科目は必修科目であるので、必ず受講すること。

【授業計画】

8名の教員で担当し、それぞれが専門とする分野から、基本的で、興味深い話題を提供する。

街づくり、オフィスデザイン、インテリアデザイン、室内環境、現代都市建築、都市の防災、歴史的建造物の維持・再生、立体的に複雑な都市空間等のトピックスを取り上げる予定である。

講義を中心とするが、テーマによっては、学生からの発表をもとに議論する。

【評価方法】

各担当教員による授業期間中の小レポートと、期末に課題に従って提出するレポート、および出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリント教材を配布する。

特別セミナー

石田好江 石橋千鶴子 大嶽浩 大西誠 小川明子 齋藤基之
清水洋 清水裕二 谷沢明 垂井洋蔵 辻絃良

【授業の概要】

(1) **趣旨**：高等学校教育から大学教育への円滑な移行を図り、入学後の基礎教育の推進を目的に、各種研修的行事への参加によるレポート作成指導を中心とした、「特別セミナー」を実施する。

(2) **目的**：学生が担当教員（アドバイザー）とのコミュニケーションを深め、入学後の大学生活における勉学の目的意識を育むとともに、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

(3) **指導方法**：担当教員がクラス単位で指導する。

(4) **注意事項**：担当教員からの連絡・課題図書等の指示、及び現代社会学会研修行事開催の案内は掲示で行うため、掲示に注意すること。また、学生は積極的に担当教員を訪ね、指導を仰ぐこと。

【授業計画】

以下に指定するものの中から学生が選択をし、レポートを年に2回以上提出し、担当教員が指導・評価する。

<必須>

(1) エンカウンターキャンプの観察レポート

(病気等の理由でキャンプ不参加の学生は、博物館・美術館等の見学レポートをこれに代える)

<選択>

(1) 担当教員の指定する課題図書の読書感想文

(2) 現代社会学会主催の研修旅行への参加と観察レポート

(3) 現代社会学会主催の講演会への参加と感想レポート

(4) 学内で行われる各種研修行事への参加と感想レポート

(5) 学外で行われるボランティア等体験学習への参加と感想レポート

(6) その他担当教員が認めるもの

【評価方法】

レポート（2回以上提出）による

【テキスト】

課題図書は、担当教員が指示する

基礎演習

石田好江

【授業の概要】

現代社会の特質は、消費社会、管理社会、脱産業化社会、情報化社会など様々にとらえられている。前半は、そうした現代社会についての理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献、論文、新聞記事を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に、各自テーマを設定し、そのテーマについて調べたことを報告する。成果は、そこでの討論やコメントをふまえ、レポートとして提出する。

あわせて、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）やレポートの作成方法、文献・情報検索の方法等を学ぶ。

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメントーターは予め決めておく。また、発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

授業の中で指示する。

基礎演習

石田米和

【授業の概要】

人間関係、社会文化の在り方とコミュニケーション、メディア等との関連について、広範囲に学習し議論します。グループに分かれてのテーマ研究（サブ・ゼミ）も行います。

【授業計画】

大別して、以下のような内容を計画しています。

- ・社会科学やコミュニケーション、メディアに関する基礎理論、方法論について
- ・メディアの特徴と社会文化的機能
- ・メディアの影響（生活、産業、文化、心理等）

【評価方法】

受講態度、レポート提出、課題発表、試験、グループ研究（サブ・ゼミ）

【テキスト】

現代メディアを学ぶ人のために（有山、津金著 世界思想社）その他のテキストは未定

【参考文献・資料】

未定。

基礎演習

石橋千鶴子

【授業の概要】

英字新聞、その他の英文資料講読およびゲストスピーカーのセミナーを通して世界の動きを学ぶ。具体的な問題に焦点を当てて考察する。問題の背景を知り、内容把握から意見交換に発展させ、理解を深める。

同時に、英語語彙力および読解力の強化もはかる。

【授業計画】

外国の事情に対する理解を促すため、各学期2回程度ゲストスピーカーを招き、教育・文化・家庭・経済・失業問題・女性の社会進出・NGO、その他受講生が興味を持っているテーマを選び、自国の状況を語ってもらう。その中で各自興味を持ったトピックを選び、調査・報告する。

共通語としての英語を使って、異なる文化の人と直接コミュニケーションを持つことの重要性和面白さを実感してもらい、異文化理解を促したい。

【評価方法】

レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

英字新聞記事のコピーなどを配布。

基礎演習

太田浩司

【授業の概要】

Introduction to Research

人間はだれもが“naive scientist”だと言われています。人々は毎日の生活の中で、様々な場所から刺激、つまり情報を集め、即時に分類・反応をしています。このすばらしい能力はすべての人間に生まれつき備わっているものですが、複雑化、多様化、そして情報にあふれた現代社会では、さらに高度な情報収集・分類・分析テクニックが必要になっています。そこでこの基礎演習では様々な形式の情報を発見、収集、分類、分析、提示をする知識と技術の基礎を身につけることを目標としたいと思います。春学期には文献調査やコンピューターを使用した情報収集の方法などを勉強し、秋学期には調査によって集めた情報を効果的に整理し、口頭発表にまとめあげることを特に強調したいと考えています。

詳しい授業内容については春・秋学期の最初の授業でお知らせしますが、一応以下の内容を扱うつもりです。

1. 文献調査の仕方とデータベース
2. アンケート調査
3. コンピューターによる情報整理と分析
4. インターネットによるコミュニケーション
5. プレゼンテーション技術
6. 画像加工
7. 認知と情報プロセス

【評価方法】

実習、発表、論文

【テキスト】

未定

基礎演習

大嶽 浩

【授業の概要】

新聞記事（報道）にみられる法概念（制度）の学習を通して、現代社会の諸現象の理解（説明・解釈・批判）に努める。

【授業計画】

授業日以前、1週間の報道の中から、興味のある事件をとりあげ検討する。

その際、種々の辞書、書籍などを参考にして、報道で使用された「用語」の正確な理解に努める。

なお、演習参加者には意見発表を求めるが、レポートの提出も随時要求する。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

基礎演習

大西 誠

【授業の概要】

現代社会における課題発見と問題解決のための基礎知識と技法を学ぶ。

文献や資料の調査・収集・整理の仕方、各種メディアの活用法、レポート・論文の作成法の基礎を身につける。

【授業計画】

指導は、下記のようなもので構成される。

1. オリエンテーション（基礎演習の目的）
2. 資料調査の基本
3. 情報・テキストの読み取り
4. 映像レトリック
5. 「地域」の意味
6. 「国際」問題の所在
7. 論文作成の基礎
8. 口頭発表と討論
など

自分のテーマ・課題を発見し、本格的な演習に取り組む姿勢を身につける。

【評価方法】

授業への参加度、課題レポート、口頭発表や討論参加と期末の小試験などで総合評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習

小川明子

【授業の概要】

文献講読、調査、レポート、発表、議論など、大学で必要とされる基本的なスキルを一通り学ぶことを目標にする。

題材としては、地域とメディア、メディア表現と市民社会などを考えているが、時事問題や参加者の希望を取り入れつつ、柔軟に考えていきたい。

基本的には、各自が設定するテーマについて自ら調べ発表するという形式だが、ディベートや映像作品等の発表、鑑賞なども折りこんでゆきたい。

【授業計画】

- I. 年間計画提示
- II. 地域メディア論 論文講読（日・英）
- III. 地域メディア調査（東海地方）
- IV. 発表・プレゼンテーション

【評価方法】

授業態度、発表などから総合的に評価する

基礎演習

五島幸一

【授業の概要】

タームペーパーや卒業論文を書くことを目標にして、実際の書き方や資料の検索の仕方を学ぶ。論文のテーマの決め方、アウトラインの書き方、注の付け方、および章または節のたて方などを考える。

また、各自で自分の興味にあったテーマを探しだし、それに沿って、資料の収集を行う。そして、その資料をもとにしてプレゼンテーションをする。

【授業計画】

論文の書き方では、テキストを中心に学ぶ。資料収集とは図書館にて作業をする。

【評価方法】

授業への参加度および2回のタームペーパーにて評価する。

【テキスト】

論文の書き方（澤田昭夫著 講談社学術文庫）

基礎演習

榊原國城

【授業の概要】

この演習の主題は、学生自身が、自らの主体的な態度に基づく勉学や研究の基礎となる原則的方法や態度を身につけることである。また、現在の心理学研究法を概括的に紹介し、その一部を体験させる。

基礎演習の内容は、レポートの書き方、文献の紹介の仕方などから始まって、観察法・実験法・面接法・調査法・検査法などの心理学研究法概観である。講義、実習、討議などの方法を用いて授業を進める。

【授業計画】

前期 科学的研究の進め方等。

後期 観察法、実験法、面接法等。

【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

【テキスト】

授業時に指示する。

基礎演習

坂元 多

【授業の概要】

映像作品制作につながる基礎的文献の解説や基礎的知識の修得を演習形式で行う。演習では、映像で効果的にメッセージを伝達するための編集や撮影の基礎的技術、理論を学ぶが、課外の時間で実際の作品制作の実習が求められることがある。

【授業計画】

教員から指示される文献や映像作品の理解ばかりでなく参加学生の提案する文献や映像作品の評価、分析を討議を通じて行うことで、各自の映像に対する態度、感性が試されるようにしたい。

【評価方法】

各自の提出するレポート、映像作品をもって評価する。

【テキスト】

特になし。

基礎演習

清水 洋

【授業の概要】

この演習は、「アジアと日本」をメインテーマとし、アジア社会の発展要因や日本との関わりなどについて多角的に考察する。アジアには様々な国がある。たとえば、膨大な国土と人口をもち、石油などの天然資源に恵まれたインドネシアは、1998年に崩壊したスハルト政権の長期化の弊害などにより経済発展が遅れており、政権も不安定である。その一方で、淡路島と同じぐらいの狭い国土をもち、人口が僅か400万人（外国人居住者を含む）のシンガポールは、天然資源も殆どなく、水でさえ隣国のマレーシアに大きく依存している。それにも拘らず、この小国は、1965年の独立以降、日本や米国などの多国籍企業を積極的に誘致して急速な工業化を遂げ、今日ではアジアNIES（新興工業経済群）の一つとして世界の注目を集めている。

【授業計画】

毎回、テキスト、新聞・雑誌記事などを使って、アジアに関する基礎知識（政治、経済、文化、社会など）を身に付ける。また、文献の集め方・使い方・レポート作成の方法なども適宜教示する。

【評価方法】

授業への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

シンガポールを知ろう！—政治・経済・社会（日本シンガポール協会）

アジア政治を見る眼—開発独裁から市民社会へ（岩崎育夫 中公新書）

基礎演習

竹村 弘

【授業の概要】

大勢の人の前で自分の意見を述べたり、相手と意見交換をして一致点や妥協点を見出したり、オピニオン・リーダーとしてグループの総意を取りまとめるためのディベート訓練を行います。

広範な知識や良いアイデアを持っていても、相手にうまく伝わらなかつたり、相手の同意を得ることができなくては、何にもなりません。面談、会談、議論、討論などは、声高に相手を説得し、無理やり屈伏させるものではなく、穏やかに、辛抱強く、論理的に、時にはユーモアを交えて、さりげなく自己主張し、相手を味方につけさせるためのものです。それには、周到な準備と十分な実施訓練が必要です。

【授業計画】

1. 「グループ討論」

少人数のグループに分かれて、最初は身近なテーマから、後半には地域や日本の経済社会問題、地球規模の環境問題まで、広範なテーマについてグループ討論を行い、ディベート能力の向上を図ります。

2. 「5分スピーチ」トレーニング

自ら選択したテーマの論文について、自分のコメントを発表する。テキスト『日本の論点』文芸春秋社

3. バーチャル株式投資

バーチャル株式取引所で株式投資を体験することにより、株式投資の仕組みを理解し、同時に、日本経済の動きについての関心を高める。

4. 『21世紀いろはカルタ』製作

福沢諭吉の「世紀歓送迎会」に倣って、20世紀とともに葬むべき悪弊、21世紀に実現したい理想等を読み込んだ『いろはカルタ』を製作し、大学祭で展示、発表する。

5. 文献講読

後期は、G. スペンスの『議論に絶対負けない方法』をテキストに、文献講読を行います。各章毎に、コーディネーター1人、レポーター4人のチームで、ポイントを報告し、全員で討論をしますが、コーディネーターの役割は、一人ひとりに自分の考えを発言させ、討論を盛り上げることです。

【評価方法】

討議、発表などを総合的に評価。

【テキスト】

プリントおよびG. スペンス『議論に絶対負けない方法』

基礎演習

谷沢 明

【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで地域文化を探る」。

「歩く・見る・聞く」の三つの行動をとおして、歴史的な文化遺産を活用した地域文化の振興などを考える。基礎演習の目的・内容は、次のとおり。

1. 物事の本質を見極める目を養う

フィールドワーク（野外調査）を通して、地域社会の文化や民俗を探求する。学生が街や村を歩き、人々の生き方や暮らしを学び、体験する。それら観察した事象を通して、人々の営みと意思を読み取る訓練を重ねていく。そして、これらの作業を通して物事の本質を見極める目を養う。

2. 歴史・風土・文化を生かした地域づくりを考える

21世紀の日本は、自然や文化を重視した誇りの持てる地域づくりが課題となっている。そのためには、歴史や風土・地域特性・文化的蓄積を生かした自立的な地域づくりが必要である。また、それぞれ個性を持った地域間の連携と交流による地域づくりが求められている。これらを踏まえて、新しい文化と生活様式を創造する多様性のある地域づくりの在り方を考えていく。

3. 地域社会の文化・民俗を調べる

地域社会の文化については、歴史的な文化遺産の継承とまちづくり・地域文化の振興・地域特性などを中心に調査・研究を行う。また、地域社会の民俗では、有形・無形の文化遺産をとおして生活文化を調査・研究する。

【授業計画】

前期：フィールドワークの基礎を学ぶ

(学外教育を5回程度実施する)

後期：歴史的な文化遺産を活用した「まちづくり」の研究

【評価方法】

フィールドワークへの参加、発表、レポートによる

【テキスト】

田村 明『まちづくりの実践』(岩波新書)

その他、適宜参考資料を提示する

基礎演習

千葉善根

【授業の概要】

戦後、日本の食生活が大きく変わり生活習慣病などが増加している。それに伴い平成のはじめ、厚生省等から日本型食生活を奨める指針が出され、昔の食生活に戻ることが提案されている。また、最近では「粗食」に関する出版物が目につく。

これらのことから、昭和二十年代以前の日常の食生活は勿論、冠婚葬祭、年中行事等と食との関係およびその背景を探り、現代人の「生活」や「食」との違いを比較してみたいと考えている。

【授業計画】

各自が「食」に関わる故事、名言、川柳、雑俳、歳時記、新聞記事などから自由にテーマを選び話題提供をし、それをもとにディスカッションをする。

【評価方法】

発表、ディスカッションへの参加状況、レポートの内容、出席状況などを総合して評価。

【テキスト】

未定

基礎演習

辻 絢良

【授業の概要】

マルチメディアを題材に取り上げ、学問（調査・研究）を進めていくために不可欠な問題の設定とそのアプローチの方法、そして論理的な思考の方法や表現・発表の方法を実際に体験することより修得する。

実施にさいしては、マルチメディアの最先端のトピックスを取り上げ調査・研究するための各種技法を学習するとともに、マルチメディアの社会的な意味について調査検討を併せて行う。

【授業計画】

1. マルチメディアの基礎—学問の行為論
2. マルチメディア社会論
3. IT技術の利用や普及に関する調査と発表、討議
4. 次世代マルチメディアの動向に関する調査と発表、討議
5. 調査・研究の位置づけや論文の構成の理解
6. 問題の設定とアプローチの方法
7. ホームページの作成と公開
8. 表現の技術—論文の作法

OHPやプロジェクトを用いた発表、ホームページによる公開等、プレゼンテーション各手法の活用を試みる。

【評価方法】

課題の提出や発表ならびに期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

小林・船曳他編「知の技法」岩波書店、p322、1995
編集委員会編「マルチメディア標準テキストブック社会論編」画像情報教育振興協会、p143、平成9年

基礎演習

西尾林太郎

【授業の概要】

脱工業化社会、高度情報化社会、大衆社会、大量消費社会、高齢化社会…… 何れも現代日本社会の特質を表している。この様に多様な側面を持つ日本の現代社会について、各人の多様な問題関心から研究し、自由に論じてみたい。今年度は両親や祖父母の視点や体験による考察を中心にしたい。なお、その前提として、両親や祖父母への聴き取り調査（ヒヤリング）や社会科学系の古典的著作を精読することで方法論を身につけ、現代社会に対する見方を培いたい。また、必要に応じてビデオ資料を見たり、外部から講師をお呼びしたり、フィールドワークを実施する予定である。

【授業計画】

1. 現代日本社会をどう捉えるか？
2. 古典的著作から見た現代社会
(M. ウェーバー、丸山真男、大塚久雄の視点)
3. 新聞、雑誌、テレビ等メディア情報による現代社会像
4. 両親や祖父母の視点で捉えた現代日本社会
5. ヒヤリングの実施、博物館の見学

【評価方法】

出席状況と授業での活動およびレポートによる。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

基礎演習

秦 忠夫

【授業の概要】

国際化の進展とインターネットの普及が目ざましい現代社会において、学生時代に力を入れて取り組むべき課題のひとつは英語の読解力の訓練ではないでしょうか。そこで私の基礎演習では内外経済の動きを英語の資料（新聞記事、雑誌の解説記事、研究機関の論文など）でフォローする訓練を授業の柱にしたいと思います。もともと英語の授業ではなく、内容を理解することが重要ですので、経済の動きを理解するための基礎的知識の勉強を並行的に進めていきます。

【授業計画】

興味深いテーマを扱っている英文資料のコピーを全員で読み、私の解説や意見交換を通じて内容の理解を深めます。

【評価方法】

授業への参加態度と期末レポートで評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の際適宜紹介。

基礎演習

藤瀬浩司

【授業の概要】

現代経済の基本的仕組みについて理解し、様々な問題を討議する。

【授業計画】

1. 教員がまず3. で記す各項目について説明を加える。
2. 次にゼミ参加者が3. で記す各項目に関連するテーマを選び、報告し、討論する。
3. ①人口・労働・雇用
②国民所得・経済成長・景気変動
③企業経営
④金融システムと金融政策
⑤財政政策
⑥国際経済と国際金融
4. 学部授業、「経済学概論Ⅰ」（マクロ経済学）及び「経済学概論Ⅱ」（ミクロ経済学）を受講すること。

【評価方法】

演習での報告や発言など参加状況によって判断します。

【テキスト】

富山県統計課編『経済指標のかんどころ』

基礎演習

渡辺かよ子

【授業の概要】

「近現代社会と教育」をテーマとし、①現代教育の基礎となっている人間観の理解と、②自らの経験してきた教育の相対化、を通じ、現代教育の諸問題にアプローチする研究手法を学ぶ。それ自身が重大な社会問題であると同時に、多様な社会問題の有力な解決策でもある「教育」という社会現象に関する意見や考えを、確かな学問的知見に転換していく基本的技能の習得と、それを通じた思考の鍛錬を目指す。

【授業計画】

毎回、事前に配布する共通資料を中心に「近現代社会と教育」に関する基礎知識を習得すると共に、各人の関心に基づく発表、討論を行う。

【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

教育を問う（日本経済新聞社編 日本経済新聞社）
比較・国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
世界の教育改革（佐藤三郎 東信堂）

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

都市社会論

安藤純子

【授業の概要】

私たちは複雑な現代社会の潮流の中で日々の生活を送っている。そのような社会がどのような構造をもち、私たちとどのような関連があるかについてさまざまな分野で研究されてきている。都市社会論では、特に都市に焦点を当て、社会学的視点から、都市社会特有の構造や人間関係などについて、これまでの主要な理論をふまえ、今日主として扱われている研究テーマ等について学習していく。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 都市社会学の歴史1
3. 都市社会学の歴史2
4. シカゴ学派の都市社会学1
5. シカゴ学派の都市社会学2
6. 新都市社会学
7. 日本の都市社会学1
8. 日本の都市社会学2
9. コミュニティ研究1
10. コミュニティ研究2
11. ネットワーク研究1
12. ネットワーク研究2
13. まとめ

【評価方法】

定期試験および出席状況による評価を行う。

【テキスト】

特になし。参考文献は授業中に適宜紹介する。

地域文化論

谷沢 明

【授業の概要】

人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた暮らしの様式と内容を、地域特性をふまえて考察する。内容は、物質文化と精神文化の両面を対象とし、フィールドワークの成果をもとにビデオ等の映像を用いて、具体的かつ分析的にとらえる。とりわけ、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から、地域文化の振興について重点的に扱い、将来、文化行政などの仕事に携わろうとする者に役立つ内容を目指す。

【授業計画】

1. 地域文化とは～地域文化の概念～
2. 地域文化と地域振興～文化財保護行政～
3. 街道の文化～妻籠宿の町並み保存～
4. 街道の文化～奈良井宿の祭礼～
5. 旅の文化史～お伊勢まいり～
6. 名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～
7. 奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～
8. 地域社会の変容～国土総合開発の影響～
9. 歴史的風土の保全
10. まちづくり
11. 宮本常一の地域文化論～師から学んだもの～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

産業社会論

谷口 茂

【授業の概要】

わが国産業社会の現状を把握し、その問題点を摘出し、改革策を探究する。そのさい、「人間遡及的」あるいは「個人・集団・社会」という社会学独自の方法論を使用することにより、分析の特色を打ち出したい。

1. 東海地域の産業

東海地域の産業構造、製造業、卸・小売業、サービス業、東海地域の活性化を目指して

2. 日本の経営

日本の経営の背景と成立、日本の経営のメリット・デメリット、日本の経営の今後の動向

3. わが国産業社会の特質

独占・寡占、企業集団、二重構造、産業構造

【授業計画】

講義方式で授業を進めていくが、小テストを数回実施し、これを採点・返却することによって、レポートの書き方を指導することも考えている。

【評価方法】

期末試験の成績を中心に、これに小テストの成績を加味して、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その代わりに、資料を作成して配布する。

食文化論

千葉善根

【授業の概要】

人間が生活している所には食物があり、その地域、その国において長い歴史を経た独特の食品を作り出した。これらは人間と人間との交わりをとおして生活に結びつき、農耕文化や牧畜文化をつくり、交易・信仰・戦争などのかかわりをもって広がり定着したものである。わが国の食文化としてどのようにして受け入れられ、変化をしてきたか歴史・生活・文化をとおして考えるとともに多様な食文化に対する理解の道を探る。

1. 日本の食文化形成要因と食生活の変化について
2. 米食文化について
3. 麦食文化について
4. 乳食文化について
5. 肉食文化について
6. その他

【授業計画】

講義形式 VTRを数回使用する。

【評価方法】

レポートおよび授業内小テスト。

【テキスト】

使用しない。

消費経済論

石田好江

【授業の概要】

「必要」の限界を超えることができた経済は、いま資源や環境など新しい限界に直面している。経済学の理論が資源・環境制約を理論に組み込まなければならないだけでなく、企業にとっても生き残るために、いまや企業利益と消費者利益の両立が重要な課題になっている。

本講では、「消費」という視座で経済を捉え直すことによって、社会経済の変化と方向性をさぐってみたい。

【授業計画】

1. 消費経済学の意義：いまなぜ、コンシューマー・サイド・エコノミーが必要なのか
2. 日本経済と消費者：規制緩和を中心に
3. 消費行動決定に関わる経済的要因
価格と消費行動
所得と消費行動
4. 現代の消費経済
内外価格差：日本の高物価をどう考えるか
流通革新
金融の自由化と預金
消費者信用と多重債務問題
PL法と消費者利益
グリーン・マーケティング
5. まとめ

講義では、フィードバックシートを使用する。一つのテーマが終了した授業の最後に紙を配って、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらうものである。次の講義の最初に、その中からいくつかを選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

使用しない

人口動態論

坂井貞彦

【授業の概要】

世界人口の動き、人口問題と人口政策、日本の人口構造（年齢別、産業別など）と人口動態（出生、死亡、結婚など）の変化、将来人口の推計などを学ぶ。

【授業計画】

最近のおもな統計資料などをプリントとして配布する。

1. ガイダンス

人口学のあらましとその歩み。人口の変動と地域の発展との関連についての若干の実例。

2. 人口に関する統計調査

日本の統計制度、統計調査の種類、人口基本方程式など。

3. 世界人口の増加

古代から最近までの世界人口の時系列的変化とその分析。

4. 人口問題と人口政策

15世紀以降のヨーロッパ、日本における人口問題。20世紀後半から21世紀へかけての世界の人口問題。

5. 人口の年齢別構造と人口ピラミッド

年少人口比率など年齢別構造に関する基本指標の意義。

6. 死亡に関する統計

死亡率、標準化死亡率、主要死因の変化など。

7. 生命表と平均寿命

生命表の意義、作成方法、平均寿命の年次別変化など。

8. 結婚と出生

未婚者の増加、出生率の低下についての基礎的な統計。

9. 労働力人口と就業人口

基礎的用語の解説、1920年以降の年次的変化と国際比較。

10. 少子化と高齢化

この問題への世論、今後の社会・経済・福祉への影響。

11. 将来人口の推計

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計の解説。

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中レポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

人口統計学（増補改訂版）（岡崎陽一 古今書院）

日本経済論

竹村 弘

【授業の概要】

わが国は、歴史的には過去長らく、欧米先進国に比べ産業経済の発展が遅れ、国民の生活水準の低い国であった。わが国が世界有数の「経済大国」に成長したのは、高度経済成長を達成した後のことである。

しかし、国民一人ひとりには「豊かさの実感がない」と言われ、従って、これからは国民生活の豊かな国をどのように実現していくかが課題であるが、一方で、バブル経済崩壊以降、わが国産業経済は久しく低迷を脱しきれず、かつ、行・財政改革、金融改革、教育改革等歴史的とも言える大変革を迫られている。

【授業計画】

1. 日本の見当識：わが国の経済社会指標を欧米先進5か国と比較することにより、「経済大国・日本」「生活小国・日本」「安心安全大国・日本」の実態を理解する。次いで、日本の経済社会・百年を回顧し、高度経済成長期以降の発展の軌跡を辿ることにより、現在わが国経済社会が大きな転換期にあること認識すると共に、21世紀に向けて今後を展望する。

2. 経済指標の見方：わが国経済を正しく理解するためには、経済指標の理解が必要である。国内総生産、個人消費、家計調査、海外統計、物価、雇用指標、景気動向指数など、主要な経済指標について解説する。

3. バブル経済と平成の『10年大不況』：「バブル経済」の生成は、貿易不均衡・貿易摩擦・円高圧力などに気をとられた極端な金融緩和・低金利政策および目いっぱい財出動に起因するものであり、その崩壊は慎重さを欠く金融引き締め政策・地価規制政策によるものである。その後も、バブル崩壊の後遺症の認識の甘さから処理が遅れ、更に重なる不適切な政策運営により、建設・不動産、金融・証券業の大型倒産など混迷を深め、平成の『10年大不況』に陥っている。

【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】

配付プリント。

産業・組織心理学

榊原國城

【授業の概要】

この講義では、会社や役所、あるいはその他の団体などの組織における人間の職務遂行行動や対人関係に影響を及ぼす心理学的要因を明らかにしていくことを目指す。その際、人間（集団を含む）の行動を、行動主体とそれを取りまく組織的環境との相互依存関係としてとらえる。したがって、この講義では、組織で働く人間の能力や意識・行動が、人間の置かれた外的環境（仕事、他者、集団、組織構造など）との相互作用過程において、主たるテーマになる。以上の視点に基づいて、最近の研究動向を踏まえて、新たな産業社会を展望する。

【授業計画】

1. 産業心理学の発展
2. 科学的管理法とホーソン研究
3. 職業選択と職業適応
4. 適性とパーソナリティ・アセスメント
5. 動機づけと職務満足
6. 組織の機能
7. 組織における職務と組織成員の役割

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価2,048円）

組織コミュニケーション論

榊原國城

【授業の概要】

組織コミュニケーションをコミュニケーションの構成要素の観点から整理すれば、組織あるいは組織の成員が、自己に関する情報を、受け手（組織の成員および組織外の人々）のニーズに応える形で体系化し、様々なメディアを通じて伝達する過程であると考えられる。したがって、この講義では、組織コミュニケーションを巡る種々の問題、すなわち、現代社会における組織の機能とコミュニケーションとの関わりの中で生ずる問題を、行動科学をはじめとする隣接諸科学における基礎的な理論に基づいて分析し、考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの基本過程
2. 組織コミュニケーションのタイプと特色
3. 職場のコミュニケーションと人間関係
4. 組織成員の役割とコミュニケーション
5. 職場におけるストレスとコミュニケーション
6. リーダーシップとコミュニケーション
7. 女性のキャリア形成と組織コミュニケーション

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価2,048円）

地域開発論

竹村 弘

【授業の概要】

従来の「地方開発」は、主として産業開発・企業誘致により、地方に生産工場を建設し、経済を活性化し、雇用を増やし、所得を増やそうというものであった。戦後の経済復興から高度経済成長時代、日本列島改造時代を通じて、この地方開発が、わが国産業経済の大きな発展に寄与した。しかし、二度のオイルショックおよび円高ショックを経て、①わが国が安定経済成長時代に入り、従来のような産業開発・企業誘致が思うように運ばなくなったこと、および②国民全体が豊かになって、人々の関心が「もの」から「ところ」へ移ってきたことなどから、新しい「地域開発」が提唱されるようになった。

【授業計画】

1. 地域開発概論：従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、次いで、新しい「地域開発」が提唱されるようになった背景と、現在における「地域開発」の課題が何であるかを述べる。

2. 地方開発の光と影：地方開発が成功し、大きく発展した地域がある一方で、産業公害の被災地、衰退産業と共に疲弊した地域、農山漁村の過疎化など、暗い影を落とした地域もある。そうした中から、地域住民が自ら手を携えて、「地域づくり運動」に立上がった。全国各地の「地域づくり運動」の代表的事例を紹介する。

3. 首都機能移転：首都機能移転は、東京の過大・過密、大規模災害対策、東京一極集中の是正、および、わが国経済社会の閉塞状態打破、人心一新の契機などの観点から、国会・行政を中心にその構想が推進されている。中部地域は移転先の有力候補地のひとつである。

4. 中部圏のビッグ・プロジェクト及び21世紀ビジョン：「愛知国際博」「中部新国際空港」などのビッグ・プロジェクトは地域の重点的な開発整備の大きなチャンスであるが、一方で自然破壊などの批判もある。21世紀中部圏のビジョンがどのようなものであるかを考察する。

【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】

配付プリント。

地域分析論

坂井貞彦

【授業の概要】

愛知県は他の府県にくらべてどのような特徴があるか。また、全国47都道府県のうちでどのような位置をしめているか。このようなことを、統計的データなどを利用して計量的（数量的）に分析する場合の考え方及び手法について学習する。「地域」としては、都道府県市町村の他、大都市圏といった社会経済的指標を利用して設定した区域もとりあげる。

【授業計画】

講義方程による。次のようなことがらについて、テキストの記述のうちの基本的なものを説明し、また自主的学習を促がす。

- 1 地域人口分析
- 2 地域、地域の特性
- 3 地域分析に用いる人口統計データ、統計地域
- 4 地域分布 全域を考慮しての部分地域の分析
- 5 地域の特性（人口、年齢構成、産業構成）
- 6 地域の経済的機能（中心地的機能、中心性）
- 7 地域間交流
- 8 人口移動圏、通勤通学圏

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

地域人口分析の方法（大友篤 日本統計協会）

【参考文献・資料】

地域分析論 改訂版（大友篤 東洋経済新報社）

交通システム論

辻 紘良

【授業の概要】

交通は地域が活動し発展していくためには不可欠な動脈であると同時に、一人ひとりの住民として快適な日常生活を享受していくのに不可欠な手段であることを理解する。このため、地域交通が置かれた現状と課題を事例を通して学習するとともに、交通施設、道路等インフラ整備の現状と課題、ならびに自動車交通に関する安全・環境の諸施設の整備状況と問題点を理解し、それらの諸方策について考察する。

【授業計画】

身近な交通の問題から始め、次第に総合的な交通体系の問題へと論旨を展開する。講義とともにビデオ機器を用いて交通システムの実例や実験例を提示し理解を深める。

1. 地域交通体系の現状と課題
2. 地区交通計画
3. 地区交通の社会実験
4. 短距離交通システム
5. 交通と環境
6. 交通運用計画

この他、交通結節点、交通網の計画、自動車交通需要の推定、交通流制御などから適宜テーマを選択し解説する。

【評価方法】

数回の小テストと期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。プリント配布。

【参考文献・資料】

交通計画学第2版(樽木・井上共著 共立出版)2002年

マーケティング論

村松幸廣

【授業の概要】

マーケティングの基本的概念と仕組みについて理解を深めるとともに、企業・組織におけるマーケティング活動の重要性やマーケティング・マインドについて考える能力を身につけてほしいと考えている。

【授業計画】

1. マーケティングとは
2. 企業・組織の諸活動
3. マーケティングの考え方
4. マーケティングの基本フレーム
5. マーケティング調査
6. プロダクト・プランニング
7. セールスプロモーション
8. マーケティング・チャンネル
9. 消費者行動とマーケティング
10. マーケティング・ミックス
11. マーケティング戦略とプロダクトライフサイクル
12. グローバル化とマーケティング
13. Eコマースの発展

【評価方法】

レポート、発表、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

現代マーケティング論(松江宏編 創成社)

労働社会論

石田好江

【授業の概要】

労働市場や労働者の就業行動が、人口構成の変化、産業構造、技術革新、国際情勢といった要因からどのような影響を受け、どう変化してきているかを理解する。また、今日大きな課題である「日本的雇用慣行」の問題や「ジェンダーと労働」の問題についても考える

【授業計画】

1. 「労働」の系譜
2. 労働市場
3. 賃金・人事制度
4. 労働時間
5. ジェンダーと労働
6. 雇用構造の多様化
7. 日本的雇用慣行の変化
8. 高齢社会の労働・労働市場

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつか選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

新版 労働経済（永山武夫編著 ミネルヴァ書房）

地方自治体論

坂井貞彦

【授業の概要】

前半：地方自治の意義、日本における地方自治制度の変遷、地方自治体に関する法令制度について学ぶ。
後半：愛知県内の最大の市である名古屋市の歴史、現状、将来計画などを概観し、地方自治体への理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. 地方自治の意義と法体系、憲法と地方自治法
2. 明治以降の地方自治制度の変遷と現行制度
3. 地方公共団体の種類、区域及び住民
4. 地方公共団体の事務
5. 地方公共団体の議会と法規
6. 地方公共団体の執行機関、議会との関係
7. 地方公共団体の財務（予算、会計、公の施設）
8. 地方公務員
9. 名古屋市の歴史（明治以降）
10. 名古屋市及び区の組織
11. 名古屋市の経済産業
12. 名古屋市の暮らしと文化
13. 名古屋市の将来計画

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

- 地方自治制度 第5次改訂版（久世公堯 学陽書房）
- 21世紀への名古屋（愛知淑徳大学地域産業研究会 中部日本教育文化会）

地域福祉論

野田秀孝

【授業の概要】

日本の社会福祉は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革の動きからなる社会福祉法成立、医療法の改定などの医療政策の変動など、大きな変革期を迎えている。また、地方分権、福祉ニーズの多様化と福祉サービス供給主体の多様化、保健・医療・福祉の更なる連携又は統合などを背景に、各自治体における介護保険事業計画から地域福祉計画の策定、苦情処理・解決、第三者評価システムの構築などさまざまな課題はある。また、それらに対応する地域ケアシステムの構築が求められている。

本講義では、上記のような今日的課題を整理しながら、多様で複雑な社会情勢に対応しうる地域福祉の理念と新たな手法、諸外国の動きなども紹介し、地域福祉の魅力を具体的に論じたい。

【授業計画】

- ①講義の概要 地域福祉の理念
 - ②現代社会における家族とコミュニティ
 - ③地域福祉の歴史
 - ④地域福祉の国際的動向
 - ⑤地域福祉の概念と厚生
 - ⑥地域福祉の公私関係と共同の開発
 - ⑦在宅福祉のサービス供給と展開
 - ⑧居住福祉と福祉環境作り
 - ⑨地域福祉の運営と主体形成
 - ⑩地域福祉の実践実態形成
 - ⑪住民参加による地域福祉計画づくり
 - ⑫地域福祉の人材養成
- まとめ

【評価方法】

筆記試験

可能であれば出席も点数とする

【テキスト】

『新時代の地域福祉を学ぶ』野口定久編集 (株) みらい

地域社会演習 I a・b

石田好江

【授業の概要】

前半は、マーケティング消費・流通経済、生活経済（消費生活に関わる社会・経済政策を含む）、消費行動に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に各自テーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し、そこでの討議やコメントをふまえ、最終的にレポートとして提出する。

1. オリエンテーション

演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など

2. 文献講読

文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。

3. 個人研究・発表

研究方法について
個人研究・発表

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

地域社会演習 I a・b

大嶽 浩

【授業の概要】

「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「総論」的に考察する。

- 1 契約（意思表示）
- 2 代理（専門家）
- 3 不動産登記（対抗要件）
- 4 外国の法制度
- 5 売買契約
- 6 請負契約
- 7 賃貸借契約
- 8 消費貸借契約

などにおける問題点について考察する。

なお、当演習では、「条文」をこまめに引きます。

その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。

六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

地域社会演習 I a・b

坂井貞彦

【授業の概要】

日本人口の現状及び人口統計資料の分析手段について学習した後、古代から最近までの世界各国の人口問題、人口政策（最近の日本の少子高齢化の経済・社会・社会保障への影響を含む。）について考察する。

【授業計画】

（1）担当教員の講義、（2）学生の発表と討議とを併用する。（2）の場合、テキストの章（または節）ごとに発表担当者をあらかじめ定める。担当者は事前にレジュメを作成し、発表のさい全員に配布し説明する。

1. 人口統計資料の利用・分析手段の学習（テキスト（1））
2. 日本の人口と社会保障の現状について（テキスト（1）及び（2））
3. 人口問題と人口政策（テキスト（3））

【評価方法】

発表と討議への参加、別途提出を指示するレポートの内容を総合して行う。

【テキスト】

- （1）人口分析ハンドブック（岡崎陽一 古今書院）
- （2）社会保障入門（竹本善次 講談社現代新書）
- （3）現代人口政策論（岡崎陽一 古今書院）

【参考文献・資料】

- （1）国勢調査報告（総務省統計局 日本統計協会）
- （2）人口の動向（国立社会保障・人口問題研究所 厚生統計協会）

地域社会演習 I a・b

榎原國城

【授業の概要】

この演習の主題は、現代社会における様々な問題に対して、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な態度を身につけることである。具体的には、科学的資料の収集法としての質問紙調査法とデータ解析手法の習得である。多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析して人間理解を進める手法が質問紙調査法である。

演習 I a では、統計パッケージ・プログラム「SPSS」に基づいて、調査資料の統計的データ解析の概念の理解とデータ解析手法の体得を目指す。演習 I b は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習である。

前期（演習 I a）：データ解析演習

1. オリエンテーション
2. データの分類
3. データ・ファイルの作成
4. 質的データの分析
5. 量的データの分析

後期（演習 I b）：質問紙調査法演習

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

【授業計画】

前期（演習 I a）は統計解析パッケージ活用法をマスターするためのコンピュータ実習。

後期（演習 I b）は質問紙調査法の実際を体験するグループ作業による実習。

【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

【テキスト】

授業中に指示する

地域社会演習 I a・b

竹村 弘

【授業の概要】

「日本経済と地域開発」の研究を通じ、将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

【授業計画】

1. 「文献講読」

広く「日本経済と地域開発」に関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで広範な知識および方法論を習得する。

輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を高め、問題意識の喚起を図る。

最初の段階で、ディベート・EQトレーニングを行う。これは、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。

2. 「サブゼミ」

春合宿、夏合宿、サブゼミにおいて、少人数のグループによる共同研究、グループ討論、合同発表会、およびレポートの共同作成を行う。互いに切磋琢磨し、グループ活動を遂行する過程でリーダーシップ、協調性、友情を培うとともに、次のステップである個人研究のテーマ発掘につなげる。

グループ研究では自らの問題意識に基づき、自主的に選択したテーマについて、調査分析を行い、「調査レポート」を作成する。夏合宿で「中間報告」の全体討論を行い、学園祭展示、他大学合同ゼミ等で外部との討論を行うにより、内容の一層の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。

【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

【テキスト】

文献講読などで数冊。

地域社会演習 I a・b

谷沢 明

【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。フィールドワークとは、実地調査・野外研究のことである。各自が関心を持ったテーマを、「あるく・みる・きく」という行動をとおして追求することを演習の中心とする。データ収集には、理屈をぬきにして「足」をつかう。また、好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていく。さらに、謙虚な気持ちで土地の人々に接し、そこから学んでいく。この三つを根気よく続け、レポートにまとめ、ゼミ発表をおこなう。

【授業計画】

前期：それぞれの関心に基づいたテーマで野外研究をおこない、フィールドワークの基礎を学び、レポートのまとめ方の訓練をおこなう。以下の学外教育を実施する。

3月：ゼミ合宿

4～6月：フィールドワークに基づくグループ研究

7月：調査研究計画書の作成、及び個別研究指導

8月：ゼミ合宿

後期：各自がテーマを設定し、その関心に基づいてフィールドワークをおこない、成果を発表する。そして、調査研究論文作成の基礎がためをおこなう。

10月～：各自がテーマに基づいてフィールドワークを実施する。

11月：大学祭でプレゼンテーション（パネル展示）。

1月：調査研究論文作成に向けての個別研究指導。

【評価方法】

フィールドワークへの参加、観察レポート、発表、プレゼンテーション等でおこなう

【テキスト】

テキストは使用せず

地域社会演習 I a・b

千葉善根

【授業の概要】

食べものと文化

「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にしてはじめて食べ方を知る」『美味礼讃』より

即ち、人間が「食べること」には精神的・社会的な意味が加味されている。こうした動物とは異なる人間独特の食のあり方が食文化である。

各地に数多くある食品（または素材）および話題について、食文化形成要因や他の地域の食とのつながり、食と人間とのかかわりなどを視野に入れて討議し、今後の食文化や食生活について考察する。

【授業計画】

1. 各自、種々の資料をもとに各地の「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味しいもの」などからテーマを自主的に選択し要約・発表する。
2. 前半はできるだけおおくのテーマ（食）について幅広い知識を身につける。
3. 各発表に全員が参加し討議する。
4. 必要に応じて見学、調査、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

地域社会演習Ⅱ a・b

石田好江

【授業の概要】

演習Ⅰにおいて深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。

前期は、演習Ⅰの基礎的な理解の上についで、消費経済をめぐる周辺領域（社会学心理学など）の文献、あるいは近年の消費行動や購買行動を分析した論文を取りあげ、より消費経済の理解を深めることをめざす。

後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が3年後期から進めてきた個人研究を発表するとともに、2年間の演習の集大成としてレポート（あるいはゼミ論文）の形でまとめる。

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

地域社会演習Ⅱ a・b

大嶽 浩

【授業の概要】

演習Ⅰにひきつづき、「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「各論」的に考察する。

- 1 売買契約
- 2 賃貸借契約
- 3 維持・管理
- 4 贈与・相続

などにおける問題点について考察する。

以上のほかに、「『住まう』とはどういうことか」や「文学作品から見た『住まい』」についても考える。

なお、当演習では、「条文」をこまめに引きます。

その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。

六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

地域社会演習Ⅱ a・b

坂井貞彦

【授業の概要】

各人が日本または世界の人口に関する領域において、演習Ⅰの学習をふまえ、自分が関心をもつ研究テーマを自主的に設定する。研究テーマに関する調査、文献資料の収集、演習における討論などを通じてテーマについての理解を深め、レポート（あるいはゼミ論文）にまとめる。後期は、レポート作成とあわせてテキストを講読する。

【授業計画】

〈前期〉

研究テーマの設定、テーマの明確化、方法の検討などの各段階で、各人が発表し全員が討議に参加する。発表者はあらかじめレジюмеを作成し、全員に配布する。

〈後期〉

レポート案を推敲し、レポートを完成させるとともに、テキストの講読を演習Ⅰ授業計画(2)と同様の方法により行う。

【評価方法】

発表と討議への参加、レポートの内容を総合して行う。

【テキスト】

日本人口論（岡崎陽一 古今書院）

【参考文献・資料】

1. 人口分析入門（山口喜一編 古今書院）
2. 人口推計入門（山口喜一編 古今書院）
3. 日本の人口移動（大友篤 大蔵省印刷局）
4. 女性のライフスタイルと就業行動（大淵寛編 大蔵省印刷局）
5. 人口高齢化と高齢者（嵯峨座晴夫 大蔵省印刷局）
6. 少子化時代の日本経済（大淵寛 日本放送出版協会）
7. 人口成長と経済発展（山口三十四 有斐閣）

地域社会演習Ⅱ a・b

榊原國城

【授業の概要】

この演習の目的は、学生自身の個人研究活動を通じて、判断力・理解力・総合力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけることにある。

- ・原則として、産業・組織心理学および組織コミュニケーション論の領域において、自らの学問的興味や関心によって研究テーマを設定する。
- ・担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用していく。
- ・演習を通して行った研究の成果を研究論文としてまとめる。
- ・演習は、学生の研究活動の各段階ごとに、個人発表および討議によって進められる。

1. 講読演習

参考文献（E. F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎訳 1980 組織行動の調査方法 白桃書房）に基づく、問題・仮説、変数、研究デザインなどのテーマについての講読演習。

2. 発表・討議

- ・問題の設定 ・文献研究 ・研究目的の明確化 ・方法の検討 ・データの収集 ・結果の集計・分析・考察

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジюмеに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。

【評価方法】

演習への参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

組織行動の調査方法（E.F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎 1980 白桃書房 定価2,400円）

地域社会演習Ⅱ a・b

竹村 弘

【授業の概要】

目的は、「演習Ⅰ」で述べたように、実社会においてプロジェクトを主体的に立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、行動できる実力を身につけることである。「演習Ⅱ」においては、日本経済および地域にかかわるあらゆるテーマについて、一人ひとりの問題意識に基づき、「調査研究」「企画提案」「論文作成」を実施する。今、何が問題で何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動し、課題を達成し、その成果を他の人にきちんと説明し、賛同を得ることを最終目標とする。

【授業計画】

1. 「調査研究」

文献調査により先行研究を十分理解・整理した上で、現地調査、アンケート調査、ヒアリングなどにより、独自の観点からの研究を深める。

2. 「企画提案」「論文作成」

事例調査・企画提案を統合して論文を作成する。中間報告で全体討論、意見交換を行い、論旨展開、実証資料、理論構成等の一層の充実を図る。

【評価方法】

討論、「提言論文」など総合的に評価。

【テキスト】

文献講読などで数冊。

地域社会演習Ⅱ a・b

谷沢 明

【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。3年次後期に各自がテーマを設定し、その関心にもとづいておこなった「地域社会演習Ⅰ a・b」のフィールドワークの成果を基礎に、そのまとめをおこなう。ゼミでは、学生の発表にもとづき、調査研究論文の作成の指導をおこなう。後期は、文献の講読をおこなう。

【授業計画】

前期：各自が設定したテーマに基づき、それぞれが、発表とそのまとめをおこなう。

4～7月：発表とまとめ

8月：個別研究指導

10月1日：調査研究論文の提出（これを卒論の基礎とする）

後期：宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとして講読をおこなう。

10～12月：『家郷の訓』講読

1月：卒業論文発表会

【評価方法】

発表、調査研究論文の内容等でおこなう

【テキスト】

前期はテキストは使用せず。後期は宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとする

地域社会演習Ⅱ a・b

千葉善根

【授業の概要】

演習Ⅰにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

【授業計画】

- 各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。
- 各発表に全員が参加し討議する。
- 随時、個々に指導助言する。
- 必要に応じて見学、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

経済交流史

清水 洋

【授業の概要】

本講義では、19世紀末から今日に至るまでの日本とアジア（とりわけ東南アジア）の経済交流を、移民・通商・金融・直接投資・政府開発援助などの側面から体系的に考察し、アジアに関する理解を深めることを意図する。明治以降、我が国は「脱亜入欧」を重視し、欧米の工業諸国を手本としてきたため、アジアにあまり目を向けてこなかった。しかし、1960年代以降、一部のアジア諸国が積極的な外資の導入によって新興工業国として台頭する一方、中国は78年以降大胆な経済改革と対外開放政策によって急速な経済発展を達成しており、日本でも近年アジアへの関心がとくに高まっている。このような時期に、日本とアジアの経済交流史を学ぶことはとりわけ意義があると思われる。

【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。

- 1) 国際経済交流の歴史的意義
- 2) 東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
- 3) インドネシアにおける日本人移民の経済活動ーからゆきさん先導型経済進出
- 4) シンガポールとマレーシアにおける日本人移民の経済活動ーからゆきさん先導型経済進出
- 5) アジア内貿易ネットワーク：神戸・横浜の華僑商人とインド人商人
- 6) 戦前期シンガポールにおける日本人漁業
- 7) 太平洋戦争期の東南アジアにおける日本の経済活動
- 8) 戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
- 9～12) 東南アジアにおける日本の経済活動
- 13) その他

【評価方法】

定期試験が主体となるが、レポート等も考慮に入れる。

【テキスト】

からゆきさんと経済進出ー世界経済のなかのシンガポール・日本関係史（清水洋・平川均共著 コモンズ）

国際金融論

秦 忠夫

【授業の概要】

国際間の経済取引は經常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引に大別されますが、いずれの面でも取引の自由化が進んで世界経済は相互依存関係を深めています。こうした動きのなかで、世界の共通通貨が存在しない今日、国際経済取引の決済にあたっては異種通貨の交換（例えば円とドル）が必要となり、その交換比率（為替相場）が変動すると個々の取引が影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及びます。実際、変動相場制と呼ばれる現在の国際通貨制度のもとでは、為替相場の変動が激しく、世界経済の成長が時として攪乱されています。この授業は、世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとしています。

大まかな構成としては、(1)外国為替取引のしくみと実態（外国為替のしくみと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手法）、(2)マクロ経済分析の視点から通貨問題を理解するための基礎知識（国際収支のしくみ、為替相場と国際収支、為替相場の決定理論）、(3)国際通貨制度の歴史と現状（国際通貨制度のしくみ、国際通貨制度の変遷、ヨーロッパの通貨統合、国際通貨制度改革、円の国際化）という順序でテーマを展開します。

【授業計画】

講義。節目で小テスト実施。

【評価方法】

期末試験と小テストを総合して評価。

【テキスト】

国際金融のしくみ（改訂版）（秦忠夫・本田敬吉著 有斐閣 1,900円）

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

日本政治外交史

西尾林太郎

【授業の概要】

「19世紀後半から1920年代にかけての日本の政治外交」日本における近代国家の成立とその展開過程について、政治・外交を中心に理解すると共に、現代日本の政治・外交や社会を考察する視点を形成することを目的とする。なお、高等学校で「日本史」を履習している必要はない。

【授業計画】

- 徳川幕藩体制と幕末維新の政治と外交
 - 近世の徳川幕藩体制下の政治システムや社会のルール。
 - 鎖国下における最大の友好国は李氏朝鮮であった。
 - 政治的・経済的統合を目指して、天皇政府はどのような施策を打ち出したか。
 - 沖縄の廃藩置県は明治12年＝1879年であった。
- 明治憲法体制の成立とその外交
 - 憲法制定に向けての動きが明治1ケタ代にすでに始まっていた。
 - 大日本帝国憲法と教育勅語。
 - 朝鮮半島をめぐる日清、日露間の対立。
 - 政友会の成立。
 - 日露戦争が、明治憲法体制における“民主化”を促進した？
 - 欧米列強の了解のもとで韓国併合がなされた。
- ワシントン体制と大正デモクラシーの時代
 - 「満蒙」の権益の確保と拡大。
 - 第1次大戦後、アメリカは日本を明確に仮想敵国として考えていた。
 - 原敬の政治的リアリズム。
 - 関東軍は沸とうしつつある中国ナショナリズムへの恐怖と満蒙問題の“抜本的解決”を目指した。

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験は自筆ノートと教科書の持込を許可する。コピーは持込不可。

【テキスト】

新詳日本史図説（浜島書店 800円）（P114～209ページを主に使用する）。

国際情勢論

青島 宏

【授業の概要】

第二次大戦後の国際政治の在り方は冷戦終結により激変し、新しい国際秩序はまだ見えてこない。日本人が今後国際的に活躍するためには、現代の国際社会の流れをできるだけつかんでおく必要がある。半世紀続いた冷戦構造の変化をたどりながら、国際連合など国際機関・組織についての基本的知識を身につけさせるとともに、混迷を続ける冷戦後の国際情勢の読み方を考える。

【ガイダンス】 国際情勢を動かす力は経済、政治、その背後にある文化、民族性などがある。地理、風土や歴史などを含めた地政学視点の重要性を述べる。

【国民国家とは】 現代の国際情勢を動かす原動力となった国民国家を理解させるために、古代国家から近代の国民国家への成立の歴史でのフランス革命などの意義。

【冷戦構造の始まり】 現在の国際関係の基本的構造の源は第二次世界大戦にある。いわゆる冷戦構造とは何か、大戦末期のヤルタでの米、英、ソ連の首脳会談など。

【冷戦構造の変遷】 いわゆるヤルタ体制として冷戦構造が定着する国際情勢の変化を「ブラハの春」やハンガリー動乱などとソ連、米国、西欧政治との関わりを解明する。冷戦構造は不変ではなく、デタントなど様々なバリエーションが現れた。ゴルバチョフソ連共産党書記長の登場で冷戦構造の消滅が始まる。東欧の激動に続くベルリンの壁崩壊で冷戦構造消滅は決定的になり、バルト三国独立、ソ連消滅へとつながる。

【冷戦後の世界】 冷戦構造消滅により、地域紛争が世界各地で多発している。紛争の性格は地域の歴史的背景によって異なる。湾岸戦争、中東和平への動き、ベルリンの壁崩壊につづいて発生した東欧の変化やアフガン問題などを手掛かりに、新しい国際秩序への動きを考察する。

【授業計画】

理解を助けるために地図、スライド、写真などを多用する。

【評価方法】

随時実施の小テストによる。

【テキスト】

使用せず。

教育交流史

加藤 鉦治

【授業の概要】

「日英教育文化の交流」というテーマで講義する。

近代日本の発展は、幅広い外国情報の収集と活用によるところが大きい。教育の領域においても、外国とくに西洋諸国の教育文化についての情報が、多様な経路をとおして、積極的に収集・導入され、近代日本教育の基礎づくりに生かされた。本講義では、西洋先進諸国のうち、とくに英国とのあいだにみられた関係と交流の諸相をめぐって講ずる。そのさい、英国モデルが日本に摂取された側面だけでなく、日本から英国へおぼした逆影響の面についても注目して論及する。

世界教育のなかの日本教育の位置、近代日本教育の国際環境について、理解と関心が深まることを期待している。

【授業計画】

日英教育文化交流史の諸相を、総論篇と各論篇にわけて講ずる。各論篇では、日英交流史上の人物をとりあげ、人物を介して進められた交流と関係の具体相を説明する。

総論篇

- ① お雇い英国人（とくにスコットランド人）の招聘
- ② 英国留学生の派遣
- ③ 岩倉使節団の英国視察

人物篇

- ④ 工部大学校都検H. ダイアー
- ⑤ 洋式灯台の建設者R. H. ブラントン
- ⑥ 上下水道の指導者W. K. パートン
- ⑦ 日本絵画を伝えた絵師・河鍋暁斎
- ⑧ グラスゴウ大学留学生・南清
- ⑨ ロンドン留学生・夏目漱石
- ⑩ ウイスキー醸造の実地研修生・竹鶴政孝

【評価方法】

受講状況（出席率、平常点）と、レポートまたは試験による。

【テキスト】

未定。

欧米教育文化史

江藤 恭二

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想
7. 産業革命と教育

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関するVideo教材を用いる。

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

NGO・NPO論

ブイ・チ・トルン

【授業の概要】

現代社会において、自主的に社会へ参画・行動する市民が増えている。NPO活動は地域社会変革を、さらにNGO活動は世界平和・繁栄をもたらす手段として評価されている。今の若い学生にこれらの活動に関する情報、知識、実践例を多く伝え、また開発教育手法を用い社会行動できる人材に育成する。

【授業計画】

1. NPO総論：
 - 1) NPOとは？ボランティアとNPO
 - 2) 世界・日本のNPO活動の潮流
2. NPO各論：
 - 1) NPO法
 - 2) *社会福祉分野のNPO *教育・文化分野のNPO *国際交流・協力分野のNPO *地域社会分野のNPO *環境保全分野のNPO *保健・医療分野のNPO *その他
 - 3) 企業とNPO
 - 4) 政府・自治体とNPO
 - 5) 各地のNPO中間支援組織・センター
 - 6) NPOで働く人々
 - 7) 日本のNPOの役割、課題とその展望
3. NGO総論：
 - 1) NGOとは？国際交流と国際協力
 - 2) 世界・日本のNGO活動の潮流
4. NGO各論：
 - 1) *国連とNGO *環境とNGO *女性とNGO *教育とNGO *開発とNGO *在住外国人とNGO *その他
 - 2) 政府・自治体とNGO
 - 3) 各地のNGO推進支援センター
 - 4) NGOで働く人々
 - 5) 日本のNGOの役割、課題とその展望

【評価方法】

課題研究レポート、発表および出席率にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

比較憲法

初谷良彦

【授業の概要】

憲法の問題についての確な理解をもつためには、どうしても比較憲法の知識が必要である。欧米諸国の憲法について概観し、人権保障や裁判制度等重要な論点について比較検討を行う。とりわけEU司法裁判所による興味ある実例ないし判例についても詳しく紹介、分析する。

【授業計画】

- | | |
|-----------|--|
| 第1～第2回 | 議院内閣制と大統領制 |
| 第3回 | 議会制民主主義と直接民主主義 |
| 第4回 | EU（欧州連合）の立法過程 |
| 第5回～第6回 | EUの司法制度 |
| 第7回～第9回 | EU委員会の男女同一賃金指令、男女均等待遇指令、母性保護指令、育児休業指令とEU司法裁判所の判決 |
| 第10回 | フランスの憲法院、ドイツの憲法裁判所 |
| 第11回～第12回 | 米、英、中国等の司法制度 |
| 第13回 | 国際協調と平和主義 |
| 第14回 | 世界人権宣言、国際人権規約の国際化 |

【評価方法】

主として単位認定試験の成績により評価する。

【テキスト】

使用しない。随時資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の際適宜紹介する。

国際コミュニケーションズ

石橋千鶴子

【授業の概要】

この授業では、世界共通のコミュニケーション手段となっている英語の強化を念頭に置きながら、英文の教材を用い、異なった文化における具体的な事象を比較・考察し、異文化に対する理解・認識を深めていく。異文化間の意思の疎通を促すためには、まず、それぞれの文化に根ざした様々な価値観・考え方があることを知る必要がある。

【授業計画】

異文化間コミュニケーションに関する英文テキストおよび英字新聞記事の講読を行い、理解を促すため解説を加える。ビデオ視聴も含む。

【評価方法】

期末試験および平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキスト未定。英字新聞記事のコピーは、授業で配布。

日米外交論

山澤啓造

【授業の概要】

アメリカ合衆国は米西戦争から、日本は日清戦争から、列強の東アジアを舞台とした帝国主義争覇戦に加わる中で、現代国家として成長していった。日米両国ともに発展途上国であった。しかし、それから一世紀後の現在は、社会主義諸国の成立と崩壊・変質（冷戦の終了）や第一次・第二次世界大戦ならびにEUの成立などの画期的な諸史実に遭遇しながら、日米両国ともに世界の指導国家として活躍する状況となった。

この間の日米外交は対立と協調の関係にあったが、1990年代以後（冷戦後）のアメリカ合衆国については、湾岸戦争・世界同時多発テロなどの諸史実を視野に入れ、現代国際政治を考える。

【授業計画】

1. アメリカ大統領は、国家元首であり、内政・外交の最高責任者であり、陸海空および海兵隊の最高指揮官である。このアメリカ大統領に焦点をあてながら、第二次世界大戦前後から現在までの国際政治を考察する。
2. contemporary historyである。テキストには、図表、現代史を見る眼、第二次世界大戦開始前後から20世紀末までの11名のアメリカ大統領の略歴と内政・外交、大統領選挙などが記されている（第一章～十一章）。真珠湾攻撃、原水爆投下・核実験問題、北方領土問題、なども文章中に取り上げられている。2001年秋の世界同時多発テロを考え、エネルギー問題、環境問題にも触れるはずである。
3. テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討論を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

第二次世界大戦後の世界…FDRからクリントンまで…
(山澤啓造著、平成12年、新訂版、自費出版)

【参考文献・資料】

第二次世界大戦後の世界…FDRからクリントンまで…
(山澤啓造著、平成12年、新訂版、自費出版)の最後ページの参考文献を参照。

・第43代アメリカ大統領ジョージ・W・ブッシュについては、プリントを配布する。

国際経済論

村主英雄

【授業の概要】

現在世界経済のグローバル化の一層の進展とともに、各国経済の相互依存関係が深まり一国の経済改革も他国への影響を顧慮せずには実行できない。このような展開を把握するためには、国際経済を動かす基本モデルを正しく理解する必要がある。そのひとつは、国際マクロ経済の分野でGNPなど国民所得の概念とその開放経済体制のメカニズムであり、ふたつ目は比較優位に代表される国際貿易論である。本講義ではこれら二つに重点をおいて授業を行う。

(前期・後期とも半期で完結)

1. 国民所得の諸概念

マクロの需給均衡とGNPの決定

貯蓄・投資バランス

国際収支表の構成原理

国際通貨制度

為替レートの決定

2. 国際貿易の基礎理論

比較優位と国際貿易

国際貿易の利益

生産要素の賦存と国際貿易

製品差別化と独占的競争

3. 貿易政策の理論

自由貿易主義と保護貿易主義

消費者余剰と生産者余剰

4. 国際貿易システムと地域経済統合

GATTからWTOへの発展

地域経済統合の動き

【授業計画】

基本的にテキストによるが、テーマに応じ随時プリントを配布して補う。

【評価方法】

期末テストおよび出席による。期末試験は穴埋めの形式および択一式併用。

【テキスト】

改訂 現代国際経済論 (I) (II) (村主英雄著 自費出版 各分冊とも500円 計1,000円)

アジア経済論

清水 洋

【授業の概要】

1960年代以降、韓国・台湾・香港・シンガポールが外資を梃子に輸出志向型工業化政策を実施し、70年代に新興工業国として世界の注目を集めるようになった。80年代半ば以降は、マレーシアやタイ等のアセアン諸国もやはり外資と海外市場に大きく依存して急激な工業化に成功している。さらに、90年代には中国が同様に輸出主導型政策を導入して急成長を遂げ、今日では「世界の工場」と呼ばれるようになった。一方、日本経済は90年のバブル崩壊後、十数年にわたって低迷を続けており、これまでアジア経済を牽引してきた日本の影響力が低下している。

本講義では、アジア諸国の経済発展の内的・外的要因を分析し、一部の国が急激な経済発展を遂げる一方、天然資源に恵まれ、広大な国土を有するインドネシア等の経済が停滞を続けている背景を明らかにする。なお、政治的・宗教的・民族的・文化的要因などは非経済的要因だが、同地域の経済発展と密接な関係があるため併せて検討する。

【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオなどの視聴覚機器も適宜使用する。

1) アジア経済史

2) アジア経済と日本

3) ~ 4) 中国の工業化

5) ~ 6) マレーシアの経済発展と民族問題

7) ~ 8) 多民族国家シンガポールの経済発展

9) ~ 10) イスラム国家インドネシアの経済発展

11) アジアの経済発展における日本の役割

12) ~ 13) アジアにおける進出日系企業の事例

【評価方法】

定期試験が主体となるが、授業への参加度、レポートなども考慮に入れる。

【テキスト】

東南アジアの経済と歴史 (鈴木峻 日本経済評論社)

欧米経済史

藤瀬浩司

【授業の概要】

現代世界は大きな転換期にあります。この講義では現代に至る20世紀の経済発展を検討します。20世紀の歴史過程を通じて、独特な経済システム（20世紀資本主義）がどのように形成し、また転換していかかが、主要なテーマです。

【授業計画】

テキストを中心に進めます。

【評価方法】

授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

【テキスト】

欧米経済史—資本主義と世界経済の発展（藤瀬浩司著 放送大学教育振興会 1999）
講義と平行してテキストをよく読むこと。

比較政治論

西尾林太郎

【授業の概要】

政治的近代化と議会政治の導入とその展開を主軸とした日本、中国、韓国、イギリス等の比較研究と比較政治文化論。

【授業計画】

1. 〈比較〉の意義と手法
ポリアーキー、政治的近代化、国民国家
2. 中国、韓国、日本の近代化と議会政治
 - a. 科挙官僚体制、国民党、中国共産党
 - b. 李氏朝鮮、両班、党争
 - c. 古代律令体制、太政官制、内閣制度
3. 西欧諸国の近代化と日本
4. イギリスの議会政治
 - a. 名誉革命
 - b. ウォルポールの貢献
 - c. W. バジヨットの議院内閣制論
5. 日本の議会政治とイギリス

【評価方法】

試験と出席状況による。
試験は教科書と自筆ノートおよび授業中配布した資料の持込を許可する。

【テキスト】

現代政治学の基礎（西尾林太郎 早稲田経営出版 2,000円）（テーマ1、11、12、19、21、23）。

【参考文献・資料】

Asian Power and Politics (Lucian W.Pye Harvard Univ.Press)
漢字文化圏の歴史と未来（溝口雄三他編 大修館）
他はその都度指示する。

国際法

初谷良彦

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境の保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 国際法の概念
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回～第9回 国際社会における人権保障（1）
（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第10回～第11回 国際社会における人権保障（2）
（女性の人権、子どもの人権）
- 第12回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第13回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第14回 国際安全保障（国連軍、軍縮）

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中であって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

- 1. 比較教育学の基礎理論
- 2. 社会発展論と教育
- 3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
- 4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
- 5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
- 6. 文化と教育、異文化交流としての教育
- 7. 人権としての教育
- 8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

使用せず。（資料配布）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）
比較教育学の理論と方法（シュリーパー編著 東信堂）

国際理解教育論

小木曾通男

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

- 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - 技術伝習による日本の産業の近代化
- 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - 教科教育における国際理解教育
 - 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - 外国人英語教員の雇用とその役割
- 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 (300円)

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

比較文化論

國信潤子

【授業の概要】

今なぜ比較文化なのか。今日の急変する社会を観察する力を養う必要がある。今、地球規模で経済・政治・文化等の、社会の変容が進行している。環境破壊、資源有限時代、テロリズムなどの問題はいずれも一国、一社会で解決できる問題ではなくなっている。私たちの日常生活は好むと好まざるとにかかわらず、「グローバリゼーション」が進展している。しかし反面、多様な文化の個性性がこうした世界状況のなかでこそ重要であることも認識されるようになってきている。西欧中心主義から脱却し、動的・相対的文化認識の道を探る。

比較文化の認識枠、文化・文明の概念、単系発展説、多文化圏説、動態的文化理解などいくつかの文化認識枠を検討する。また、具体的事例として南北社会対立の問題点を検討し、開発途上国における開発について国連等のデータをもとにジェンダー分析する。

【授業計画】

大半は講義形式、後半でビデオ視聴をはさみ開発途上国の生活実態を紹介する内容についてジェンダー視点から分析する。グループ討議も取り入れる。

【評価方法】

出席態度、出席カード記述内容、期間中に一回のレポート、期末にレポート提出、以上の4点の総合評価による。

【テキスト】

なし。随時資料を配布する。

国際社会演習 I a・b

青島 宏

【授業の概要】

ベルリンの壁崩壊で始まった冷戦構造の消失で国際情勢は激変し、新しい民族問題が姿を現した。民族とはなにか、国民国家をどのように形成しているのか、現在の文明とどのように関わっているのかなどの理解なしには、西欧、東欧、ロシア、中東、アジアなど至る所で起きている国際情勢の変化をとらえることは出来ない。中東などの地域研究や英文資料講読を手掛かりに国際情勢を読み取る手法を学ぶ。

[民族とは] 民族についてはさまざまな定義が試みられている。古典的な民族観、近代や現代の民族についての考え方を身につけさせるとともに、日本人の思考様式の特異性を考える。

[宗教と国際情勢] 宗教は民族のアイデンティティと密接なつながりを持ち、しばしば国際情勢を読み解くキーワードになる。レバノン内戦でのマロン派キリスト教徒、パレスチナ紛争でのユダヤ教徒、イラン革命でのイスラムなどの分析を通じて、国際情勢の中での宗教を考える。

[地域研究] シオニズムとはなにか、パレスチナ紛争、イラン革命などの歴史的要因、冷戦などの国際情勢とのかわりなどを掘り下げて、中東での国際関係の読み解きを行う。

【授業計画】

理解を助けるために、できるだけスライド、写真、地図などを多用する。

【評価方法】

日常の出席状況とレポート提出による。

【テキスト】

国際関係論 (中嶋嶺雄著 中公新書)

文明の生態史観 (梅棹忠夫著 中公文庫)

英字紙の記事など英文資料を読むための意欲が望まれる。
国際情勢論を受講すること。

国際社会演習 I a・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

本演習では、日本語を母語としない人を対象にした日本語教育について考える。日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察する。また、それに加え、異なる社会の言語政策・言語教育についても学ぶ。

上記の学習を通じて、各自興味と焦点を絞り、そのテーマについて調査発表を行う。

本演習では、英語運用能力の強化を念頭に授業を進める。

【授業計画】

日本語教育については、テキストおよびビデオ教材を使い、初級授業で扱う文型・文法事項の英語による具体的指導法を考察する。

また、それに加え、共通のテキストを用いて、異なる国々、特に多文化・多言語社会に焦点を当て、その言語政策・言語教育などについても考察する。

【評価方法】

定期試験、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

未定

国際社会演習 I a・b

小木曾通男

【授業の概要】

現代社会は国際化社会といわれているが、国際化とは何かを考察する。日本が長い鎖国時代から国際社会の仲間入りをしたのは、今から約130年前のことである。

この130年間における日本の急速な国際化の軌跡を辿り、現代における日本の国際化について改めて問い直してみたい。

この演習を通じて、21世紀に生きる皆さんが国際的視野を広げ、国際人として活躍することを期待する。

【授業計画】

- 幕末の日本開国にともなう国際化について、代表的な人物に視点をあてて考察する。
 - 蘭学だけであった日本の洋学の拡大
 - 海外への使節団と留学生の派遣
 - 海外技術の導入（伝習）
- 明治新政府の方針「文明開化」「富国強兵」「殖産興業」による日本の国際化について、代表的な人物に視点をあてて考察する。
 - 海外視察団と海外留学生・伝習生の派遣
 - 貢進生、師範学校制度を中心に明治当初の教育
 - 大量に採用した「お雇い外国人」の役割
- 前期には各人が分担して、幕末から明治にかけて日本の国際化に貢献した人物について、そのプロフィールと活躍の軌跡を辿り、その略歴をまとめる。

後期においては、この「まとめ」を教材にして、日本の国際化に視点をあてて、個別的具体的に研究の内容と方法を深め、「演習II」に繋げる。

【評価方法】

前期及び後期ともにレポートにより評価する。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要（300円）

【参考文献・資料】

特命全権大使 欧米回覧実記1（岩波文庫）
その他授業中にその都度紹介する。

国際社会演習 I a・b

清水 洋

【授業の概要】

この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業計画】

テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜教示する。

- ～2) アジアの現代史
- ～4) 民族、宗教、言語
- ～6) 教育
- ～8) 政治と経済
- ～12) アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
- その他

【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

もっと知りたいシンガポール（綾部恒雄・石井米雄編 弘文堂）。

もっと知りたいマレーシア（綾部恒雄・石井米雄編 弘文堂）。

国際社会演習 I a・b

西尾林太郎

【授業の概要】

「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、〈国際化〉のまっただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

【授業計画】

例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論（日本論）や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論（ディベート）の方法を修得する。

また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。

そして、琉球（沖縄）・韓国・台湾・中国等の大学の歴史系や社会科学系のゼミとも交流をしたい。日本とは異質な文化を持つ琉球（沖縄）やこうしたアジア各国の人々との真摯な交流を通じて、日本の歴史や現実に対する理解を深めていきたい。

a 前期：上記のテーマに関して各自の発表、調査研修旅行（国内か東アジア地域又はその両方）

b 後期：日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表

【評価方法】

評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会演習 I a・b

秦 忠夫

【授業の概要】

日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。スタート時点では参加者の経済学履修状況にはバラツキがあると思われるので、次のような段階的アプローチをとる方針です。第1段階では、テキストを使って経済学の基礎を勉強します。第2段階では、『世界経済白書』などをテキストに世界経済の現状ならびに日本経済の実情と課題を勉強します。この段階では、各自が割り当てられた部分の要旨を報告し、質疑応答する形を基本とします。第3段階では、内外経済の注目されているテーマに関する論文・解説記事を多読し、実践的な理解力を鍛錬したいと思います。海外の論文・記事も取り入れて、英文資料の読解力の訓練も重視します。

【授業計画】

第1段階：最初の2カ月。経済学の基礎の勉強。

テキスト：選別中につき追って連絡。

第2段階：6月以降11月まで。内外経済の実情がテーマ。

テキスト：追って連絡

第3段階：残りの期間。実践的な理解力の鍛錬。

テキスト：内外の論文・解説記事のコピー

なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

上記の通り。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会演習 I a・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

現代日本経済がどのような歴史を経て現在のようになったのかを検討します。テキストに従って討論を進めます。卒論のために各自が研究テーマをもって勉強します。

【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

【テキスト】

橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書
(その他についてはゼミの中で指示します)

国際社会演習 I a・b

渡辺かよ子

【授業の概要】

「現代社会における教育：生涯発達支援の視点から」を全体テーマとし、①共通プロジェクト（「生涯発達支援としての教育」）、②個別プロジェクト（参加者各自の関心に基づく）から構成する。生涯発達という視点から教育学の基本理論を踏まえた上で、探求に必要な基礎知識や基礎理論を、参加者の異なる経験と相互に関連させながら学び、それぞれのテーマや関心を深化させていく。それ自身が重大な社会問題であると同時に、多様な社会問題の有力な解決策でもある「教育」という社会現象に関する研究法を上記プロジェクトを進める中で実践的に学び、現代社会における教育のあり方を探求する。

【授業計画】

各自の問題関心に基づくレポート発表と討論を行う。

【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

【テキスト】

使用せず（資料配布）。

【参考文献・資料】

近代日本の学校文化誌（石附実編著 思文閣出版）
世界の教育改革（佐藤三郎 東信堂）
世界の開発教育（オスラー 明石書店）
人間発達の生態学（ブロンフェンブレンナー 川島書店）

国際社会演習Ⅱ a・b

青島 宏

【授業の概要】

演習Ⅰでの学習を踏まえて、冷戦構造消失後に新しい変化が起きつつある国際情勢のなかなどから、各自の興味あるテーマ追究に取り組む。拡大する欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などの国際機構の新しい機能や、中東紛争や北アイルランド紛争、ペルシャ湾とエネルギー安保、米中枢テロとアフガニスタンなど視野にいれたい。

演習Ⅰの学習内容と関連させながら計画する。

【授業計画】

ゼミ生各自が演習Ⅰの学習を通じて国際問題への関心を広げ、興味のあるテーマを選んで、各自で調査発表する。

【評価方法】

日常の出席状況とレポート提出による。

【テキスト】

未定。

国際社会演習Ⅱ a・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、日本語を母国としない人を対象にした日本語教育、および異なる国・地域とその言語政策・言語教育状況などについて考察を深めるとともに、各自が設定したテーマで論文作成を進めていく。

【授業計画】

各自が、自分のテーマについて調査・研究を進め、中間発表を行う。クラス討議と教員の指導を通して、卒論を仕上げていくことになる。

【評価方法】

発表、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

未定

国際社会演習Ⅱ a・b

江藤恭二

【授業の概要】

従来の比較教育学研究と比較文化の成果に基づきつつ、広く欧米とアジアおよび日本の教育・文化の実態を追究し、さらには現代日本の教育課題を明らかにすることをめざす。

日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、中国、韓国等の教育・文化を対象にして、具体的なテーマに迫る。(例、いじめ問題、女性と教育、多文化教育、カリキュラム、教育方法、しつけ・家庭教育、大学教育 etc.)

各自の主体的意志に従って、テーマを選択し、アプローチしてもらうので、予め内容を記すことはできない。従来、レポートを何回か重ね、その内容を基礎にして、卒業論文を構成したケースが多い。

【授業計画】

最初に参加者各自の課題意識を確認し、各自設定したテーマに基づき、自由に伸びやかに、順次計画的に Report してもらう。随時、指導と助言を加える。

【評価方法】

出席状況および、Report 内容による平常の評価。

【テキスト】

特定しない。

国際社会演習Ⅱ a・b

小木曾通男

【授業の概要】

第二次世界大戦中日本が世界から孤立し、戦後も連合軍の占領下におかれ、平和条約締結後に再び国際社会に復帰した。経済的に厳しい日本にあって、空白の10年間の後どのように国際化を進め今日の経済大国になったかを学習する。

なお、平行して「演習Ⅰ」で関心をもった人物に焦点をあてて、日本の国際化を検証し、卒業論文に結実するように個別指導を行なう。

この演習を通じて、真の国際人としての視野を広げ、21世紀の国際人として飛躍することを期待する。

【授業計画】

- 1950年以降の日本の国際化について、教育を中心に産業経済、文化などの国際交流について次の視点から考察する。
 - (1) 戦後の日本の経済復興と日本の国際化との関係
 - (2) 様々な国際交流活動の展開の成果と欠陥
 - (3) 教育の国際化の展開の成果と問題点
- 現在の日本の国際化の現状について、外国人教員の活用、海外からの留学生の受け入れ、海外留学生の派遣等の分析を行ない、その問題点を明らかにしたい。
- 「演習Ⅰ」で調べた人物について、さらに文献等によりその活躍の軌跡、背景等の研究を深め前期において中間発表(文書)を行なうように指導する。
- 後期においては、中間発表をもとに、これらの人物に対する評価についてまとめ卒業論文に完結するよう指導する。

【評価方法】

前期及び後期ともにレポートにより評価する。

【テキスト】

特に使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

その都度個別的に参考とすべき著書・資料を指示する。

国際社会演習Ⅱ a・b

清水 洋

【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業計画】

テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜教示する。

- 1) ～2) アジアの現代史
- 3) ～4) 民族、宗教、言語
- 5) ～6) 教育
- 7) ～8) 政治と経済
- 9) ～12) アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
- 13) その他

【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に随時指示する。

国際社会演習Ⅱ a・b

西尾林太郎

【授業の概要】

「日本人と日本社会に関する総合的研究」

戦前および戦後の日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

【授業計画】

たとえ短くても、演習生全員が卒業論文（ワープロ打ち A 4 12枚以上。変更されることもある）作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。なお、ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点や卒論の一部について発表してもらう。

また、適宜、学外から講師をお呼びし、御指導いただきたいと思っている。

【評価方法】

評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

随時、指示する。

国際社会演習Ⅱ a・b

秦 忠夫

【授業の概要】

演習Ⅰでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習Ⅱでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「国際資本移動の功罪」、「わが国の金融制度改革」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めて行きたいと思います。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思います。引き続き英文資料の読解力の訓練を重視します。

教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れています。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

【授業計画】

上記の通り。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

テキストの使用予定なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会演習Ⅱ a・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

第二次大戦後の国際社会がどのような歴史を経て現在のようになったのかを検討します。演習ではヨーロッパやアメリカなどの経済発展を学ぶとともに、各自がいずれかの国、地域あるいは問題を選んで勉強し、卒論を準備します。

【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

【テキスト】

藤瀬浩司著『欧米経済史』放送大学教育振興会

国際社会演習Ⅱ a・b

山澤啓造

【授業の概要】

演習Ⅰの学習を深め、日米関係のなかで重要な役割を演じたアメリカの政治家・外交官・軍人などを、当時の日米外交と国際関係の文脈のなかで考察する。日米関係を基盤とするので、日本の政治家・外交官についても触れる。

【授業計画】

1. [前期] ゼミ学生各自が関心を持つ人物・事件などについて、文庫本一冊程度の書物を徹底的に多角的に検証・研究し、レポートにまとめて授業で発表する。
2. [後期] 前期でまとめたレポートを基盤として、数冊の関連した書物を比較・検討し、歴史の真実を追究する。研究の成果をレポートにまとめて授業で発表する。
3. [卒論へ向けて] 前期・後期の研究を通じて卒論の原稿(draft)を11月末までに私まで提出し、互いに検討する。卒論は強制的ではないが、演習Ⅰ・演習Ⅱの勉強により自動的に書けるはずと思う。
4. [山澤] 授業のとき、学生のレポート発表を聴きながら、適宜適当に助言する。授業をすることもある。

【評価方法】

レポートと授業への態度などで評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

演習Ⅰであげた書物のほか、適宜適当に紹介する。

マス・コミュニケーション論

梅田紘輝

【授業の概要】

新聞、テレビなどを代表とするマスメディアが「第4の権力」と指摘されて久しいが、それは「権力への監視」機能においてなのか、「権力志向性」においてなのか？ 今、デジタル時代を迎えて「双方向」をキーワードに、マスメディアの在り方が根底から問われている。一方向的だったメディアが、「誰のためのメディア？」と。

授業では、マス・コミュニケーションがどんな機能を果たし、時代の中でどう変化し、何を目指して行くのかをより今日的な視点で考えてみたい。

放送局のニュースや報道番組、特にドキュメンタリー番組の制作に関わってきた「現場の体験」を、講義に反映させたい。「メディア・リテラシー」が今後の展望の羅針盤になるだろう。

【授業計画】

1. コミュニケーションとメディアの機能
シンボルとメッセージ、「映像主義」の功罪などを4回前後で講義
2. マスメディアが伝えた現在
「松本サリン事件」や「神戸児童殺傷事件」などの報道をケーススタディーする。誤報、虚報など、情報操作の実態と教訓をVTR素材を使いつつ検証する。
3. メディア・リテラシーとメディア・アクセス
広がるメディア不信の声を背景に、公的規制の網が投げ掛けられようとしている。「放送倫理」が問われるのは当然だが、メディアを「第三者機関」で検証する仕組みやルールの構築が望まれる。長期的にはメディア・リテラシーと「アクセス権」の浸透に、「情報市民社会」の成否がかかっている。

【評価方法】

小レポート（平常点）と期末レポートで総合評価。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考図書は授業で紹介する。

マス・カルチャー論

山田登世子

【授業の概要】

ファッションという日常文化の分析をとおして「現代社会」を考える。

- ◇ファッションとは何か — その1（身体論的アプローチ）「見せる」ことと「隠す」こと
- ◇モードとは何か — その2（時間論的アプローチ）「流行」とは何か、わたしたちはなぜトレンドに敏感なのか？
- ◇ブランドって何？
ルイ・ヴィトン、シャネルなどを例に、ブランドの文化史を学ぶ
- ◇誘惑論 — ひとはなぜおしやれをするのか？
- ◇モードと性 — シャネルなどをめぐって
上記のようなプランにそって、「おしやれ、何のために？」を考える。

【授業計画】

講義ではありますが、授業に「参加」してもらうため、ぬきうちショート・テストを毎回のように行います。（このテストをとおして届いた受講生の意見を収録した新書を授業のテキストに使います）

【評価方法】

ショート・テストに代表される平常点を評価しますが、学期末のレポートが成績のわかれ目です。

【テキスト】

ETUDE SUR LA MODE（山田登世子）

ブランドの世紀（山田登世子 マガジンハウス1,800円）※2冊セット販売

メディア社会論

石田米和

【授業の概要】

人々の考え方や行動の総体としての文化を創り出し、普及させていく手段としての各種メディア（衛星テレビ、携帯電話、インターネット等）を取り上げ、メディアそのものの発展状況、メディアの諸機能、メディアに日常的に接している我々が留意すべき点等について考えていく。

概ね以下のようなテーマに沿って進めていく。

1. メディア（衛星テレビ、携帯電話、インターネット等）の進捗状況と特徴
2. メディア環境の変化と影響—企業活動、組織、生活、地域社会、グローバル化とローカル化
3. メディア社会の特質と将来

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。テキストの十分な理解と関連学習が必須である。

【評価方法】

真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。
評価はレポート提出、定期試験、受講態度により行う。

【テキスト】

未定。

ニューメディア論

高橋 徹

【授業の概要】

本授業では、情報化社会の進展に極めて大きな関わりを持っている「ニューメディア」の概念を、単に技術的な解説とせず、情報の送り手、受け手、情報内容等の利用上の特徴をとらえて解説し、ニューメディアに関する知識の習得を目的とする。

はじめに本講義を進めていく基本的視点を提示し、ニューメディアが様々な側面と密接な関係にあることを学ぶ。さらに技術的背景、社会・経済・文化的背景が情報通信技術やコミュニケーション活動に与えている様々な現象について知識を深めていく。その上で、情報社会における生活様式や産業活動等がどのように変化してきたかを習得する。

1. ニューメディアの歴史
2. 生活とニューメディア
3. 教育とニューメディア
4. ビジネス社会とニューメディア
5. 行政とニューメディア
6. 地域開発とニューメディア
7. 電気通信産業概説
8. メディア産業とニューメディア
9. 文化の情報化
10. 情報リテラシー
11. 情報社会の作法・マナー
12. テレコミュニケーションの制度
13. 海外の動き

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材、VTRも使用する。

【評価方法】

定期試験、小テスト、出席率等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定。

放送メディア論

大西 誠

【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送の成立から放送現場の実態までをたどりながら、その機能や問題点を探り、現代社会との関わりを展望する。

【授業計画】

講義形式。

1. 放送のなりたちと歴史（電波メディアの発達）
2. 放送の公共性と制作体制（NHKと民放）
3. 放送とコマーシャル（広告媒体としての放送）
4. 放送とジャーナリズム
5. 放送と災害
6. 放送と政治
7. 制作現場Ⅰ ニュース／ドキュメンタリー
8. 制作現場Ⅱ ドラマ／バラエティ
9. 制作現場Ⅲ 教育／教養
10. デジタル放送と放送のグローバル化 など

（内容については、変更になる場合がある）

日常のテレビ番組から何かを発見してほしい。授業中は私語厳禁。

【評価方法】

出席状況、小テストと学期末レポートなどによる。

【テキスト】

授業中に指示する。

メディアリテラシー論

小川明子

【授業の概要】

日常生活において、私達は、テレビ、新聞などのマスメディアや電話、e-mailなど様々なメディアに囲まれている。しかし、こうしたメディアが私達のコミュニケーションのあり方にどのような影響をもたらしているのか、またどのように活用できるかについて、私達はあまり意識的ではない。

本講義では、最近様々な場で提唱されるメディアリテラシーの概念について、体験的に習得することを目標とする。単なるメディア批判に終わることなく、市民社会におけるメディアとの関わり方や情報モラルについても考えていく。

【授業計画】

1. メディアの歴史と社会
2. メディアとコミュニケーション
3. メディアリテラシーとは
4. メディアと教育
5. 市民社会とメディア

資料を提示しながら進める。体験的に習得することを目指すため、取材、メディア表現等の実践も取り入れる予定。

【評価方法】

授業に対するコメントと期末レポートによる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

『メディアリテラシー—メディアと市民をつなぐ回路—』

NIPPORO文庫

『メディア・リテラシー』 リベルタ出版 ほか

放送制作論Ⅰ（制作基礎）

小川明子

【授業の概要】

番組がどのような経緯で企画、制作され、放送に至るかについて実際に2分程度の映像を制作することで体験的に学ぶ。また、取材方法、番組で必要とされるアナウンス、ナレーション、レポート等の音声表現、映像表現について習得し、各自が番組や映像で訴えたいことを効果的に表現できるよう、基礎的な方法を実践的に学習する。

【授業計画】

実際に放送された番組素材の分析とともに、自ら制作、発表する機会を積極的に設けたい。

【評価方法】

授業態度と発表を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜指定する。

放送制作論Ⅰ（制作基礎）

福森みか

【授業の概要】

ビデオカメラやコンピュータの個人所有が一般的になった現在、映像はテレビや映画関係者などプロだけが制作するものではなくなった。趣味の撮影、会社での記録や、プレゼンのため、webでの映像配信など、だれでも映像（情報）の発信者になれるようになった。しかし、人に何かを伝えるためにはただ撮影すればいいというものではない。ビデオカメラで撮影するだけでは記録にすぎない。人に見せる、伝えるという意志を持って、撮影、編集することによりメッセージが生まれる。

この授業ではテレビ番組の制作方法をベースに、企画、撮影、編集の基礎を行ない、映像で他者に何かを伝えるということに取り組んでもらう。実際に自分で番組制作をすることにより、現実に放送されている映像、情報の虚実を読み取る力をつける。

【授業計画】

最終課題として、8mmビデオカメラ（Hi8テープ対応）を使用して、2分間の自己PR番組を制作する。それに向け番組制作の基礎理論と演習を行なう。

メディアプロデュースコース希望または専攻者が望ましい。

【評価方法】

出席回数、授業態度、課題で総合的に評価する。

【テキスト】

なし

放送制作論Ⅱ（スタジオ制作）

大西 誠

【授業の概要】

スタジオ機器を使用して、ニュース番組とトーク情報番組を制作する。演出などの理論と機器の使用方法を学習し、放送が個人プレイによるものでなく、集団で作上げるものであることを学ぶ。またカメラ、音声、照明など技術面とディレクターやフロア・ディレクター、出演者など演出面を実地に経験することにより、制作における問題点や番組制作の裏面を理解する。

【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

1. スタジオカメラ等制作技術の操作
2. 出演者とスタッフの関係
3. 台本の書き方
4. 放送素材／ロケーションと編集
5. スタジオ収録と試写

以上を目標にグループによる番組の制作を通じて、メディア・リテラシー能力を高める。
メディアプロデューサー・コース希望または専攻者が望ましい。実習の積み重ねが大切なのでチームワークを大切にしてほしい。

【評価方法】

実習の態度（チームワーク）と作品及びレポートで評価する。

【テキスト】

なし。

サブカルチャー論

太田浩司

【授業の概要】

この授業では現代日本社会における様々なグループ間でのコミュニケーションの現状と特徴について知識を深めることを目標とする。特に社会アイデンティティ理論という社会心理学における理論的立場から異文化、サブカルチャー、共文化などと呼ばれるグループに属する人々間でのコミュニケーションプロセスについて吟味をする。教材は英語及び日本語。詳しい授業の計画は初回の講義で説明するが、以下の内容を授業で扱う予定である。

【授業計画】

- (1) 社会アイデンティティ理論
- (2) 偏見と差別
- (3) ステレオタイプ
- (4) コミュニケーション調節理論
- (5) 文化と価値観
- (6) 異文化間コミュニケーション
- (7) スティグマ (Stigma) と対人プロセス
- (8) 異文化と教育

【評価方法】

テスト1回（期末）、短いペーパー3回の予定。出席

【テキスト】

異文化間コミュニケーション入門（創元社）
その他日本語および英語の教材

マルチメディア情報論

辻 紘良

【授業の概要】

マルチメディア情報を構成する要素は画像、映像、音、通信であり、また一方、認識と創作という両面を持ち合わせている。ここでは、これらの種々の特徴を示すとともに、技術、システム、応用の面から全体の体系と相互の関連性をわかりやすく提示する。あわせて、技術的な内容について基本となる原理を中心に説明し理解を進める。

【授業計画】

1. マルチメディア情報学の基礎
2. 情報を用いた問題解決
3. 情報の計測と制御
4. 情報の伝達
5. 情報の収集と発信
6. 情報の表現
7. 文字と音の情報処理
8. 情報の創出とデザイン
9. 表現の技術
10. 情報化社会

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア活用の実例や実験例を提示し理解を深める

【評価方法】

課題の提出や期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

情報テキストブック編集委員会編「情報—デジタルコミュニケーション」CG-ARTS協会、p111、2000
長尾・安西他編著「マルチメディア情報学の基礎」岩波書店、p240、1999他

放送制作論Ⅲ（ドキュメンタリー）

大西 誠

【授業の概要】

現代社会をビデオカメラの目を通して見つめることを理論と実習で養成する。カメラによって切り取った現実を新たな編集という作業によって、再構成し、現実世界のとらえ方を認識する。また作品を通じて、新たな現実を映像で作り上げ、伝えていくというドキュメンタリー番組のあり方について考察する。

（放送制作論Ⅰ受講済が条件）

【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

各回の講義の中で様々な作品を鑑賞・批評することによって、制作手法を学ぶとともに、課題テーマをもとに、インタビューとリポートを基本としたドキュメンタリー番組を制作する。

1. ドキュメンタリー番組の企画
2. ドキュメンタリー番組の演出
3. ドキュメンタリー番組の編集
4. ドキュメンタリー番組の評価

以上を目標に2～3人のチームワークによる実習を中心に番組制作をする。

自ら取材する意欲、問題意識が求められる。新聞の企画記事やドキュメンタリー番組を見てほしい。放送制作論Ⅰの未受講者は、不可。

【評価方法】

出席・実習の態度と作品内容（形式とメッセージ性）で評価する。

【テキスト】

なし。

放送制作論Ⅳ（ドラマ）

大久保晋作

【授業の概要】

ドラマ（TVドラマ番組）制作を試みることによって、自然や人間を見つめる目を育てるとともに、現代社会を把握する一つの方法を身につける。

また、ドラマがいかにか多くの人を経て制作されるかを知ることによって、その中に現れる芸術性や文化の創造性について考える。

【授業計画】

講義は、下記のようなもので構成される。

1. TVドラマの条件
2. TVドラマの企画
3. 台本の決定と演出
4. TVドラマの美術
5. TVドラマの技術（カメラ、音声、照明）
6. 演技者
7. 編集
8. 完成／試写

など

多くのドラマ番組を視聴しながら、理論と実習を組みあわせる。また制作現場を見学し、理解の一助とする。

【評価方法】

授業への参加度、課題レポートで総合評価する。

【テキスト】

なし。

情報文化論

小川明子

【授業の概要】

現代社会において、私達の文化はメディア産業と深い関わりを持っている。本講義では以下の内容に焦点を当てて具体的に身近な事例を参照しながら、情報文化について多面的な考察を加えたい。

1. 情報の東京一極集中ーテレビ産業から考えるー
情報の東京一極集中が叫ばれて久しい。行政による地域情報化政策も成功しているとはいいがたい。そこで、私達の生活、文化と密接なテレビを産業として分析することで、情報ー産業ー文化について考察する。
2. 産業と文化の接点ーコマーシャルを手がかりにー
現代は高度消費社会でもある。コマーシャルの歴史は産業の歴史でもあり、大衆文化の記録でもある。
3. 情報化と社会ー課題と可能性ー
情報化は私たちの文化にどのような影響を与えるのか。デジタルデバイド、著作権等の知的所有権の問題など、現在話題のトピックについても考えていく。

【授業計画】

上記の内容について、ビデオ、プリント資料をもとに講義形式で進める。

【評価方法】

期末レポート。プレゼンテーション、授業に対するコメントを補助的に用いる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜指定する。

映像制作論

坂元 多

【授業の概要】

ビデオや映画の中の表現テクニックを抽出して映像制作方法として一般化、法則化を試みる。

映像制作は高い独創性が要求される。これは説明や講義で学べるものではない。数多くの優れた作品に接しながら、これを理解し、消化する中で制作の手がかりを得る。

【授業計画】

映像作品の試写と解析。

【評価方法】

授業時間内のテストで評価。

【テキスト】

特になし。

ヴィジュアル・コミュニケーション論

石田米和

【授業の概要】

マルチメディアの進展が契機となり、コミュニケーションの場における映像化・ビジュアル化の傾向が顕著になりつつある。このような状況を踏まえて、映像化・ビジュアル化の歴史の変遷を概要しつつ、そのことの社会的影響や認知、理解への影響、文字によるコミュニケーションとの関係、さらにトータル・コミュニケーションの再検討について考えていく予定である。

主として以下のような内容を取り上げる予定である。

映像化・ビジュアル化とは一歴史の変遷、社会的要請
映像化・ビジュアル化の影響—社会経済的、心理的
(認知、理解等) 等

映像化・ビジュアル化と文字によるコミュニケーションとの関係

映像化・ビジュアル化と文化

映像化・ビジュアル化の問題点

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等の映像資料を使用する。テキストの十分な理解と関連学習が必須である。

【評価方法】

真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度により決める。

【テキスト】

ビジュアルコミュニケーション (藤沢、瀧本、中村、西川共著 グヴィッド社)

電子メディア論

太田浩司

【授業の概要】

我々の日常生活の中でコミュニケーションの果たす役割は計り知れない。コミュニケーション自体が生活と言っても過言ではないだろう。その中でも近年、テクノロジーの発展に伴いface-to-faceのコミュニケーションから、電話、携帯電話、インターネットなどの媒体を介してのいわゆる“mediated communication”に依存する割合が非常に大きくなっている。そこで、この授業ではコミュニケーションの中におけるメディアの役割をインターネット使用などの実践を通じて理解を高めることに加えて、必要なモラルや技術も身につけたい。またコミュニケーション、とくに対人コミュニケーション、マスコミュニケーションや社会心理学の理論的観点からメディアを通してのコミュニケーションを考察していく。教材は英語及び日本語。詳しい授業の計画は初回の講義で説明するが、以下の内容を授業で扱う予定である。

【授業計画】

- (1) メディア使用とコミュニケーション
- (2) マスコミュニケーション基本理論
- (3) Computer Mediated Communication
- (4) 電話（設置・ケータイ）とコミュニケーション
- (5) テレビの影響研究

【評価方法】

テスト1回（期末）、短いペーパー3回の予定。出席

【テキスト】

- ・未定
- ・日本語および英語の教材

映像演出論

大西 誠

【授業の概要】

これまでの国内の名作映画の中で、記憶に残るシーンを抽出し、映像技法という角度から分析し、制作者の意図と演出の意味について学ぶ。

【授業計画】

すぐれた映像は、一定の技術を使って商品を作り上げる職人的要素と独自の語り方を表現する作家的要素によって成り立っているといえる。本講では、黒澤明監督の作品を中心に映像が生み出す感動や驚きに焦点をあてて、数々の映像技術を取り上げ解説を試みる。あわせて映画が作り上げてきた映像文法を考察する。

具体的には、下記のような技術を用いた映像場面を取り上げて検討する。

- ・クローズ・アップとロング・ショット
- ・アクション・カットとダイアログ・カット
- ・オーバー・ラップとフェード・アウト
- ・マルチ・カメラ
- ・スローモーション
- ・パンフォーカス
- ・ワンシーン・ワンカット

【評価方法】

授業への参加度、小テスト、期末の試験などで総合評価する。

【テキスト】

映画「七人の侍」

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

石田米和

【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習Ⅱや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

理解力・洞察力の涵養に必要な方法論の知識を獲得しつつ、メディアや文化の理解を深めていく。概ね、以下のようなテーマを考えている。

1. 社会科学における方法論・手法論
2. 理解力・洞察力・表現力等
3. メディア（環境）の変容とその影響
4. メディア文化の考え方
5. 文化の再検討
6. 関心テーマ（卒業論文）の模索

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

受講資格は特にない。
評価はレポート提出、定期試験、受講態度、出欠・活動状況により行う。

【テキスト】

未定。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

太田浩司

【授業の概要】

現代の生活に欠かせない言葉に文化とテクノロジーがあります。さまざまな文化・社会グループの人たちが混在し、またコンピューター、ケータイなどのテクノロジーの凄まじい速さでの発展がするなかで、自分を理解し、多様な価値観を持つ人たちと生活をしていくのは非常にチャレンジングなことです。自分たちの日常の行動を振り返り、いったい何を考え、どのような行動をしているのかについてのメカニズムを知るということは自分という人間を見失わないためには非常に大切なことだと思います。そこで、このゼミでは私たちはいったいどのように周りの人に自分たちを提示し、またどのように周りの人を理解、区別しているかへの理解を深めていくことを目標としています。特に今年度は社会心理学・コミュニケーションという視点から人間の身体に焦点を当てて、私たちが生活の中でどのように人を認識しているか、またどのようにメッセージを相手に伝えているかをグループでのプロジェクトを通して勉強していきたいと思えます。

授業の方法は教科書や英語のReaderを分担して読み、発表すること、プロジェクトとして実験・調査をして発表、そして論文に仕上げていくことを中心に行います。

【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示します。以下の内容を含む予定です。

1. 自己提示としての服装・化粧
2. 服装・化粧と異文化
3. 服装・化粧と印象形成
4. 服装・化粧と対人コミュニケーション
5. コミュニケーションにおける声の役割
6. 研究方法
7. データ分析
8. 論文作成

【評価方法】

出席、口頭発表、チームペーパー

【テキスト】

被服と化粧の社会心理学 高木修監修 北王子書房

メディアプロデュース演習 I a・b

大西 誠

【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、各種メディアの誕生の歴史に立ち返りながら、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。具体的には、リアリティを構成する映像等の素材をもとにメディアの送り手の意図を解説するとともに主体的な発信者となることを目指す。

【授業計画】

映像などの素材をもとに発表および討論。

<前期>

写真、映画、テレビ、ビデオなど様々なメディアの映像を読み解くとともに、現代社会のメディアの動向に目を向けて、ジャーナルな感覚を身につける。

- 1) テキストの解説・要約と意見の発表
- 2) メディア表現の分析と討論

<後期>

前期の継続とともに、メディア表現について、課題テーマを設定し、検討を加える。

【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなど。

【テキスト】

『映像論』(NHK出版)

メディアプロデュース演習 I a・b

小川明子

【授業の概要】

メディアと地域社会について考える。

前期には、地域社会とメディアについての文献講読(英語を含む)と、地域にどのようなメディアがどのくらいあり、どのように利用されているかの調査を行う。

後期には、地域住民や学生が、自らの情報や作品を発表するということに焦点を当て、どのようなメディアが利用可能かを検証する。

さらに次年度は、実際に自らの作品等が発表できたり、自由に発言できるメディア、あるいはシステムを構築することを目標にしている。

【授業計画】

1. 年間計画提示
- 2-6. 地域メディア論 文献講読(日・英)
- 7-16. 東海地方の地域メディア調査・発表
- 17-23. 視聴者・読者調査
24. まとめ

【評価方法】

授業態度、発表等から総合的に評価する

メディアプロデュース演習 I a・b

五島幸一

【授業の概要】

高度情報化社会と称される今日において、メディアが果たす役割がますます重要になってくる。新聞やテレビなどを示すオールドメディアからコンピュータネットワークなどを意味するニューメディアを概観し、その特徴を考えていく。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。とくに、学生主体の発表とするので、学生はプレゼンテーションを考えること。

【評価方法】

授業への参加度、与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するチームペーパーをもって評価の対象とする。

ゼミでは学期末試験を行わないかわりに、チームペーパーを課す。

【テキスト】

論文の書き方（澤田昭夫 講談社学術文庫）

メディア・コミュニケーション論（竹内・児島・橋元 編著 北樹出版）

メディアプロデュース演習 I a・b

坂元 多

【授業の概要】

ー映像表現のテクニックをさぐるー

テレビ制作の技能を学びとるには、数多くの番組視聴試写がかかせない。映画を含む既成の映像番組の中から具体的にすぐれた表現テクニックを抽出し、整理分析し体系化することでトータルな映像表現の理解を構築する。組織化された教材映像のスクリーニングを媒介として映像表現の知識、技能を習得する。

一枚の絵ハガキ、絵画、写真などスタイルの解析

TV、映画、コマーシャルなど動く映像の解析

ディスプレイ、インスタレーションの解析

ビデオ制作による表現技術の実践と評価

【授業計画】

映像の提示、報告、解析の演習。

【評価方法】

試料となる映像から何をどう読みとるか、各回のとり組み方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習 I a・b

辻 紘良

【授業の概要】

マルチメディアの要素技術であるCG画像作成、デジタル映像ならびにMIDI音楽について作成方法や編集技術を学び、これらを総合的に活用してデジタル映像作品等を作成する。さらに、研究室LANを介してこれらの映像作品の対話型送受信を試みる。これらにより、マルチメディア技術諸相の現在を体得するとともに、マルチメディアの可能性と問題点を具体的に把握する。

【授業計画】

前期はパソコンで行うマルチメディアに関する基礎技術を学ぶ。後期は、修得した技術を総合的に活用して映像作品を作成し、ネットワークに載せ対話型送受信を試みる。

前期：マルチメディアに関する基礎技術の修得

- ・2・3次元画像作成（イラスト、3次元CG）
- ・デジタル映像作成・編集（対話型2・3次元動画）
- ・サウンド作成・編集（MIDI音楽）
- ・ホームページ作成（対話型ネットワーク通信）
- ・プログラミング（ネット対応言語）

後期：作品作成

- ・各自作品（一つのソフトを利用して作成）
- ・グループ作品（複数のソフトを活用して作成）

7号棟Media Landの設備を使用する。

受講にさいしては「コンピュータ演習9、10、11」の履修が望ましい。また、授業に電子メールを利用するので、学内のネットワーク利用資格を取得しておくこと。

【評価方法】

課題の提出状況や期末試験の結果、ならびに作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

各ソフトのマニュアル等。

メディアプロデュース演習 I a・b

古賀暁子

【授業の概要】

—映像の面白さを“ことば”で語る—

現代は映像の時代だといわれている。生活の中で映像の読解や映像による表現の必要性は日々に増している。

古今の映像、それが1枚の絵や写真、映画の1シーン、テレビCMの1場面であれ、自分に訴えてくるものを、ことばによって追い求め、知の枠組みとして構築してみることは楽しい。一人で楽しむのもいいが、授業では、この楽しみを仲間と共有してみよう。

【授業計画】

講師が提示し解説する映像を見て感想や意見を述べることから始めるが、やがて各学生が自分のこだわりの映像を提示し解説し、全員でこれを解析してゆくことを中心とする。自作の映像作品を題材とすることも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、自主研究の深まりなどによって常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

石田米和

【授業の概要】

演習Ⅰでのテーマをより深化させて、関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。

概ね以下の項目についての指導を行っていく。

メディア文化に関する議論、個別研究

関心テーマの絞り込み

卒業論文の作成計画

卒業論文の執筆

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

受講資格は特にない。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度、出欠・活動状況により行う。

【テキスト】

未定。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

太田浩司

【授業の概要】

演習Ⅰ a・bに引き続きメディアに現れる文化の諸相という視点から文化とメディアの関係を様々なメディア（声、話し方、行動、映像、文章表現、建造物など）を通して研究する。その中でコンピュータを使用してのプレゼンテーション、データ分析、また簡単な作品製作を経験することによって現代メディアの使用能力の向上も図りたい。

前期はグループプロジェクト方式、後期は卒論に向けての個人プロジェクトという形式を採用する予定である。

【評価方法】

グループプロジェクト及び個人プロジェクトのレポート

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

大西 誠

【授業の概要】

演習Ⅰ a・bをさらに発展させる。

メディアプロデュースの実際について、計画から実施まで制作を試みる。それぞれの感覚や独自性の伸長をはかるため、個別課題にとりくむ。

【授業計画】

研究発表と討論、一部フィールドワーク。課題の深化のため、個別指導を求めることが望ましい。

<前期>

各自の課題を明確にし、メディア・プロデュースについて理解を深める。

- 1) メディア表現分析
- 2) テキスト解読と応用

<後期>

グループワークとしてメディア企画のシミュレーションを行うとともに具体的な成果物（卒業制作など）の作成にとりくむ。

研究課題の柱は以下の二つ。

- 1) 広告企画
- 2) 展示企画

【評価方法】

口頭発表、レポートの提出。作品制作により総合的に評価。

【テキスト】

「情報デザイン入門」（平凡社新書）

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

五島幸一

【授業の概要】

現代社会においてはマスメディアを通して様々なものが伝達されてくる。とくに、テレビ、ラジオ、新聞などのメディアが私たちに与える影響は大きい。そのようなメディアを通して私たちが毎日触れるものには「説得」という要因が必ず入り込んでいる。そこで、この説得の構図がどのようにになっているのかをこの授業では検討する。

ここでの視点は、コミュニケーションの一分野としてのレトリック的な見方であり、マスメディアを通してのニュース報道や広告がどのように現実を形成し、また態度や行動にどういった影響を及ぼすのかを考察する。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するチーム・ペーパーをもって評価の対象とする。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

坂元 多

【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。

課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

【授業計画】

試写と討議を中心とする演習。

【評価方法】

発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

辻 紘良

【授業の概要】

演習Ⅰで体得した現実のマルチメディア技術諸相の認識を基盤とし、次の研究1～4を並行して進めていく。

(研究1) マルチメディア社会や技術に関し、今日的なテーマを設定し、調査分析を試みる。例えば、ブロードバンドやi-modeなど具体例を取り上げ、それらの現状と将来を調査し、地域社会や産業の活性化にどのような影響を及ぼすかを考察する。

(研究2) 演習Ⅰの延長でマルチメディアを総合的に駆使してデジタル映像等の作品作成を行う。

(研究3) マルチメディアに関する要素技術をより深める実験・研究を行い、応用面を開拓する。

(研究4) 新しいシステムの望ましい姿を思い描き、プログラム言語を用いてパソコン上に構築し、実現可能性を確認する。

【授業計画】

(研究1) は前期は調査が主、後期は具対例を対象に分析・考察し、論文にまとめる。調査対象は一人一つを選び、前期に専念して調査する。後期は各自がその結果を用いて現状や将来を考察するとともに、論文を作成する。これらを随時、各自が発表するとともに全員で討議し問題の認識を深める。講義や、クラス討議を通して各技術の位置づけや、関連性を理解する。これらを通して、マルチメディアに関して具体的で幅広い認識を得る。

(研究2)～(研究4) についても上記と同様に前期、後期の階段を追って研究を深める。

受講にさいしては「コンピュータ演習9、10、11」の履修が望ましい。学内ネットワーク利用資格は取得しておくこと。

【評価方法】

中間報告やクラス討議、ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

日経 ネットビジネス (日経BP社) 等

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

古賀暁子

【授業の概要】

演習Ⅰでの経験をもとに、映像の世界を更に深く遠く旅することにしよう。その過程では、先達の遺したすぐれた作品に感動したり、その時代としての新しい挑戦の意義に気付いたりすることも必要だ。映像の面白さをあえて言葉で分析し、整理し、表現することを学ぶことによって、注意深く“見る”眼が養われ、映像表現のテクニックも身につくことであろう。

【授業計画】

演習Ⅰとの相異点は、学生主体の発表に課題を与え、方向性を加味する。話し合うだけでなく、論理的な文章としてまとめる訓練も行う。演習Ⅰと同様、自作の映像作品をもちよって全員で検討することも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、レポート、自主研究の深まりなどにより常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

東浦信博

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、Ⅱでは主としてメディアをミックスあるいはマルチ化された教材について研究・制作を行う。

【授業計画】

4. メディアミックス・ハイパーメディア・マルチメディアについて調べる。
5. コンピュータ上で扱える教材について研究する（インターネットを含む）。
6. 学生各自が学習教材の試作を行う。

講義方式はとらない。ガイダンスとアドバイスにより学生自ら調査研究と制作作業を行う。

【評価方法】

演習参加の姿勢とレポート及び制作した作品により評価する。

【テキスト】

なし。

住生活論

渥美正子

【授業の概要】

住まいは、私たちにとって欠かすことのできない家庭生活の「器」である。現代社会の住まいは様々であるが、住まいやそこで展開される住生活様式は、風土・時代・社会の中で形成され、変化してきた。こうしたことを学習するなかで、住まいは人間生活の大切な基地であること、理解を深め、快適な「住まい方」を創造していくことの重要性を認識する。

【授業計画】

- 1 住生活とは
- 2 風土と住まい
風土特性と住様式、民家が語るもの
- 3 日本住宅の原型
寝殿造・書院造の住様式
- 4 戦前の住宅と住様式
「家」制度と住まい
- 5 西山卯三の研究
住生活の秩序化
- 6 モダンリビングの住生活
民主的住生活、n LDK型プラン
- 7 住生活におけるポスト・モダンリビング
家族の多様化と住要求の変化
- 8 これからの住生活
新しい住まい方の展望
- 9 住生活の洋風化
住生活の洋風化過程
- 10 起居様式
イス座・ユカ座、畳の行方
- 11 マンションと住居管理
集住、マンションの管理問題
- 12 家庭生活を映し出す住まい
住み手が主人公の住まい

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

図解住居学 1 住まいと生活 (岸本幸臣他編著 彰国社)
プリント配布

現代デザイン史

河辺泰宏

【授業の概要】

19世紀から現在に至るまでの欧米におけるデザイン思潮の流れを概観し、社会状況や生活様式、生産様式の変化との関わりの中で、近代デザインが成立した過程を知るとともに、デザイン分析を通じて近代社会の歩みを理解する。

【授業計画】

- 1) デザインの意味と力
大量消費社会におけるデザインの意味と可能性
- 2) エンジニアの勝利
産業革命による新技術が空間デザインに及ぼした影響
- 3) デザインによる革命
アーツ・アンド・クラフツ運動の歴史的意義
- 4) 世紀末の華爛
世紀末の社会現象としてのアール・ヌーヴォー様式
- 5) アール・ヌーヴォーの光と影
世紀末芸術家達の私的課題と社会的課題との乖離
- 6) ロマンティック・ナショナリズム
世紀末スペインにおける地域性と共通性の問題
- 7) 新世紀の光芒
分離派とグラスゴー派における新デザイン原理
- 8) 摩天楼の夢
第一次大戦後の機械文明の成熟とアール・デコ様式
- 9) ポスターの英雄時代
商業化社会におけるグラフィックデザインの歴史
- 10) 産業化された美意識
大量生産システムを前提とした機能主義的デザイン
- 11) 白の時代
バウ・ハウス以後のモダン・デザインの特質
- 12) 新世紀末の回航
多様化した現代のデザイン傾向とポスト・モダン

【評価方法】

中間および期末にレポートを課す。

【テキスト】

世界デザイン史 (阿部公正監修 美術出版社)

インテリアデザイン論

高橋敏郎

【授業の概要】

近世から現代に至るインテリアデザイン、家具デザインなどの思潮と様式を概観し、これを基盤として、空間を構成する各種エレメント（要素）や素材、造形のそれぞれの機能と意味について学習する。さらに、近未来に向けての、健康や安全を含むインテリアアメニティー高き空間創造について考察する。

現代に至る和、洋のインテリアデザイン、家具デザインなどの思潮と様式について、生活様式との関わりの観点から歴史を考察する。次に、空間を構成する床、壁、天井などの各種エレメント（要素）のそれぞれの機能、工法、構成する材料などについての基礎的な知識を修得する。また、そのようにして構成された造形や、空間の意味、造形心理について学習する。さらに、快適環境をつくる基礎となる室内気候、環境設備機器についても基礎的な知識を修得する。

【授業計画】

テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

【評価方法】

学習した各单元ごとに小テスト、レポート課題などを実施、定期試験と合わせて評価する。

【テキスト】

インテリアデザイン教科書（インテリアデザイン教科書研究会編著 彰国社）

生活環境学

渥美正子

【授業の概要】

住まいを取り巻く社会環境の変化は、住宅・住環境面に対して様々な問題を提起し、従来の住み方を見直す要因となっている。高齢社会の進行、高度情報化社会の到来、人工的室内環境、家族・ライフスタイルの多様化、地域コミュニティへの無関心など、住生活に関わる今日の問題を客観的に把握し、健康で文化的な住まいの実現に向けての問題解決の視点を考察していく。

【授業計画】

次のような構成で進める。

1. 家族・ライフスタイルの多様化と住まい
家族の形態・機能・関係・役割が変容するなかで、住宅・居住地に対して、新たにどのような機能が求められているのかを考える。
2. 高齢社会と住まい
高齢者・障害者が人間としての尊厳を守ることのできる住宅・居住地のあり方を考える。急速に高齢化が進むなかで、わが国の居住環境における問題点を明らかにし、福祉先進国の事例も紹介しながら、在宅福祉の基盤となる住まいの重要性を認識する。
3. 子どもと住まい
子どもは自らの意思で住環境を選択できないため、健全な発達を保障する住環境を、子どもの視点にたって整えることは親や大人の責任である。子ども部屋のあり方、高層居住と子どもについて考える。
4. 健康と住まい
近年、住まいと健康をめぐる議論が活発化してきた背景を探り、住まい方の側面から健康的な住まいを考える。
5. 住まいとモノ
限られた住空間が、モノに占領され、住み手の生活が制約されている現状がある。生活者として、住まいとモノとの関わりをいかに考えていくかについて論じる。

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

図解住居学1 住まいと生活（岸本幸臣他編 彰国社）
プリント配布。

建築計画論Ⅰ（住宅）

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築のデザインを学ぶためにはまず建築で扱う空間がどのような概念であるかを知らなければならない。また建築空間をデザインするということは具体的にどのようなプロセスなのであるかを理解しなければならない。建築を学ぶ第一歩として、住宅という最も人間にとって基本的な建築空間を題材にしながら上記のテーマについてまず解説する。それをふまえて、住まうことに関わる建築を設計するために必要な住要求、建築意図や設計条件の把握、分析の方法、また住宅設計の基本となる構造、設備、材料に関する知識を設計者の立場から総合的に修得することを目的とする。

【授業計画】

- 1 建築とは、建築家とは、建築で扱う空間とは
- 2 住みやすい住宅を作るために 建築計画学
- 3 安全な住宅を作るために 建築構造学
- 4 快適な住宅を作るために 建築環境工学
- 5 美しい住宅と町並みを作るために 建築デザイン
- 6 住宅の設計に関わる法律 建築関連法規
- 7 各室の計画1 招き入れる空間
- 8 各室の計画2 集まる空間
- 9 各室の計画3 私的空間とサービス空間
- 10 近年の住宅作品の実例 計画上の試みとデザイン
- 11 住宅計画の今日的課題 高齢者 健康 省エネ
- 12 まとめと質疑

【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

スライド、OHP等の視覚資料を用い、できるだけ実例を示しながら講義を進める。

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

建築計画論Ⅱ（計画各論）

垂井洋蔵

【授業の概要】

現代の施設設計は、従来からの建築種別にとらわれない複雑な複合化、新しい要求や情報メディアの登場、社会構造の変化に直面している。こうした建築設計に関わるさまざまな外的条件の分析や、計画に先立つ建築企画の手法の理解とともに、建築計画上考慮すべき機能上の諸要求、法規、それらに対応する新しい計画上の試み等、施設計画上に必要な諸知識の体系的な修得を目的とする。

【授業計画】

以下の6テーマについて各2週にわたり講義する。

- 1 住居系施設
新しい集住の形態と、集合住宅
- 2 教育系施設
新しい教育方法論に基づく学校計画の試み
- 3 医療・社会福祉系施設
病院、診療所計画の基本と、高齢化社会に対応する医療福祉施設計画
- 4 文化系施設
新しいメディアと情報の共有、発信の場としての複合文化施設計画
- 5 商業系施設
大規模複合施設とオフィス計画の今日的課題
- 6 施設計画の手法
地域活性化施設の企画と、諸提案の実例

【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

【参考文献・資料】

新建築学体系（彰国社）
建築設計資料集成 コンパクト建築設計資料集成（丸善）
その他講義中に参考図書を紹介する。

住宅政策論

渥美正子

【授業の概要】

日本における住宅問題の発生についての歴史的経緯と、戦後の住宅政策の特性について考える。経済大国でありながら、先進諸国のなかで貧しいといわれるわが国の住宅事情の特徴と背景を探り、人間らしい住まいを実現するための住宅政策の理念について、西欧先進国との比較を交えて考察する。また、住まいの質的向上の原動力となる住教育の実情や、消費者問題について論じる。

【授業計画】

1. 住宅の社会性
2. 日本の住宅事情・東海圏の住宅事情
3. 住宅問題とは何か
4. 住宅政策の母国—イギリス
5. 日本における住宅政策のあゆみ
6. 戦後の3公体制
7. 住宅政策における市場主義
8. 居住の権利と住居法
9. 多様化する住宅供給
10. 高齢者の住宅政策
11. 消費者問題と欠陥住宅
12. 住教育の課題と展望

【評価方法】

出欠状況とレポート・試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

現代社会とハウジング (巽和夫編 彰国社)
 変貌する住宅市場と住宅政策 (伊豆宏編 東洋経済新報社)
 住宅貧乏物語 (早川和男著 岩波新書)
 居住福祉 (早川和男著 岩波新書)
 住教育—未来へのかけ橋 (住環境教育研究会編 ドメス出版)

都市環境評価論

仁科浩二郎

【授業の概要】

環境に対する危機感が高まっているが、将来へ向けての対策を検討し、その効果を正しく予想するのは簡単ではない。そこでここでは先ず環境の概念を確認したあと、環境の評価に用いる様々の指標を理解することから始める。ダイオキシン毒性の表現、自然環境の放射線量、など、いくつかの例の紹介によって、環境の現況を実感し、初歩的な考察を試みる。放射線については、生活環境の中で測定を行う。

【授業計画】

環境の考え方 (「環境にやさしい」とは?)	2回
地球温暖化と国際的状況	2回
環境基準と測定値	2回
ダイオキシン存在量の記述と毒性	3回
放射線の基礎概念と測定	3回

【評価方法】

毎回、提出する小レポートの内の主要な数回、および期末試験、それに出席状況をあわせて評価する。

【参考文献・資料】

図解雑学 ダイオキシン (左巻健男ほか ナツメ社)
 放射線のABC ((社)日本アイソトープ協会)

建築環境学Ⅰ（熱・空気）

齋藤基之

【授業の概要】

建築空間は人間の日常生活の場であり、その内部環境は健康・安全かつ快適なものであることが求められる。この講義では、建築や都市における熱・空気環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基本的事項を解説し、建築・都市のデザインに応用するための基礎知識を身につけるとともに、環境への配慮の重要性を理解することを目的とする。数式の使用等は必要最小限にとどめ、身のまわりの住生活における実例や実際の設計例を挙げながら解説する。

【授業計画】

1. 概論
2. 人間の温熱感覚
3. 屋外気候
4. 太陽の動きと日射
5. 建築における熱の伝わり方
6. 室内気候
7. 湿気と結露
8. シックハウス問題
9. 室内の空気質
10. 換気と通風のしくみ
11. 換気と通風の計画
12. 都市の熱環境と風環境

【評価方法】

単位認定試験の成績、提出レポートの内容、出席状況等により総合的に評価する。

【テキスト】

- ・建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

【参考文献・資料】

- ・環境工学教科書（環境工学教科書研究会編著 彰国社）
- ・絵とき 自然と住まいの環境（堀越哲美・澤地孝男編 彰国社）
- ・建築環境工学用教材 環境編（日本建築学会 丸善）
- ・室内化学汚染（田辺新一著 講談社現代新書）

建築環境学Ⅱ（音・光）

奥宮正哉

【授業の概要】

住居や建築物の内部・周辺における日照・照明などの視環境や、音響・騒音などの音環境について。その性状や環境調整法・環境設計方について講義する。

【授業計画】

- 第1講 光環境（視覚）
- 第2講 光環境（照明の基本的な考え方1）
- 第3講 光環境（照明の基本的な考え方2）
- 第4講 光環境（昼光と電灯、照明計算）
- 第5講 光環境（色彩計画）
- 第6講 音環境（物理音響学の基礎と聴覚）
- 第7講 音環境（音の伝搬）
- 第8講 音環境（室内音響学、残響）
- 第9講 音環境（吸音と遮音）
- 第10講 音環境（室内音響の計画と設計）
- 第11講 音環境（騒音の測定と騒音対策）
- 第12講 音環境（振動）
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績により評価する。

【テキスト】

環境工学教科書研究会編著：環境工学教科書：彰国社

建築史 I (西洋)

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋建築の様式史を中心に、様々な時代の価値観の移り変わりや建築様式との関わりについて論じる。とくに、社会体制や建設技術の革新と建築造形との結びつきに注目する。

【授業計画】

- 1) 建築に託された人類のメッセージ
古代エジプトにおけるピラミッド建設の意義
- 2) 人と神と王の建築
古代メソポタミアのジグuratとエジプトの神殿建築
- 3) 民族と神々
ギリシア神殿とペルシアの宮殿に見る民族の表現
- 4) 新しい建築空間の創造
古代ローマ建築におけるアーチとオーダーの意味
- 5) ローマに生まれた神の館
初期キリスト教時代とビザンティン帝国の教会堂建築
- 6) 世界の終末を越えて
至福千年説とロマネスク建築の興隆
- 7) 地上の天国
ゴシック建築の構造と表現
- 8) 人と神の対話方式
マホメットの帝国とイスラム建築の特質
- 9) 再生という名の創造
ルネサンス建築における科学と芸術の融合
- 10) 不安と成熟のマニエリスム
16世紀イタリア芸術に見る原則性と非原則性
- 11) 建築のドラマツルギー
反宗教改革から生まれたバロック建築の劇的性格
- 12) プロテスタンティズムの顔
建築におけるピューリタニズムと新古典主義建築
- 13) 様式の消費
19世紀リヴァイヴァリズムの時代

【評価方法】

レポートを課す。

【テキスト】

西洋建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)

建築計画論III (環境心理)

日色真帆

【授業の概要】

建築や都市における人間と環境との関係について、個人や集団の行動、環境の知覚や認知、それらの時間的な変化などの視点から学ぶ。スケール、状況、利用者の違いを理解し、人間と環境との関係の質をたかめるデザインのあり方を考える。また、これらを学習する中で環境心理学の基礎的な諸理論と研究方法を習得する。

【授業計画】

- ・文化と空間：パーソナルスペースや人のテリトリーについて述べ、文化によるその差異を取り上げる。
- ・環境認知：環境認知やそれを支える空間認知の問題を取り上げ、その構造や発達に関する理論を解説する。
- ・Wayfinding：環境認知の典型として、人の動きと空間の認知を扱う。特にwayfinding (経路探索) における迷いや発見を切り口に理論や研究方法を紹介する。インターネットなどハイパーテキスト上の移動にもふれる。
- ・シークエンスと表記法：建築の内部空間やアプローチ、庭園などの例を取り上げ、人の行動や体験を記述し、分析し、デザインする手法を学ぶ。
- ・居住環境、多様な利用者：居住環境をとりあげ、人間環境系としてとらえる視点を示す。
- ・都市環境のデザインへ：都心と郊外という対照的な環境を取り上げ、総合的な見方を示す。その環境の質を向上する方法として、デザインの意味について述べる。

【評価方法】

数回のレポートと期末の試験によって行う。

【テキスト】

環境と人間 (高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編 朝倉書店)

【参考文献・資料】

- 建築・都市計画のための空間学事典 (日本建築学会編 井上書院)
人間環境学 (日本建築学会編 朝倉書店)
建築人間工学事典 (日本建築学会編 彰国社)
建築理論の創造 (J. ラング著 鹿島出版会)
人間-環境系のデザイン (日本建築学会編 彰国社)
空間計画学 (日本建築学会編 井上書院)

建築計画論Ⅳ（設計方法）

吉田邦彦

【授業の概要】

建築の設計対象の機能の複雑化、規模の拡大化、設計主体の多様化などに対応して、提案され論じられてきた種々の設計方法、設計手法についての理解と知識の修得を目的とする。

設計方法の考え方、設計プロセス、各種の設計手法、人間・環境系の計画理論などを取り上げ、設計行為の解明と実践との連携等について論じる。

【授業計画】

以下の項目について講義に演習を加えた形式で授業を進める。

- ・オリエンテーション：建築計画と設計、設計方法研究の歴史
- ・設計プロセス・発想のプロセスのモデル化、
- ・アイディアと資料
- ・設計ツール（機能図、チェックリスト、シミュレーションによるモデル分析、CAD/CGなど）
- ・表現言語・パターンランゲージ
- ・建築設計におけるコンピュータ利用
- ・設計方法と設計主体
- ・建築設計におけるコラボレーション

【評価方法】

授業時間中の提出物と、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

【参考文献・資料】

設計方法Ⅳ「設計方法論」（日本建築学会編、彰国社）
人間・環境のデザイン（日本建築学会編、彰国社）

建築史Ⅱ（日本・東洋）

溝口正人

【授業の概要】

建築史は、生活空間を構成する基本要素である建築の歴史的な変遷の考察を通して、建築や都市の社会的・文化的な意味について論ずる分野である。

本講義では、日本の建築や都市を主な対象として、その背景にある思想や造形理念、技術をふまえ、東アジアという地理的な視点、あるいは現代建築思潮という今日的な視野からの比較検討をも交えながら、建築の空間構成や造形の変遷について学ぶことにより、日本の建築観の特質について理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1. 4大文明圏の建築／世界からみた日本の建築
2. 「建築」の発生：先史時代の日本建築
3. 源流／インド・中国の建築と都市
4. 古代／東アジアの造形理念と日本建築
5. 古代～中世1／宗教建築の変容
6. 古代～中世2／住居と都市の変容
7. 中世／和風空間の確立
8. 中世～近世／技術革新と空間デザイン
9. 近世1／生産と規格化
10. 近世2／社会相としての住居と都市
11. 近代の胎動／数寄屋建築とモダニズム
12. 文明開化と洋風建築／近世技術の開花

【評価方法】

単位認定試験、レポートを適宜課し、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

なし。適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図解日本建築の構成（山田幸一著 彰国社）
日本建築史序説（太田博太郎著 彰国社）
建築の歴史（藤井恵介・玉井哲雄著 中央公論社）
日本建築史図集（日本建築学会編 彰国社）
東洋建築史図集（日本建築学会編 彰国社）

色彩計画論

高橋敏郎

【授業の概要】

空間デザインにおける重要な要素である色彩と、色彩を生み出す根源である光（自然光、人工光）について基礎的知識を修得する。重ねて、色彩が心理に及ぼす影響を学び、これらの知識を基盤として、室内、建築、環境等の色彩計画をいかに行うかについて学習する。実際に色彩計画を行ったデータを使用して、3D-CADなどを用いて色彩構成、照明シミュレーションやマッピングによる材料のテクスチャーと色彩の関係などについて検証する。

計画演習IV（CAD基礎）履修者（同時履修可）のみ受講可。

【授業計画】

テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。CADデータは支給する。

【評価方法】

期間中に数回の小テストを行う。この結果と、作品、定期試験を合わせて評価する。

【テキスト】

カラーコーディネーションの基礎
（東京商工会議所編）

ファシリティマネジメント論

吉田邦彦

【授業の概要】

施設を活かすための計画から経営までの新しい管理手法であるファシリティマネジメント（FM：Facility Management）について、その基礎知識と固有技術の理解と修得を目指す。FMの主要な対象であるオフィスを取り上げ、具体的に論じる。

【授業計画】

以下の項目について講義形式で授業を進める。

1. FMの必要性和重要性
授業のオリエンテーションとFMの定義
2. オフィス・オフィス建築の変遷
オフィスの歴史、日本のオフィス建築の歴史区分と形態的な変遷
3. オフィスプランニングとレイアウト
オフィスプランニングの基本と基礎知識
4. オフィスの快適性
豊かな人間生活と仕事の間を求めて
5. オフィスの室内環境
オフィスの照明・騒音・空気環境・色彩・植栽等
6. オフィスのセキュリティ
セキュリティの必要性和災害への対策
7. 欧米の情報化オフィスの諸相
これからのオフィスの特徴、新しいオフィスの試み
8. FMのための知識
FM戦略・企画、プロジェクト管理、運営維持などに関する基礎知識
9. FMのための技術
企画立案手法、施設規模分析、執務空間の計画等
10. 施設（オフィス）評価法
評価法の必要性和困難性、各種の評価手法
11. FMの業務
FMの目的と目標、FMの業務体系
12. オフィスの変化とFM
SOHO、テレワークの進展とFMの役割

【評価方法】

授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

【テキスト】

変化するオフィス（沖塩莊一郎他 丸善株式会社）。
また、授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

都市計画論

瀬口哲夫

【授業の概要】

都市計画論においては、現代の複雑な社会で生活して行く上での基本的な知識である都市問題を認識させると共に、都市のあり方を理解させる。その上で、都市計画理論や都市計画制度について解説し、都市計画（まちづくり）への市民参加のあり方などを講義する。授業では、具体的な都市や都市計画事例を取上げて、わかりやすく論じる。

【授業計画】

1. 現代都市の様相（1）
2. 現代都市の様相（2）
3. 現代都市の分析（1）
4. 現代都市の分析（2）
5. 都市計画理論（1）
6. 都市計画理論（2）
7. 都市計画手法
8. 都市と住宅（1）
9. 都市と住宅（2）
10. 都市と環境（1）
11. 都市と環境（2）
12. 欧米の都市計画（1）
13. 欧米の都市計画（2）
14. 欧米の都市計画（3）
15. まとめ

【評価方法】

出席状況とレポート、さらに単位認定試験によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

講義中で紹介する。

都市景観論

清水裕二

【授業の概要】

都市景観は我々にとって非常に身近でありながら、容易な分析を拒む複雑な事象である。この授業では具体的な例をとりあげながら都市景観を読み解くための様々な視点を提示し、都市景観についての理解を深めると共に、景観を形成する活動としての都市デザインの手法を概観する。

主な授業内容は次の通り。

1. 都市論・都市景観論

近代以降の都市論・都市景観論のなかから代表的なものをとりあげ、現代の都市を切り取る視点の多様さを認識する。

2. 都市景観の構造

都市景観に潜む構造を抽出し、普段目には見えていない都市とは異なる都市像を浮き彫りにする。

- ・自然：景観を形成する最大の要素である地形と景観の関係性を明らかにする。
- ・都市基盤（インフラストラクチャー）：インフラストラクチャーと景観の関係性から、現代都市の景観に影響を及ぼしている不可視の営みを捉える。
- ・郊外：近代都市が生み出した都市周縁の景観と、そこから派生する社会的状況について考察する。
- ・歴史：都市景観のなかに織り込まれた時間性をもとに現在の都市景観を再検討する。
- ・法規制、建築・都市計画：都市の景観をコントロールしようとする様々な制度について見てゆく。

3. 景観の視点

都市以外のフィールドから、都市景観を捉え直す

- ・集落：都市の原型ともいえる伝統的集落を見てゆくことで現代都市の逆照射を試みる。
- ・芸術：アースワーク、映画、写真、文学等の芸術において描かれた景観を分析する。

【授業計画】

講義を中心とし、いくつかのレポートを出す予定。

【評価方法】

出席状況、レポート及び試験により、総合的に評価を行う。

【テキスト】

特になし。

都市形成史

河辺泰宏

【授業の概要】

都市の形成される過程と都市造形との関わりについて論じ、歴史的都市の成立過程と産業革命以降の近代都市の変化を明らかにする。また、都市再生や町づくりの様々な試みを紹介し、都市のアイデンティティの確立や機能開発についても考える。

【授業計画】

- 1) 都市文明をささえるもの
人口暴発と計画不能の巨大スラム都市の出現
- 2) 名古屋を読む
人工都市名古屋の都市計画の歴史をたどる
- 3) 格子状都市の履歴
古代文明から現代に至る格子状都市の特質を分析
- 4) 不整形都市～中世都市の営み
自然に発展した不整形な都市の秩序について分析
- 5) 放射状都市の論理
権力によってコントロールされた放射状直線街路
- 6) 水の都の物語
日本と西洋における親水都市の歴史
- 7) 実験都市ハウステンボスの挑戦
企業が経営する町
- 8) 近代都市計画の理論と実践
産業革命以降の都市の変化と新しい都市計画理論
- 9) 都市と広場の形成史
都市における広場の歴史と役割
- 10) 歴史的資産を活かした都市再生
環境改善策のための都市財産の保存と活かし方
- 11) 景観コントロールの意味と手法
景観論争とデザインコントロールの手法
- 12) 計画なき都市計画
挫折した首都復興計画と都市開発理念の国際比較

【評価方法】

中間と期末のレポートによる。

【テキスト】

なし。プリント配布。

都市防災論

太田 裕

【授業の概要】

近年の都市への人口集中にともなう、自然・人工災害から都市・人間を如何に守るかが、大きな課題となってきた。この問題の大局理解を主眼に前半では多様な災害について講述する。後半は被災から防災に至る一連の学理・計画論について、地震を事例とした系統講述を行う。トピックの1つとして東海地震を対象におく。モデル地区における、学生自身による調査の実施と分析を組み入れることで関連知識体得の促進と確実化を計る。

【授業計画】

- 第1講 都市被災・防災の一般枠組み
- 第2講 災害各論1－水・台風災害
- 第3講 災害各論2－土砂災害
- 第4講 災害各論3－火山災害
- 第5講 災害各論4－火災他、人工災害
- 第6講 地震災害－世界・日本の地震
- 第7講 地震災害－1995年阪神震災
- 第8講 地域レベルの防災計画
- 第9講 世帯レベルの防災計画
- 第10講 モデル地区調査・分析(1)
- 第11講 モデル地区調査・分析(2)
- 第12講 モデル地区調査・分析(3)

【評価方法】

出席状況に加えて、モデル地区調査のレポートを重視して評価する。

【テキスト】

特になし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 地震防災と安全都市 (鹿島出版)
- 都市の防災 (石井一郎 技術書院)
- 都市防災 (吉井博明 講談社現代新書)
- 住まいの安全学 (宇野英隆 講談社Blue Backs)

都市環境デザイン演習 I a・b

渥美正子

【授業の概要】

住まいを、「生活者の視点」から考えていく。住まいは、人間生活の最も大切な基地であり、住まいを考えるということは、すなわち、生活を考えることでもある。

近年、伝統的な住まいや住まい方は影をひそめ、住生活は大きく変容している。こうした現状を客観的に見つめ、新たにどのような変化や矛盾が生じているのかを把握し、問題解決に向けての方向を探る。

【授業計画】

日本の住生活や住様式に関する文献を講読し、ディスカッションを行うことにより、今日の住生活における問題点を探り出す。こうしたことを基にして、各自でテーマを設定し考察を深めていく。

(1) はじめに

- ・文献講読の分担決定
- ・レジュメの書き方

(2) 文献講読

報告者は、担当部分のレジュメを作成し、全員に配布し、要旨・意見を発表する。そのテーマについて、全員で討論する。

(3) テーマ設定と発表

各自で選択したテーマに基づいて、調査・資料収集を行い、発表・討論を行う。討論をふまえ、最後にレポートを提出する。

(4) 見学

生活者視点からの住まいづくりを、考えるための見学も行う。

例) 産直住宅、バリアフリーウォッチング etc

【評価方法】

出席状況と研究発表、討論への参加状況、レポートの内容を総合して行う。

都市環境デザイン演習 I a・b

太田 裕

【授業の概要】

当該授業は比較的少数の受講参加を想定しており、参加者が自力で問題解決することを前提として組み立てられている。学期の当初段階で受講者がもつ〔基礎知見、意向〕等について相互理解を深め、その結果として演習課題を選定する。演習課題は〔異常自然現象と人間社会の共生〕の大枠の中で多様に選定される。

この結果を踏まえ、前期は関連知見の増強に力点をおいて論文等の講読を主とする学習を行い、演習課題の自力推進の可能性を高める。後期はまず演習課題達成へのプログラム作成に始まり、体験的学習に進む。この流れの中で学習成果を報告書に帰結する手法を学習する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、また受講者が率先かつ自力で課題達成に努める形で進めることとなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見習得
2. 関連論文（成書）読解
3. 小課題の体験的学習

後期

1. 課題解決実行プログラム作成
2. 現地・実（資料）調査の実施
3. レポート作成の体験的学習

【テキスト】

特になし。随時、必要な専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

都市環境デザイン演習 I a・b

河辺泰宏

【授業の概要】

文献講読、資料調査、施設見学、都市観察などの演習を通じて、日欧の都市と建築を中心に造形様式と社会状況との関連について考える。

とくに、建築や都市の歴史、歴史的文化遺産の保存・再生、近現代の建築デザイン等について、フィールドワーク等を行いながら体験的に学ぶことを主な目的としている。

【授業計画】

主な演習課題およびフィールドワークとして下記のような内容を予定しているが、フィールドワークの対象は適宜変更されることがある。

文献講読や見学会、研修旅行等にあたっては、レポート担当者や実行委員を決めて、報告や準備を行う。また、演習の根幹をなす見学会やフィールドワークには、必ず参加することが義務づけられる。

なお、年間を通じて1~2回の国内研修旅行、3~4回のフィールドワークおよび見学会を催すので、参加費用(5~7万円程度)を各自準備する必要がある。さらに、年度末には海外研修旅行を行うことがあるが、これについては有志参加とする。

- 1) 論説文の書き方
- 2) フィールドワークの仕方
- 3) 都市の開発と保存をテーマとしたフィールドワーク
(例) 名古屋市内(四間道から白壁町まで) / 妻籠
高山 / 京都 / 長浜 / 有松 etc.
- 4) 日本の近代建築をテーマとしたフィールドワーク
(例) 明治村 / 神戸 / 半田 / 桑名 etc.
- 5) 日本の近代建築および西洋建築史に関する文献講読

【評価方法】

授業や見学会等への参加状況とレポート、課題発表の内容によって決める。

【テキスト】

図説ローマ〜「永遠の都」都市と建築の2000年(河辺泰宏著 河出書房新社)

必要に応じてプリント等を配布。

都市環境デザイン演習 I a・b

清水裕二

【授業の概要】

次のシーケンスに従って授業を進めていく。

1. 課題の設定

建築や都市に関係するテーマであれば、特に限定はしない。建築や都市を通して現代社会の事象や問題について考察し、それらについてアクチュアルな提案を含んだ設計・研究を目指してほしい。(共通のテーマを設定する場合もある。)

2. 調査・分析

自らが設定した課題について調査・分析を行う。

フィールドワーク: テーマについて実際に現場へ向向き、自ら情報を収集する。

文献調査: 書籍、雑誌、論文等の文献、インターネット等から必要な情報を獲得する。

分析: テーマに沿って収集した情報の整理・分析を行い、設計や立論へとつなげる。

3. プレゼンテーション

調査・分析を基に、課題に対する解答、提案、結論を、他の人々にプレゼンテーションする。その際、テーマに沿って最も効果的なメディア(図面、模型、映像、小論文等)を各自選択する。

4. 総合評価: 前期、後期末に総合講評をおこなう。

前期はテーマ別に数人のグループをつくって共同で作業を行う。後期は各個人のテーマをより突き詰め、それぞれで作業を進めることとする。

【授業計画】

ゼミ期間中を通して以上1→4の流れで授業を進めて行く。

【評価方法】

プレゼンテーションと、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし

都市環境デザイン演習 I a・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築を設計するということは、「意味に形を与える」ということであるといえる。形態や様々な記号の操作の前に、その建築が存在する場所の意味、さらにそこに企画しようとする建築の意味の本質、そしてそこにどのような場所と空間を生み出そうとするのかという明快な論理性を物としての建築の全体と部分が持っていなければならない。建築をデザインする上での基本となるこうした思考方法を建築を学び始めた学生諸君に様々な建築思潮、作品をとおして学んでもらうことを目的とする。

【授業計画】

- 1) 建築論、空間論に関する基本的文献の紹介と解説を行う。
- 2) 現代建築の作品をいくつか取り上げ、実際の体験と観察を通して、その解説と分析を試みる演習を行い、制作者の意図と建築空間の連関について学ぶ。
- 3) 数グループに分かれて共同設計課題にとりくみ、議論を通じた設計意図の明確化、コンセプトの建築形態への具体化のプロセスを学ぶ。

以上の過程で、演習II、卒業論文、設計へと発展する各自のテーマが見出せるように指導したい。

【評価方法】

課題への取り組み、発表、成果を総合評価する。

【参考文献・資料】

参考文献として

人間と空間 (O.F.ボルノウ セリカ書房)

かくれた次元 (E.ホール みすず書房)

その他いくつかの文献や論文を演習中に提示します。

都市環境デザイン演習 I a・b

日色真帆

【授業の概要】

自分たちの居住環境を形成している、室内、建築、都市というそれぞれスケールの異なる空間について、現実の体験や観察の記述、図面やその他の視覚的な表記法、模型、写真、創作的な物語、コンピュータシミュレーションなど、さまざまなメディアを利用して、解説し評価することを学習する。調査や実験の方法についても一連の作業の中で習得する。特に都市住居を見直す視点からアプローチする。

【授業計画】

演習の進め方は、受講者と議論の上具体的に決めることとするが、「目標をたて、調査や実験をし、プレゼンテーションをする」という一連の作業を、数セット行うこととする。大学院生や4年生の研究テーマと関連づけて行うこともある。

- ・イントロダクション：居住空間を解説する視点を概説する。様々な分析手法についても解説する。
- ・見学：対象とする地域について見学をし議論を深める。
- ・調査・実験：各自が関心をもった側面について、それぞれ調査・実験を行う。
- ・中間発表会：調査・実験の経過について発表をし講評を受ける。
- ・調査・実験の追加およびプレゼンテーション作業
- ・講評会
- ・プレゼンテーション追加作業：講評会での批評をもとにプレゼンテーションの追加作業を行う。

【評価方法】

プレゼンテーションと提出されたレポートによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習 I a・b

吉田邦彦

【授業の概要】

建築設計に関わる下記の項目に関するテーマを取り上げ、調査・分析・検討する。

- ・ 建築の設計プロセス
- ・ 建築設計におけるCAD・CGの機能や表現力の可能性
- ・ 情報技術 (IT) 革命の建築 (住宅・オフィス・図書館など) への影響
- ・ 建築 (大学キャンパスやオフィスなど) の評価
- ・ サステナブル・デザインの手法

検討結果をもとに今後の変化の方向あるいは望ましい将来のあり方や方法を考察・提案する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

【授業計画】

- (1) テーマ設定：各自が関心を持ったテーマについて発表、討論の上、設定する。内容や方法によっては、2～3名でグループを編成する。
- (2) 演習実施計画の作成と発表：取り上げたテーマについて、どのような観点、方法、スケジュールでアプローチするかをとりまとめた実施計画書を作成・発表し、討論する。
- (3) 調査・分析あるいは制作の実施：文献調査、現地調査、アンケート調査、ヒヤリング調査など適切な手法で調査し、結果の分析を行う。また、CAD・CG等による制作を通して、検討する。作業は、各人が自主的に行い、その経過を随時報告し、全員で討議する。
- (4) 発表及び講評：各グループ毎に調査・分析・制作の結果についてプレゼンテーションを行い、討議・講評を受ける。講評会での討議をもとに、追加・修正作業を行い、最終報告書のとりまとめを行う。
- (5) 演習に関する連絡等に、E-mailを利用するので、本演習希望者は、学内LAN利用講習会を受講し、学内LANの利用の手続きを完了しておくこと。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

都市環境デザイン演習 I a・b

高橋敏郎

【授業の概要】

「コンセプトの無いデザイン」はありえない。私たちを取り巻く家具、室内調度品、室内、建築、都市すべてが何らかの意図を持ち関わり合い空間を構成している。この演習では、自分の関心を持ったテーマについて基礎知識を習得し、また、作品を見ることから設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解説することによって独自のデザインの切り口を見つけようとするものである。特に室内の家具や調度、室内空間、室内気候と人間の関わり、建築内部と外部空間の関わりなどに着目し、資料収集、調査・観察、分析を行い、設計に結びつけてゆきたい。

【授業計画】

前期

1. 建築と室内の現代デザイン思潮、人間工学と家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得。
2. 共通課題の設計 (個人)、プレゼンテーションテクニックの習得。
3. 作品の発表と討論会。

後期

1. 各自でテーマ設定し、研究または設計計画書を作成する。
2. 資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する。
3. 分析結果を踏まえ、計画書を加筆、研究または設計へと展開する。
4. 論文または設計としてまとめる。
5. 研究または設計の発表と討論会。

【評価方法】

計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

渥美正子

【授業の概要】

演習Ⅰを基に、さらに、それらを発展させていくことにより、論文としてまとめていく。まず、それぞれのテーマに関連する文献、論文の収集を行い、オリジナルな視点を設定する。居住者調査等実態調査の分析から、現状を明らかにし、今後の課題を考察する。

【授業計画】

次のようなことをふまえ、進めていく。

- (1) テーマの設定
研究テーマを設定した目的・意義を明確にする。
- (2) 研究論文の書き方
- (3) 関連文献・論文の収集
- (4) 居住者調査の方法
調査対象の設定、調査票の作成、集計結果の分析
- (5) 全員による討論
各個人のテーマ設定や、中間報告会等では、他のメンバーの研究に対しても、全員で積極的に意見を出し合う。

【評価方法】

授業への出席状況、テーマへの取り組み状況、討論への積極性、研究発表の内容を総合して行う。

【テキスト】

個別に指示する。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

太田 裕

【授業の概要】

都市環境演習Ⅰ a・b（3年）の自然の発展を根底におき、問題発見・解決力の涵養に主眼をおく。演習課題は「異常自然現象—特に地震—と人間社会（都市）との共生」の大枠の中で、受講者が具備する基礎知見・関心等を勘案の上で多様に選定される。

前期は選定した課題を核とする周辺知見の増強を目標に関連論文・報告の理解に努め、演習課題の自力推進に向けた、基礎をあらためて構築する。この流れの中で、課題解決へのフローをデザインし、併行して課題解決力向上の一環として計算・データ処理に関わるプログラム作成能力の習熟に留意する。後期は課題解決の継続的実践が主体となり、成果を報告書に帰結することを目標におく。当然ながら、受講者が課題解決への主体となり、自ら模索し、創意工夫に努めることが強く望まれる。

【授業計画】

前期

1. 課題の選定
2. 関連知見の習得と整理
3. 課題解決技法の習熟

後期

1. 実（資料）の収集とデータベース化
2. 課題解決・実行処理プログラムの作成
3. 成果報告の作成

【テキスト】

随時、必要な文献・資料等を指示する。

【参考文献・資料】

同上

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

河辺泰宏

【授業の概要】

デザインと建築の歴史、建築と都市の造形、現代のデザイン状況等に関連したテーマを扱った文献のサーヴェイリポートとフィールドワークを中心とした演習を行う。

本年度の主な課題としては、とくに西洋建築史に関わる文献講読を考えている。

このほか、各個人の研究テーマを設定し、随時研究報告会を行う。

【授業計画】

文献講読やフィールドワーク等にあたっては、持ち回りで担当者を決めて準備・報告を行う。また、年度末の研究報告会は口頭試問として行うので、必ず参加しなければならない。

なお、3年生の演習Ⅰで研修旅行やフィールドワークを行うが、4年生も希望があればその都度、自主的に参加することができる。

【評価方法】

授業・見学会・調査活動等への参加状況とレポート、論文発表の内容と口頭試問の結果によって決める。

【テキスト】

必要に応じて参考資料を配布。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

清水裕二

【授業の概要】

都市環境デザイン演習Ⅰのテーマ（建築や都市を通した現代社会の事象や問題についての考察）をふまえ、それらを発展、深化させるかたちで卒業製作や卒業論文へとつなげることを目指す。

授業の進め方としては、都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

【授業計画】

基本的には都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

【評価方法】

最終成果物（卒業製作・卒業論文）と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

原則的には昨年度各自が設定したテーマに基づいて、卒業設計・論文としてまとめる為の修正、テーマの絞込み、内容の深化をめざす。既存の類似作品の分析を通して、独自性のある視点を開発すると同時に、コンセプトの明確さ、計画的確実性や空間・造型の論理性等、卒業設計をまとめる上で必要な見識を修得する。

【授業計画】

- 1) 昨年度演習Ⅰで各自が発表してきたテーマに関連した既存の作品や文献を提示します。
- 2) それとの比較の上で各自自分のテーマの絞込みと、新しい視点の設定を行う。
- 3) 各自のテーマを進める上で、どのような調査や資料が必要かを整理する。
- 4) 卒業設計又は卒業論文骨格を整理した予備的なレポートを提出して発表し全員で議論する。
- 5) 卒業設計あるいは論文としてまとめるための個別指導を行う。

【評価方法】

途中の発表と積極性、最終的な作品又は論文の内容で評価します。

【テキスト】

テーマごとに必要な文献や論文を提示します。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

日色真帆

【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、教員と議論の上、学生がそれぞれに選択したテーマについて分析、調査、実験、考察を加え、研究レポートを作成する。デザイン的な提案をまとめる場合もある。この演習を通して各自テーマを絞り込み、卒業研究へと結びつけてもらいたい。

【授業計画】

受講者と議論の上具体的にテーマを決めるが、教員が掲げている最近のテーマは以下のようなものである。

- ・街区内のヴォイド空間の調査と提案
- ・都市空間のオープンスペースについての研究
- ・デパートなど商業空間における wayfinding の研究
- ・空間の表記方法「スペースブロック」の開発
- ・出来事の表記方法「イベントピクトグラム」の開発
- ・場面のデザインの視点から見た各種デザインの比較
- ・映画や演劇における場面デザインの分析
- ・回遊式庭園の wayfinding の分析
- ・ハイパーテキストの wayfinding の分析
- ・建築空間の転用に関する研究
- ・立体的に複雑な建築空間のデザインについて
- ・空間の境界としての建具についての研究
- ・都市空間の緑化についての研究

【評価方法】

評価は、研究レポートとそのプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

吉田邦彦

【授業の概要】

演習内容については、演習Ⅰを継続し、範囲を広げるか、あるいは深く調査・検討する。今後の情報化・長寿化及び環境型社会などの動向への対応と問題点の解決方法についても検討する。

【授業計画】

演習の進め方は、演習Ⅰの方法を引き継ぐ。特定テーマについて、グループでの研究あるいは個人単位での研究を行う。研究論文としての形式、内容を重視した視点からの討議、講評を行う。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

哲学概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

西洋を中心とする哲学の概要を理解すると共に、哲学的思考法を学ぶことを目指す。哲学の原典に親しみながら、現代社会の日常の諸問題と哲学原典とを相互連関的にとらえ、哲学的思考と対話の楽しみを共有したい。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 理性
3. 死と時間
4. 因果関係
5. 意思
6. 自他の対話とコミュニケーション
7. 存在
8. 正義と徳
9. 文化と教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

メノン プラトン著 岩波文庫
方法序説 デカルト著 岩波文庫
哲学の教科書 中島義道著 講談社学術文庫

【参考文献・資料】

国家 プラトン著 岩波文庫
啓蒙とは何か カント著 岩波文庫
人間 カッシーラー著 岩波文庫
民主主義と教育 デューイ著 岩波文庫
死と愛 フランクル著 みすず書房
人間の条件 アレント著 ちくま学芸文庫
美徳なき時代 マッキンタイヤー著 みすず書房
正義論 ロールズ著 紀伊國屋書店
共生の作法 井上達夫著 創文社
言語的コミュニケーションと労働の弁証法 尾関周二著
大月書店
「弱者」の哲学 竹内章郎著 大月書店
悲鳴をあげる身体 鷲田清一 PHP新書
貧困の克服 セン著 集英社新書

心理学概論

榊原國城

【授業の概要】

この授業では、個性の発揮や自己・他者理解のために、人間のパーソナリティ・発達・学習・動機づけなど、現代心理学の主なテーマを取り上げて解説し、考察していく。

心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを受講者が理解することをこの授業の目的とする。

【授業計画】

- 1 心理学について
- 2 パーソナリティ
 - (1) パーソナリティとは
 - (2) パーソナリティの理論
 - (3) パーソナリティの形成
 - (4) パーソナリティの測定
 - (5) 知能と創造性
- 3 人間の発達
 - (1) 発達とは
 - (2) 発達研究の方法
 - (3) 成熟と学習
 - (4) 発達段階
 - (5) 青年期の心理と行動
- 4 学習と行動
 - (1) 生得的行動
 - (2) 学習と動機づけ
 - (3) 個人と集団

講義によって授業を進める。

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

心理学を学ぶ 改訂版(神谷育児編著 2000 文教資料協会 定価 2,242円)

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】

現代は情報化、国際化、少子化が進み、とりまく環境も大きく変化してきた。情報機器をはじめとする科学技術は目を見はるばかりに進展している。しかし、それに伴って人間性は失われていった。価値観が変わり、生きる指標を失ってしまったのが現代人ともいえよう。この混迷期の時代に、いかに生きるべきかの生き方が問われている。まさに人間の心の豊かさが求められた宗教の時代ともいえよう。

本講義では、最初に宗教に関する学説や本質を学び、その後、世界の諸宗教を概観する。次に私達の人生の先達ともいべき人々の著作をとりあげ、その解説を通して、先達の生き方や人間の真の生きがいを考えてみようとする。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業計画】

- 1：はじめに
- 2：宗教の学問的見方
- 3：宗教教義の構成Ⅰ
- 4：宗教教義の構成Ⅱ
- 5：世界の諸宗教Ⅰ
- 6：世界の諸宗教Ⅱ
- 7：世界の諸宗教Ⅲ
- 8：世界の諸宗教Ⅳ
- 9：先達の著作の解説Ⅰ
- 10：先達の著作の解説Ⅱ
- 11：先達の著作の解説Ⅲ
- 12：先達の著作の解説Ⅳ
- 13：まとめ

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

講談社学術文庫の鎌田茂雄『仏陀の観たもの』（定価630円）または『般若心経講話』（定価840円）を参考資料とする。著作などのプリントは当方で用意し配布する。

日本史

岩口和正

【授業の概要】

近年、韓国大統領や中国の国家主席が来日し、あらためて東アジアの中での日本の過去や現在、また将来を考える必要に迫られています。ひるがえって、私たちは、わが国とこれらの国々との永い交渉や葛藤の歴史について、どれほどの知識を持っているでしょうか。くりかえし政治や社会問題ともなり、従って、多くの報道や著作に接することもできる近代のそれについてはともかく、前近代となると、はなはだこころもとないのが現状です。そこで、講義では、とりわけて前近代のわが国と朝鮮半島や中国大陸の諸国との交渉の歴史について概観し、あわせて、現代に至るまで積み残されてきた問題点を考えます。

- 1) 日本国号の成立
- 2) 日本古代国家の世界観
- 3) 蝦夷・単人
- 4) 蕃国としての新羅・渤海
- 5) 皇民と渡来人
- 6) 中世以降の日本と朝鮮半島の交渉
- 7) 大唐皇帝と日本国王
- 8) 遣隋使と遣唐使
- 9) 遣唐使派遣中止の歴史的意義
- 10) 日宋貿易と平氏政権
- 11) 蒙古襲来と朝廷・幕府

【授業計画】

参考史料はプリントとして配布し、講義はこれらの史料を解説しながら進めます。

【評価方法】

学期末テストによって成績評価をおこないます。

【テキスト】

使用しません。

世界史

山澤啓造

【授業の概要】

アメリカ合衆国は建国後わずか200年ほどの若い国であるのに、現代国際政治に占める比重は大きい。この合衆国の歴史を、世界史の中で位置づけながら、政治・外交中心に第二次世界大戦まで学ぶ。合衆国の歴史を、より一層理解するために、「世界史概観」を高校で学習する機会のすくなかった視座から考察する。

【授業計画】

テキストにしたがい、次の順序で学ぶ。

1. 世界史概観。
2. 地政学的視点からアメリカを学ぶ。
3. 新大陸発見、人種・民族・移民、アメリカ独立革命、アメリカ合衆国の成立を考察した後、第二次世界大戦までの著名な10名ほどのアメリカ大統領の略歴と、その間の合衆国の政治・外交の要点を考察する（序章、第一章～第十七章）。最もアメリカ人らしいアメリカ人であるベンジャミン・フランクリンやマニフェスト・デスティニーなどにも文章中で触れる。テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討議を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

西洋史…世界史・アメリカ史点描…（山澤啓造、平成13年、新訂版、自費出版）

【参考文献・資料】

西洋史…世界史・アメリカ史点描…（山澤啓造、平成13年、新訂版、自費出版）のivページの主要参考文献を参照

地理学

小笠原節夫

【授業の概要】

この授業は日本と世界の人口・集落・都市の地理についての理解を深めることを目的としている。

1. 人口の分布と増減
2. 人口の移動
3. 人口の構造
4. 人口問題
5. 集落の立地と形態
6. 都市の構造と都市システム

【授業計画】

テキストとプリントを用いての講義。数回の宿題を課す。

【評価方法】

試験、出席状況、宿題の提出状況による。

【テキスト】

人口地理学入門（小笠原節夫著 大明堂 2,000円）

地誌学

小笠原節夫

【授業の概要】

アメリカ合衆国・イギリスの風土と人々の生活についての理解を深める。

1. アメリカの自然と産業
2. アメリカの人口と農村・都市
3. イギリスの自然と産業
4. イギリスの人口と農村・都市

【授業計画】

テキストを用いての講義。数回の宿題を課す。

【評価方法】

試験、出席状況、宿題の提出状況による。

【テキスト】

イギリスとアメリカ (安藤万寿男・山鹿誠次著 大明堂 2,060円)

生涯学習論

鈴木正幸

【授業の概要】

学校教育をも包含した生涯学習理論の構築について考察する。

それと同時に社会の変化とりわけ国際化社会における生涯学習論にも目を向けたい。

1. 「社会教育」から「生涯教育」へ
「教育」と「学習」、「新しい学力観」とかかわって
2. 生涯学習時代における学校
地域と学校の間隔を問い直す。
3. 情報化時代と生涯教育
 - ・コンピュータリテラシー
 - ・メディアリテラシー
 - ・高齢者とパソコン (私自身の事例をもとに)
4. 感育の時代
 - ・感性を育む教育
5. 震災から学ぶ
6. 「生涯学習インタビュー」を行うこともある

【授業計画】

講義、ビデオ、スライド等により進める。

【評価方法】

集中授業最終時間にテスト (予定)。

【テキスト】

未定

老年社会学

西下彰俊

【授業の概要】

「老い」(エイジング)の光と陰を社会的に分析する!

これまで高齢者問題は老人福祉として論じられることが多かった。高齢者は社会学の客体として位置づけられてきたのである。しかし、すべての高齢者が介護の必要な福祉の対象になっているわけではない。我々の周り的高齢者を見ればそれは明らかである。本講では、社会の主体として的高齢者にも着目し、そうした高齢者が家族、友人、地域社会とどのような社会関係、コミュニケーション関係を形成しているのか、社会学の方法論を駆使しながら分析する。いわば、高齢者の光(プラス)と陰(マイナス)の両面にせまり、理解を深めることが目的である。さらに、老人問題を自らの老後の問題として、言い換えれば、エイジング(加齢=老いつつある過程)を現在進行中のプロセスとして感得できる「柔らかないセンス」をお互いに養っていきたい。

【授業計画】

ハンドメイドのプリントを使用する。

1. 高齢者福祉

在宅福祉 施設福祉

ゴールドプラン21 公的介護保険の概要

公的介護保険の問題点

2. 老年社会学

主要な社会学概念 友人ネットワーク

家族ネットワーク ビデオ『二人だけで生きて来た』の鑑賞

社会参加と生きがい 幸福感と自殺率

新しい老後問題-タイプA型老人-

【評価方法】

テスト80点、平常点が20点の合計100点で評価を行う。平常点は、出席点と授業態度の合計である。適宜、出席の有無を確認する。

社会福祉学

伊藤葉子

【授業の概要】

現代社会において社会福祉を取り巻く状況はめまぐるしく変容している。

本講では、社会福祉のニーズの多様化、高度化について様々な角度から検討を加える。

また、当事者の声を可能な限り反映させ、必要に応じて視覚教材も用いて展開する

【授業計画】

第1回 現代社会と社会福祉

第2回 社会福祉の歴史的展開Ⅰ

第3回 社会福祉の歴史的展開Ⅱ

第4回~11回

社会福祉実践分野

第12回 まとめ

第13回 試験

【評価方法】

出席状況と試験により総合的に評価する。

【テキスト】

新・社会福祉概論 成清美治編 学文社

【参考文献・資料】

出版社はどこのものでもよいので『福祉小六法』や用語集を持つておくことが望ましい。

自然地理

小木曾通男

【授業の概要】

世界の自然環境と人間生活を「気候」と「地形」にしばって学習する。

地球の環境としての気候についての基礎的な事項を理解するとともに、世界の諸地域の人々が、それぞれ異った気候条件の中で、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

地球上のさまざまな地形の基礎的な事項について理解するとともに、世界の諸地域の人々が、それぞれ異った地形条件の中で、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

【授業計画】

- 1 気候分野の学習
 - (1) ケッペンの気候区分
計算式、雨温図の作成、気候区分の特徴、
 - (2) 気候を決定する要因
地形、海岸・河川、緯度・日照、風
 - (3) 各気候区分の特徴と人間生活
- 2 地形分野の学習
 - (1) 山脈、河川、平原の成立と変化
侵食作用（水・風）、火山活動、地震、
 - (2) 地形の特徴と人間生活
地形を活用した人間生活
- 3 自然環境の保全と保護
 - (1) 自然環境の破壊の現状
 - (2) 自然環境との共生への知恵

【評価方法】

授業時間中で指示する課題により評価する。

【テキスト】

授業でプリントを配布する。
中学又は高校で使用した地図帳を使用する。

【参考文献・資料】

必要な参考図書は授業中に紹介する。

人文地理

小木曾通男

【授業の概要】

アジア及びイスラム諸国について、各国の歴史と文化の概要を学習するとともに、アジアの諸地域の人々が、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

アジア及びイスラム諸国と日本との歴史的な関係、現在における経済的な関係についての学習を通じて、アジア及びイスラム諸国についての認識を深める。

【授業計画】

1. アジア及びイスラム諸国について、各国別に次の基本的事項について学習する。
 - (1) 気候と地形の概要
 - (2) 旧支配国（植民地）からの独立
 - (3) 宗教、言語等の文化の概要
 - (4) 民族構成、人口の動態
 - (5) 資源、産業、経済
 - (6) 政治形態、教育制度
 - (7) その他の特色
2. アジア及びイスラム諸国と日本との関係について、次の基本的事項について学習する。
 - (1) 日本との経済関係
 - (2) 人的な交流関係
 - (3) 第2次世界大戦下の日本との関係
3. 将来の日本とアジア及びイスラム諸国との関係の展望

【評価方法】

授業時間中に指示する課題の提出により評価する。

【テキスト】

授業でプリントを配布する。
中学又は高校で使用した地図帳。

【参考文献・資料】

東南アジアを知る事典（平凡社）
アフリカを知る事典（平凡社）

建築構法

高田豊文

【授業の概要】

常時荷重や地震、風などの臨時外力に対して建物が安全であるためには、適切な構造形態および構造材料を選択する必要がある。本講義では、力学基礎と建物構築法の考え方を理解することを目的として、木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料および各種構造形式の特性を概説し、設計実例を通して実際の構築方法を紹介する。

【授業計画】

- 第1講 力学基礎と建築構造材料
- 第2講 構法1：ラーメン構造
- 第3講 構法2：チューブ構造
- 第4講 構法3：壁式構造・スラブ構造
- 第5講 構法4：アーチ・ドーム構造
- 第6講 構法5：シェル構造
- 第7講 構法6：平面トラス構造
- 第8講 構法7：立体トラス構造
- 第9講 構法8：折版構造・テンション構造
- 第10講 構法9：テント・エアドーム構造
- 第11講 設計例：木造立体トラス構造
- 第12講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

初めての建築構造デザイン（宮元健次著 学芸出版社）

建築構造Ⅰ（力と骨組み）

今岡克也

【授業の概要】

建物の安全性を確保するには、自重や風、雪、地震などの外力によって構造部材に作用する応力度を材料の許容値以下に押さえる必要がある。

本講義では、建築構造の初歩として、力とモーメントの釣り合いを理解し、様々な外力を受ける静定構造物の応力分布や最大応力度などを算定する方法について学ぶ。

全ての授業で演習を行う予定ですので、電卓と定規を持参して下さい。

【授業計画】

- 第1講 概要、力とモーメントの釣り合い
- 第2講 支点と反力、不静定次数
- 第3講 静定梁の反力、応力の種類と応力図
- 第4講 静定梁の応力図（1）
- 第5講 静定梁の応力図（2）
- 第6講 静定ラーメンの応力図（1）
- 第7講 静定ラーメンの応力図（2）
- 第8講 静定トラスの軸力図（1）
- 第9講 静定トラスの軸力図（2）
- 第10講 断面の性質
- 第11講 応力度とひずみ度
- 第12講 断面の核、オイラー座屈

【評価方法】

単位認定試験の成績と演習の成績によって総合的に評価する

【テキスト】

テキスト建築構造力学Ⅰ（阪口 理他著 学芸出版社）

【参考文献・資料】

絵とき建築構造力学（志村一男他著 オーム社）
図解建築構造力学の学び方（槇谷栄次他著 オーム社）
建築構造力学Ⅰ（和泉正哲著 培風館）

建築構造Ⅱ（地盤と建物）

太田 裕

【授業の概要】

建築関連のうち、建築物（下部－上部構造）を支える「地盤」と「下部構造」（基礎構造とも呼称される）を中心に基本事項の習得に努める。都市環境デザインコースにおける最も基礎的な学習科目の一つであり、徹底学習が不可欠である。したがって、授業は「講義と演習（小テスト）」を交互的に行う形で進められる。

【授業計画】

1. 序説－建築物を支えるもの－
2. 外力－異常自然現象－
3. 地盤－成り立ちと構成－
4. 地盤－力学的性質－
5. 基礎構造－定義と役割－
6. 基礎構造－力学・物理学－
7. 基礎構造－設計の基礎－
(注) 演習（小テスト）を適宜実施する。

【テキスト】

わかりやすい建築構造設計2 基礎構造（大成出版）

【参考文献・資料】

多々あり、講義の中で指示する。

建築材料

山田和夫

【授業の概要】

現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造である。本授業では、これらの構造物を構成する素材、すなわちコンクリートおよび鉄鋼の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然材料および人工材料の基本的特性に関する知識も習得できるように講義する。

【授業計画】

- 第1講 建築材料の分類と講義予定の説明
- 第2講 コンクリートの構成材料
- 第3講 コンクリートの製造方法
- 第4講 フレッシュコンクリートの性質
- 第5講 硬化コンクリートの強度性質
- 第6講 硬化コンクリートの変性性質
- 第7講 鉄鋼の種類と製造方法
- 第8講 鉄鋼の性質と製品
- 第9講 木材の性質と製品
- 第10講 粘土およびガラス製品
- 第11講 アスファルトおよびプラスチック製品
- 第12講 不燃材料および材料試験

【評価方法】

出席状況と定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

建築材料（嶋津孝之他著 森北出版）

建築材料実験

山田和夫

【授業の概要】

現代の建築構造物に使用されている主用構造材料は、鉄鋼およびコンクリートである。これらのうち、鋼については、建築技術者が材料の製造を担当することは殆どないため、専ら材料または構造物としての性能を評価するための実験が重要となるが、コンクリートについては、その製法と性質に関する実験が重要となることが多い。そのため本授業では、これらの点を十分に考慮して半期で修得すべき重要な実験項目を厳選した。

【授業計画】

- 第1講 各種実験方法および実験予定の説明
- 第2講 骨材試験の種類と試験方法の説明
- 第3講 骨材の密度、吸水率、単位容積質量試験
- 第4講 コンクリートの調合設計方法の説明
- 第5講 コンクリートの実施調査表の作成
- 第6講 コンクリートの混練および打設
- 第7講 コンクリート試験の種類と試験方法の説明
- 第8講 フレッシュコンクリートの試験
- 第9講 硬化コンクリートの引張および圧縮試験
- 第10講 鋼材試験の種類と試験方法の説明
- 第11講 鋼材の引張実験
- 第12講 レポートの講評

【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

構造材料実験法<第2版> (谷川恭雄他著 森北出版)

建築法規

角岡照一

【授業の概要】

建築に関連する法規のうち、都市計画法、建築士法、住宅の品質確保の促進等に関する法律の概要と、建築基準法を重点に勉強し、理解を深めるために、演習問題を課す。

【授業計画】

- 第1回 法令の構成
我国における建築法規の歴史。建築士法
- 第2回 都市計画法
- 第3～5回 建築基準法総則関係
- 第6～8回 建築基準法単体規定関係
- 第9～13回 建築基準法集団規定関係
- 第14回 住宅の品質確保の促進等に関する法律
- 第15回 期末試験

【評価方法】

演習課題及び期末試験並びに出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

基本建築関係法令集〔法令編〕平成15年版
(国土交通省住宅局建築指導課監修 霞ヶ関出版社)
図解でわかる建築法規
(高木任之著 ㈱日本実業出版社)

【参考文献・資料】

建築法規用教材2003 (日本建築学会編著 丸善)
新しい建築法規の手びき 平成15年版
(日本建築技術者指導センター編 霞ヶ関出版社)

建築生産システム

鈴木直人

【授業の概要】

工業生産としての建築・商行為としての建築の実務に関する理解と知識の習得を目的とする。建築生産のプロセスについて概観したのち、建築施工計画・施工管理の現状と問題点を解説する。併せて、ビデオ・現場見学によって建築生産の実態に関する理解を深める。今後の方向として、建築生産の新しいシステムや生産情報に関する動きについて論じる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 工業生産としての建築生産
- 第2回 建築生産のプロセス・商行為としての建築生産
- 第3回 建築設計のプロセス
- 第4～6回 施工計画と施工管理の現状
現場見学会
- 第7回 建築生産の問題点・建築生産の新しい動き
- 第8回 建築生産情報と将来展望
- 第9回 単位認定試験

現場見学、ビデオの関係で週1回2時限の時と、隔週1回4時限との組み合わせを考えています。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験（レポートを含む）の成績による総合的評価

建築環境学実験

齋藤基之

【授業の概要】

室内や屋外等の熱・空気・音・光環境の定量的な測定・評価方法を学ぶことにより、建築や都市の環境、およびこれらと人間とのかかわりについて理解を深めることを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）およびⅡ（音・光）を履修しておくことが望ましい。

【授業計画】

- 第1回：概論
- 第2回：温熱環境の測定（1）：測定の目的と方法
- 第3回：温熱環境の測定（2）：測定の実施
- 第4回：温熱環境の測定（3）：測定結果の解析と評価
- 第5回：空気環境の測定（1）：測定の目的と方法
- 第6回：空気環境の測定（2）：測定の実施
- 第7回：空気環境の測定（3）：測定結果の解析と評価
- 第8回：音環境の測定（1）：測定の目的と方法
- 第9回：音環境の測定（2）：測定の実施
- 第10回：音環境の測定（3）：測定結果の解析と評価
- 第11回：光環境の測定（1）：測定の目的と方法
- 第12回：光環境の測定（2）：測定の実施
- 第13回：光環境の測定（3）：測定結果の解析と評価
- 第14回：総括

【評価方法】

出席状況、提出レポートの内容等により総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（配付資料による）

【参考文献・資料】

- ・建築環境工学実験用教材Ⅰ環境測定演習編（日本建築学会 丸善）
- ・建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

建築設備学

横山浩一

【授業の概要】

現代の建物の内部環境を快適に、健康的に、便利に、安全に保つために、我々の先輩はどんな仕組みを考えたか、幅広く解説する。更に、構造を無視した建築設計が無意味であると同様に、環境と遊離した建築設計は成り立たないことを、履修生諸君に理解してもらう。数式を駆使して行う設備設計の講義は、次の段階に譲る。

【授業計画】

- 第1回 建築環境・地球環境
この授業の目指すもの
- 第2回 小規模建物1
給水
- 第3回 小規模建物2
排水
- 第4回 小規模建物3
エアコン
- 第5回 小規模建物4
換気・防災
- 第6回 大規模建物1
給排水・照明
- 第7回 大規模建物2
空気調和
- 第8回 大規模建物3
空調の熱源
- 第9回 大規模建物4
空調の諸方式
- 第10回 大規模建物5
昇降機
- 第11回 大規模建物6
電力
- 第12回 自然エネルギー
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、単位認定試験の成績によって、評価する。

【テキスト】

建築環境工学用教材 設備編 (日本建築学会 丸善)

【参考文献・資料】

建築環境工学用教材 環境編 (日本建築学会 丸善)
建築設備計画 (中村 洋・渡辺俊行編 朝倉書店)
空気調和設備の実務の知識
(空気調和衛生工学会編 オーム社)
給排水・衛生設備の実務の知識
(空気調和衛生工学会編 オーム社)
環境白書 総説 (環境庁編 ぎょうせい)
建築設備関係法令集
(建設省住宅局監修 霞ヶ関出版社)

空間設計 I (設計基礎)

清水裕二 三輪律江 道家 洋

【授業の概要】

与えられた条件から導き出される建築的解答はひとつではない。この授業では、ある与条件からコンセプト(概念)を整理しつつ空間を構築してゆく訓練を行い、より複雑な建築を設計するための基礎体力を養うことを目標とする。

授業の進め方としては

1. 課題の提出: 条件の提示。
2. コンセプト: 与条件に対して自分はどうの考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
3. プレゼンテーション: スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4. エスキース: 議論を通じて案をリファインしてゆく。
5. 図面化: 最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6. 講評会: 図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。

という流れとなる。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース(2~4)を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし。

空間設計Ⅱ（小規模施設）

日色真帆 小林 聡 高橋敏郎

【授業の概要】

空間設計Ⅰをふまえて、周辺環境も考慮した小規模な施設の設計を行う。現地調査、資料収集、事例研究などをふまえて、図面、模型、CAD、写真、スケッチ、文章など、さまざまな表現手段を使って、案をまとめあげるトレーニングを行う。プレゼンテーションの仕方についても学習する。

【授業計画】

- ・出された課題に対して、エスキースを作成し、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・課題は2～3課題出される予定である。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・グループ分けを行い、3名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

空間設計Ⅲ（中規模施設）

垂井洋蔵 笠嶋淑恵 鈴木千鶴

【授業の概要】

空間設計Ⅰ及びⅡでの成果をふまえ、提出された演習課題に従って、複雑な建築的諸要求を具体的なプロジェクトにまとめる為のトレーニングを行う。

- 1) より複雑な機能上の諸要求の建築的空間への計画的な合理性を持った翻訳
- 2) 周辺環境のもつ視覚的構成と論理的に対応する形態の発見と外部空間の規定
- 3) 建築空間と、それを成立させる為の整合性をもった構造的システムの提案
- 4) 法的規制の把握
- 5) 魅力あるオリジナルな建築空間の造形とその表現を実際の設計課題を通して学ぶ。

【授業計画】

おおむね次のようなプロセスをふむ。各段階ごとに必ず成果を提出し批評を受ける。

- 1) 敷地や周辺環境の空間的特性から建築造形のイメージを得る為のスケッチと概念的造形モデルの作成
- 2) ヴォリューム検討の為のブロックモデルを造形モデルと関連させながら作成する
- 3) 建築モデル第一次案の作成と講評
- 4) 構造システムの検討 構造モデルの作成
- 5) エスキースと講評により計画をまとめあげる。
- 6) 最終提案の完成と発表

【評価方法】

各段階ごとの提出作品と、最終案への成熟プロセス、講評会での発表の内容などを総合的に評価します。

【テキスト】

特に無し

空間設計Ⅳ（複雑な施設）

清水裕二 宇野 享 鈴木えいじ

【授業の概要】

現代の建築は、スケールの大きさにかかわらず、従来のビルディング・タイプ（学校・美術館・庁舎等）では分類できないような新たなプログラムが要求される。この授業では、従来の建築計画をベースにしつつ、現代性のある提案を盛り込んだ課題について考察し、建築化するプロセスを学習する。

授業の進め方としては

1. 課題の提出：条件の提示。
2. コンセプト：与条件に対して自分はどういう考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
3. プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4. エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5. 図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6. 講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。

という流れとなる。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（2～4）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし

空間設計Ⅴ（都市複合施設）

日色真帆 尾崎公俊

【授業の概要】

空間設計Ⅰ～Ⅳをふまえて、現実の建築設計に近い、より複雑で高度な課題に取り組む。コンセプトの立案から、資料の収集、案の創造性豊かな展開、細部にいたる修正と詰め、プレゼンテーションの工夫といった一連のプロセスを自力で展開することが要求される。課題としては、都市的環境における建築のあり方を探るものが出題される予定である。学生はこの科目で十分なトレーニングを積んだ上で、卒業時に制作する卒業設計に臨むことになる。

【授業計画】

- ・出された課題に対して、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・2名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

計画演習Ⅰ（図面表現）

高橋敏郎 渡辺 達 小林 聡

【授業の概要】

建築は設計者、施工者、その他多くの人々の共働によってつくられる。建築設計製図は、それら建築に携わる人々を結ぶコミュニケーション手段であり、基本言語であるともいえよう。計画設計演習Ⅰでは、構想⇄平面⇄立体といったプロセスを通じて設計に必要な空間把握力や、図面から立体的な空間がイメージできる能力を修得するとともに、建築設計製図作成上必要な諸々の製図記号、表現方法を学び、設計意図の有効なプレゼンテーション技法を身につけることを目的とする。

1. 平面と立体：立体をいかにして平面上に表現するのか。正投影法、透視図法など、いくつかの図法を通じて学んでゆく。
2. 建築設計図面の基礎：製図記号などの基本的言語を身につけ、平面図、立面図、断面図など、建築設計図面の読み方、描き方を修得する。
3. 様々な図面表現：必要なことを過不足なしに伝える図面から、アピールする図面をめざし、プレゼンテーションの幅を広げる。

<受講上の注意>

- ・一級建築士受験資格の取得を目指している人は、必ず受講すること。
- ・基本的製図用具（三角スケール、三角定規、製図用シャープペンシル、テンプレート等）が必要。詳細は授業のガイダンスで説明する。学内での販売も行う予定。

【授業計画】

1. 製図法や図面表現に関する解説を行った後、課題を出題する。
2. 数週間製図作業を行い、課題を提出する。
3. 授業中作業する課題以外に、いくつか宿題を出す予定。

【評価方法】

出席状況と提出された課題、宿題をもとに評価を行う。

【テキスト】

建築設計演習 基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで（武者英二+永瀬克己 彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編 丸善）

計画演習Ⅱ（都市観察）

齋藤基之

【授業の概要】

都市・建築空間は人間が滞在し生活する場である以上、そのデザインに際して、熱・空気・音・光といった環境要素の快適性にも配慮することが必要不可欠である。この演習科目では、実在の都市・建築空間等を対象とした観察・調査・分析、およびその結果を考慮した設計の提案までを体験することにより、環境を考慮した都市・建築のデザインセンスを養うことを目的とする。なお、本科目受講に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）を履修しておくことが望ましい。

【授業計画】

- 対象とする都市・建築空間は名古屋近辺とし、具体的には授業の中で示す。
- 対象とする環境要素としては、主に温熱環境を扱う予定である。
- 授業の進め方としては、以下を予定している。
 - 1) 課題の提示：対象空間および対象とする環境要素に関する説明。
 - 2) 講義：課題を解くための基礎知識の解説と演習。
 - 3) 調査：対象空間の観察・調査。
 - 4) 設計：調査結果および講義内容を考慮し、建築物等のデザインを行う。
 - 5) 検証：自らの設計が環境要素や人体感覚等に及ぼす影響について分析・検証する。
 - 6) プレゼンテーション：図面や模型、グラフ等を用いて、自らの提案を表現するとともに、その環境効果について示す。

【評価方法】

出席状況、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（配付資料による）

計画演習Ⅲ（調査実測）

清水裕二

【授業の概要】

建設設計の作業の中で、図面や建築模型と実際の空間体験を結びつけるにはある程度の実験を必要とする。たとえば、スケール感。たとえば、構造の空間的な力の流れ。この授業では、手を動かし、ものをつくり、五感で体験することを通じて、机上での構想と実現される空間とを少しでも架橋することを試みる。詳細はまだ決定されていないが、「簡易シェルター」「構造と空間」「展示空間」などのテーマを設定し、簡便な材料を使用して製作を行う予定である。登録者は、日程、必要な道具、材料などを追って掲示するので、注意するように。（毎年、ギャラリー間主催の巡廻展の会場構成計画、及び施工を行っており、本年度も開催が決定された場合、例年通り展示会場の計画・施工を授業内で行う予定である。）

【授業計画】

授業は集中講義とする（日程は追って掲示するが、土曜日に行われることが多いので、履修の際は注意すること）。

【評価方法】

作業の成果物及びその製作過程を記録したレポート等の提出物、授業態度等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

CAD基礎

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築設計、デザイン、設計図の作成等の諸場面におけるCADシステムのもつハード、ソフト面の基礎的な概念を理解する。CADの持つ積極的側面、限界を正しく把握することによって、計画、デザインのプロセスにコンピュータを有効に利用する能力を開発することを目的とする。演習を通してCADシステム利用の基本的操作をマスターし、より高度な設計、プレゼンテーション手法としてのコンピュータ利用の為の基礎を修得する。

【授業計画】

- 1 CADシステムの概要。本学のシステム構成と、機器の説明及び演習の進め方の諸注意
 - 2 実社会で使われているCADソフトウェア体系の概観と本演習で使用するソフトウェア（VectorWorks）の基本操作の解説と実習
- 以下各演習課題に基づいて簡単なデザイン課題を完成させる。課題の各段階で必要な操作上の解説を行う。

- 演習課題1 簡単な建築的要素による造形。二次元図面の作成と三次元化によるデザイン上の評価。
- 演習課題2 建築図面のCADによる作図方法の演習。
- 演習課題3 演習課題1で行なった各自の作品を題材にして建築作品をコンピュータ上で設計する。すべての課題をプレゼンテーションして提出する。

【受講上の注意】

CAD教室の時間外使用を含め、施設使用上の諸注意を行うので第1回目の演習に必ず出席すること。

【評価方法】

演習への出席。各ステップごとの課題の提出。作品の内容を総合的に評価する。

【テキスト】

演習の各段階で解説資料を配布する。操作上のマニュアルはCAD教室に備え付ける。

CAD 応用

天野良則

【授業の概要】

計画演習Ⅳ（CAD基礎）で修得した技術をもとに、設計初期段階における造形力開発の為に3次元形態のモデリングやシュミレーション技法、作品のレンダリングやプレゼンテーション技法をコンピュータ上で学ぶ。建築デザインの表現能力を高める手段として、コンピュータ利用に習熟することを目指す。

【授業計画】

本演習では、VectorWorks、RenderWorksの他Photoshop、Illustrator等のプレゼンテーション用ソフトを使用する。演習課題をとおして、3次元モデリング、レンダリング、画像処理の技法を学び、最終的に作品としてまとめるための表現技法を学ぶ。

各演習課題にそって、講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

演習課題1 簡単な立体の組合せによるモデリング、レンダリングの基本操作

演習課題2 街並みのモデリング・ムービー作成

演習課題3 住宅のモデリング・レンダリング

演習課題4 過去の課題の再プレゼンテーション

〔受講上の注意〕

計画演習Ⅳ（CAD基礎）を受講していることを前提として演習を進めます。各課題は演習時間内に完成させることは難しいので、各自自習時間を利用して作業を進めることになります。

【評価方法】

演習への出席状況と、各課題の提出、課題作品の内容を総合評価します。課題を期限内に必ず提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

演習時間内に資料を配布します。操作上のマニュアルはCAD室に備え付けます。

CAD 特別演習

天野良則

【授業の概要】

CAD基礎・CAD応用で修得した技術をもとに、コンピュータを利用したプレゼンテーション技術の上達を目指す。

【授業計画】

本演習では各CGアプリケーションの応用技術を演習課題をとおして学び、最終的に作品の表現力を高める事を目標としています。

各演習課題にそって講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

※第1回目の授業で演習課題を発表します。

【受講上の注意】

CAD基礎・CAD応用を受講していることを前提とします。

【評価方法】

毎回複数のアプリケーションについて説明を行うため、出席状況を重視します。

課題は期限内に提出したもののみ評価します。

【テキスト】

授業内に配布します。

教職入門

梅村敏郎

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教師像の変遷
- 2 現代の理想的教師像
 - (1) 教科指導者としての教師
 - (2) 特別活動の指導者としての教師
 - (3) 教師とカウンセリング
 - (4) 学級経営者としての教師
 - (5) 教師と校務
 - (6) 共生社会における教師の仕事
- 3 家庭人としての教師
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

【評価方法】

筆答試験による。

【テキスト】

「教職入門」300円

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 戦前の教員養成
 - (2) 戦後教育改革と教員養成
 - (3) 教職課程の仕組み
 - (4) 教員の採用
2. 種々な教師に学ぶ
 - (1) 新採用教員の一年
 - (2) エリオット先生の差別体験授業
 - (3) 授業崩壊からの脱出
 - (4) 現職教員の研修
3. 教師物語に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教育とは何か
3. 人間と教育
 - ・動物学からみた人間の特殊性
 - ・人間の成長と環境
 - ・教育の重要性
 - ・人間形成の場
4. 教育の本質
 - ・注入主義
 - ・開発主義
5. 教育の目的
 - ・教育目的とは
 - ・教育目的の歴史の変遷
6. 現代の教育

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウス
- 3 ルソー
- 4 ペスタロッチ
- 5 フレーベル
- 6 デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

江藤恭二

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想
7. 産業革命と教育

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関する Video 教材を用いる。

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

西洋近代教育史 (江藤他編 学文社 2,300円)

教育心理学 I

富安玲子

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／
 - 原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／
 - 報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性をもつ存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野に入れて学んでいく。

【授業計画】

- 1 教職課程の中での発達の心理学
 - －発達心理学を学ぶ／発達の心理学から学ぶ－
 - (1)教育の対象者への理解
 - (2)教育対象の理解から自己理解へ
 - (3)発達の可塑性(可変性)の存在と限界
 - (4)青年期の意味
- 2 発達と学習
 - (1)発達を規定する要因
 - (2)成熟と学習
 - (3)発達の個人差
 - (4)発達と教育
- 3 自己意識の発達
 - (1)「自分」の諸相
 - (2)乳児期 「自分でない」世界の認識から
 - (3)幼児前期 第一「反抗」期
 - (4)幼児後期 自我と他我
 - (5)児童期 他律的規範への順応
 - (6)青年期 第二の誕生／アイデンティティの確立
 - (7)成人期以降
- 4 生涯発達の視点と生き方
 - －自分探しの旅と人間関係－

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

1 心身障害児の理解

- ・「心身障害児理解のために」VTR視聴（感想文）
- ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴（感想文）

2 心身障害児の種類と程度

- ・心身障害児とは
- ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
- ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
- ・知的障害児の障害の程度と発生原因
- ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境

3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性

- ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
- ・社会自立に向けた後期中等教育の現状

4 心身障害児の就学指導の仕組み

5 心身障害児（者）教育の歴史

- ・心身障害児（者）教育を開拓した人々
- ・心身障害児（者）教育の歴史の変遷

6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
 - ・大学の成立
 - ・中等学校の成立
 - ・初等学校の成立
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
 - ・教育法規とは
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学校教育法
 - ・学校教育法施行令
 - ・学校教育法施行規則
 - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律
 - ・その他
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

使用せず。（資料配布）

【参考文献・資料】

- 比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）
比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

教育課程

小木曾通男

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト（レポート）及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

- 中学校学習指導要領（文部省）
高等学校学習指導要領（文部省）

教育課程

渡辺かよ子

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史的変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)

高等学校学習指導要領(文部省)

社会科教育法 I

望月太海

【授業の概要】

小学校社会科の教育課程の概要を解説し、中学校社会科の教育課程の構造について理解を深める。

日本と関係の深い国々について学習することによって、日本の国土についての理解をどのように深めるか、中学校教科書(地理的分野)を用いて、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

前期

1. アンケート(学生の意識調査)
2. 世界の人口問題と食糧・エネルギー・雇用
3. 中国の「1人っ子政策」は怎么样了か。
4. 国家と民族——「ユーゴスラビアの分裂と内戦
5. ソールズ・ベリーの「中国」(VTR)150分
6. EECからEUまで。

後期

1. EUの未来
2. 三内丸山遺跡と縄文の見直し。
3. 「軍事」を何時まで避けて通れるか。
4. 解釈改憲と憲法改正と自衛隊とガイドライン
5. 経済の学習に必要な基本原理の学習
6. 不登校・学級崩壊に対する学習と対策

【評価方法】

テストは実施せず、授業参加の積極性、ディベートでの論理構築力、社会科教員としての知識量とセンス、出席数などにより決定する。

【テキスト】

中学校は、地理・歴史・公民に亘るので、「EU」のような地理の分解については、教科書をコピーして配布し、あとは教員の私の作成するプリントと、VTRやOHCを使用して授業を行います。

社会科教育法Ⅱ

望月太海

【授業の概要】

日本と関係の深い国々の歴史と文化について学習することによって、日本の歴史と文化を愛する心をどのように育成するか、中学校教科書（歴史的分野）を用いて、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

民主主義社会の担い手となるにふさわしい公民的資質の育成をどのようにおこなうか、中学校教科書（公民的分野）及び現実的・具体的な問題を取りあげて、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

前期

1. アンケート（学生の意識調査）
2. 世界の人口問題と食糧・エネルギー・雇用
3. 中国の「1人っ子政策」はどうなったか。
4. 国家と民族——「ユーゴスラビアの分裂と内戦
5. ソールズ・ベリーの「中国」（VTR）150分
6. EECからEUまで。

後期

1. EUの未来
2. 三内丸山遺跡と縄文の見直し。
3. 「軍事」を何時まで避けて通れるか。
4. 解釈改憲と憲法改正と自衛隊とガイドライン
5. 経済の学習に必要な基本原理の学習
6. 不登校・学級崩壊に対する学習と対策

【評価方法】

テストは実施せず、授業参加の積極性、ディベートでの論理構築力、社会科教員としての知識量とセンス、出席数などにより決定する。

【テキスト】

中学校は、地理・歴史・公民に亘るので、「EU」のような地理の分解については、教科書をコピーして配布し、あとは教員の私の作成するプリントと、VTRやOHCを使用して授業を行います。

公民・社会科教育法Ⅰ

小林春治

【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構造とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。

「現代社会」の授業においては、中学校社会の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 公民科設置の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民としての資質」を育む公民教育について、中学校公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編（文部省 実教出版 予価230円）

現代社会（高等学校教科書 一橋出版 予価580円）

公民・社会科教育法Ⅱ

小林春治

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通じて、深い洞察力をそなえた民主的な行動の実践を行える人間の育成をめざす。

「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日の問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・ 道徳教育の目標
 - ・ 道徳教育の内容
 - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・ 「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・ まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
2. 特別活動の歴史の変遷
3. 学級活動
4. 生徒会活動
5. 学校行事
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事
 - (5) 勤労生産・奉仕的行事
 等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

北杜夫『どくとるマンボウ青春記』（新潮文庫）
『特別活動への誘い』

【参考文献・資料】

高旗正人・倉田侃司編著『特別活動』（ミネルヴァ書房） 等

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていききたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
 - (2) 生徒理解と学級担任の役割
 - (3) 共感的学級経営の実践
 - (4) 成就型教育観と参加型教育観
 - (5) 学級担任と言葉の問題
 - (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
- 以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導
現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。
 - (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
 - (2) 青少年非行と矯正教育
 - (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
 - (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点
2. 進路指導
進路指導の基本理念及びその目的を学習する。
 - (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
 - (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
 - (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
 - (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

生徒指導講義ノート（小木曾通男編 250円）
自作プリント教材

生徒指導（進路指導を含む）

不破民由

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、21世紀に生きる生徒の健全な育成を目指す。進路指導においては、その理念及び目的を、具体的に学習する。こうした学習をととして生徒に接する教員の在り方及び人間観についても具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導の歴史の変遷
2. 生徒指導の国際比較（イギリスを中心に）
3. 生徒指導の難しさと喜び
4. 教育相談
5. 「生き方」指導としての進路指導
等

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

佐野真一『遠い「山びこ」』（文春文庫）
『生徒指導論の試み』

【参考文献・資料】

- 広田照幸『教員言説の歴史社会学』（名古屋大学出版会）
森嶋通夫『イギリスと日本』（岩波新書）
P. ウィルス『ハマータウンの野郎ども』（ちくま学芸文庫）
P. アリエス『<子ども>の誕生』（みすず書房）
本多和子『異文化としての子ども』（ちくま学芸文庫）
J. J. ルソー『エミール』（岩波新書）
H. スペンサー『知育・徳育・体育』（明治図書）
天野正輝編『生徒指導・進路指導』（協同出版）
等

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ/相談担当と学級担任の役割/
教育相談における人間関係の確立/教育相談の形態と場面構成/教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングにおける人間理解
 - ・カウンセリングの歴史
 - ・カウンセリングの人間観
 - ・カウンセリングの理論
3. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
4. 「聴く」練習－ロールプレイ－
5. カウンセリングの実用例
6. 応答訓練
7. ミニ試行カウンセリング
8. カウンセリングにおける諸問題
 - －試行カウンセリング／ロールプレイのまとめから考える－

【評価方法】

期末提出の課題レポートとロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小木曾通男 梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳
加藤文子 霜田一敏 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉－障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて－ (加藤文子)
- (3) 国際化を考える (小木曾通男)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 7月30日 ※1月28日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 9月5日 ※2月27日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月12日 ※3月5日
 - (1) 課題レポートについて報告 (1人10～15分)
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月19日 ※3月12日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月26日 ※3月19日
 - (1) グループ代表者の発表 (1名15～20分)
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文により評価

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

小木曾通男

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習Ⅰ

加藤文子

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

(1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたり、ともに学級事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小木曾通男

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルビ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

国際理解教育論

小木曾通男

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要（300円）

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

読書指導

梅田卓夫

【授業の概要】

今日の中高校生は全くという程本を読まないといわれている。この実態を解明するために、本好きになった要因や本嫌いになった要因をまず明らかにしたい。そこで漫画本や少女小説が読書好きにさせるかなど具体的な問題も取り上げたい。本講義は、読書指導法の講義ばかりでなく、受講者自身が読書好きになるような参加型授業にしたい。特に学校内における制約のない読書の時間、「黙読の時間」や「自由選択読書の時間」などの実例を取り上げ、その実体と教育的な意義を論究する。

【授業計画】

1. 読書のよこび
人はどのようにして読書の楽しみと出会うか
先人たちの例、受講者自身の場合
2. 人間形成と読書
読み聞かせの意味——幼児期の精神形成との関わり
黙読の意味——読書の本質。内言語・内省・思索の能力と読書
学校の中の読書指導——「読み聞かせ」「10分間読書」「朝の黙読」などの実践例
他人による助言——家庭、学校、図書館、読書の友
読書サークル
3. 読書の技術
情報化時代の読書——探す・調べる・読む・考える
本を読む生活——愛読書、「書物の敵」
4. 文化史の中の書物
古代アレキサンドリア大図書館から今日まで「英知の容れ物」に関わった人間の営み

【評価方法】

授業の中で与えるテーマに沿っての発表、および期末試験、によって行う

【テキスト】

本の歴史 (B. プラセル著、荒俣宏監修、木村恵一訳 創元社)

ほかに適宜プリントを配布する

学校経営と学校図書館

小木曾通男

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気为学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館だより
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

1. 学習活動を促進する学校図書館
 - (1) 利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - (2) 教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - (3) 教科・科目に関係のある本や資料の充実
2. 学習指導と学校図書館の利用
 - (1) 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - (2) 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
3. 各教科・科目の学習指導
 - (1) 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - (2) 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
4. 新設された「情報」の学習指導
 - (1) 「情報」における学校図書館の活用方法
5. 新設された「総合的な学習の時間」
 - (1) 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - (2) 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよここび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教員による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論 I

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。I では、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学／情報学／図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流通過程
情報の流れ／情報メディア
事例：学術情報の流通過程
3. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史／情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み／構造的な理解
認識・認知・こころ／人間・人・ヒト

【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論 I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円（税別定価）

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館
／専門図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク／
競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典
編集委員会編 丸善 3,800円(税別定価)

図書館経営論

山本 進

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- 0, オリエンテーション・図書館の経営論の意義 1回
 - 1, 図書館館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
 - 2, 図書館学の五法則と図書館員の関わり 1回
 - 3, 図書館の自由に関する宣言 2回
 - 4, 図書館員の倫理綱領 2回
 - 5, 図書館員と労働基準法解説 1回
 - 6, 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 1回
 - 7, 図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) 1回
 - 8, 図書館計画の立案と実例解説 2回
 - 9, 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
 2. 情報産業の概況
 3. 産業と職業における情報の意味
 4. 情報産業とIT化
 5. 情報サービス事例1：ソフトウェア産業
 6. 情報サービス事例2：メディア産業
 7. 情報サービス事例2：通信産業
 8. 情報サービス事例2：出版産業
 9. 情報サービス事例3：図書館情報
 10. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
 11. 情報サービス事例5：情報分析・シンクタンク
 12. 情報産業におけるキャリアパターン
 13. 情報産業における勤労観と職業倫理
- 講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織－間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

杉江典子

【授業の概要】

図書館で実施されるレファレンスサービスについて、その意義とサービス内容を理解することを目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

杉江典子

【授業の概要】

レファレンス質問の回答に利用される情報源にはどのようなものがあるのか、それぞれの情報源にはどのような特徴があるのか、を理解することを目的とする。講義を中心に進めるが、講義で学んだ知識を生かして演習課題を解き、具体的な探索方法についても学ぶ。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版 (長澤雅男 丸善 3,296円)

情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
 - 2.1 インターネット検索
 - 2.2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
 - 3.1 JOIS
 - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

なお、情報検索演習Ⅰと図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。ただし、他級聴講者は図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱのみでも構わない。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. CD-ROMでの検索
3. オンライン情報検索システム
 - 3.1 JOIS
 - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

小テストおよび小レポートと、テーマ検索のレポート。以上を総合評価する。

【テキスト】

使用せず（プリントを配布）。

情報メディア基礎論 I・II

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

情報メディア論IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサードキュメントからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

山崎茂明『論文投稿のインフォマティクス』中外医学社

【参考文献・資料】

- Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社
山崎茂明 『医学文献サーチガイド 第2版』日本医書出版協会
根岸正光・山崎茂明 『研究評価』丸善

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録
記述目録（1）AACR 2^r、NCR
- 第6回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第7回 記述目録（3）典拠コントロール
- 第8回 主題目録（1）分類法
- 第9回 主題目録（2）分類法
- 第10回 主題目録（3）件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源の記述

【評価方法】

平常点、期末試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

資料組織演習

岡澤和世 伊藤真理

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
分類：NDC
主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法
ISBD
アクセス・ポイント
標目形
- ・MARCについて

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

福永智子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスの現状について検討する。とりわけ、学校図書館のサービスに重点を置いて解説する。

【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
 - (1) 児童サービスの法的基盤
 - (2) 児童図書館員の役割と専門性
 - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
 - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
 - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
 - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
 - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
 - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
 - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
 - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
 - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
 - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験 (1.~13.)

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 児童サービス論（堀川照代編著 日本図書館協会）
- 児童サービス論（佐藤涼子編 教育史料出版会）
- 学校図書館論 補訂版（塩見昇編 教育史料出版会）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代から、ルネサンス期までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業計画】

0. オリエンテーション

歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

【授業計画】

1. 図書館の世紀

近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達

2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起源
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川鏑治

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の出發 I…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の出發 II…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみすえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出發
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再出發

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川鏑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川銑治

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

- 次の単元を土台として講義を展開する予定である。
- 博物館や美術館の展示と陳列構造
- 博物館がとり扱う資料の収集と保存
- 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
- 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
- 文化財の種類と保護にかかわる諸問題
- 生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・やきもの
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

- 1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
- 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
- 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
- 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
- 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
- 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
- 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか？「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか？

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学時に役立つ基本知識や心構えを修得する。

- ア 資料とはなにか
- イ 博物館と資料
- ウ 収集の方法
- エ 資料の取扱（理論と実際）
- オ 整理と分類（観察とドキュメンテーション）
- カ 調査と研究
- キ 保管と保全
- ク 管理と活用
- ケ 資料情報の公開
- コ 資料と学芸員

【評価方法】

実際の美術品を用いた実習が主体となるので、出席は重視する。

基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え（適性）を評価する。

【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川銑治 戸谷印刷 青本）。
随時プリントを配布する。

博物館実習

長谷川銑治

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

- ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
 - 1 展示とは
 - 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線
 - ・照明
 - ・温度 ・湿度
 - 3 展示の施設
 - 4 展示のプロセス
 - 5 展示と保全
- イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあつて、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。
- ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。
- カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそつて講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
 2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
 3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
 4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用を実習する。
 5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になる役割と未来を探る。
- 授業以外に、
- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
 - 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川鏑治 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

川合剛

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者をつなぐインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業計画】

- 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
- (a) 展示とは
 - (b) 展示のプロセス
 - (c) 展示の構成要素
 - (d) 展示と資料保全
 - (e) 着想から実施まで
 - (f) 解説の方法と印刷物
 - (g) まとめ

- * 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- * 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- * 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
* 2、* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川鏑治 戸谷印刷）。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

生涯学習概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的・水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルビ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざま（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

視聴覚教育メディア論

東浦信博

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論
領域と種類
録音メディア（レコード・テープ・CD等）
映像メディア1（スライド・OHP等）
映像メディア2（映画・ビデオ等）
マルチメディアと情報ネットワーク
講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ￥1,800+税）

教育学概論

江藤恭二

【授業の概要】

教育の概念の説明に始まって、教育の史的展開を日本を中心にして述べ、教育内容・方法の問題、教育行政のしくみを明らかにし、さらに現代教育の諸問題について触れる。教育の原理的・史的基盤から、実践的問題を明らかにして、教育学のパースペクティブの把握につとめる予定である。

【授業計画】

1. 教育とは何か (2回)
2. 教育のあゆみ (4回)
3. 教育内容と方法 (2回)
4. 教育行政のしくみ (3回)
5. 現代教育の諸問題 (4回)

【評価方法】

授業のさいの小テスト (3 or 4回) とレポートによる。

【テキスト】

とくに定めずプリントを適宜配布する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

日本美術史

神谷 浩

【授業の概要】

日本美術史の中で、海外に最も親しまれている浮世絵に注目し、通史的に論じながら、その魅力と特質について考えます。

講義では、毎回豊富なスライドを用いて作品を鑑賞します。学芸員にとって最も重要な能力、自分の目で見て価値を見出し、それを自分の言葉で表現できること、これができるようになることをめざします。

【授業計画】

- 1 ガイダンス 授業のすすめ方、浮世絵の基礎
- 2 ガイダンスII 浮世絵の基礎
- 3 風俗画から浮世絵の成立・浮世絵師1 菱川師宣ら
- 4 浮世絵師2 春信 錦絵の誕生
- 5 浮世絵師3 歌麿 女性を描く名手の真実
- 6 浮世絵師4 写楽 新しい役者絵 日本よりも海外で最初に評価されたのはなぜか
- 7 浮世絵師5 北斎 風景画の誕生。北斎芸術の本質。世界で最も有名な絵画作品は「モナリザ」か北斎の「大波」か。
- 8 浮世絵師6 広重 抒情の世界。北斎との違いは。
- 9 浮世絵師7 美人画さまざま 栄之、清長ら
- 10 浮世絵師8 役者絵さまざま
- 11 浮世絵師9 幕末浮世絵 再評価すべき国芳ら
- 12 浮世絵師10 明治の浮世絵 終焉と新たな出発
- 13 浮世絵のまとめ
- 14 美術の見方 枠にとらわれず、自分の目で作品を見るにはどうするのか。自分の見方の発見について考える。

【評価方法】

授業中に扱った作品の解説を求めるレポートを提出。自分の目で作品を鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるかによって評価します。

【テキスト】

カラー版 浮世絵の歴史 (美術出版社 小林忠監修)

日本考古学概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどのような社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の方法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性とその活用方法についても考える。

【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進む。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。旧石器時代から近世の江戸時代まで12章にて構成する。

【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席1/3を越えたものは受験資格を失うこととする。

【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

Practical English 1 G

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至
山田豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

*文法、ヒアリング中心の授業(週1回)

月曜日1限: 間瀬先生、村上先生

火曜日1限: 山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

*リーディング中心の授業(週1回)

水曜日1限: 山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

(先生の組み合わせは決まっているが履修上、それを選択することはできない。)

テキストは、半期、各1冊、使用する。

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生: 定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生: 出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生: 出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生: 出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生: 出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生: 出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生: 出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生: 出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

- ・K.Hashimoto, M.Yamauchi, K.Keane *Build Up Your TOEIC Vocabulary: A Basic Course* 松柏社、¥1,700
- ・石井隆之、宮野智晴「TOEICテストリーディング基礎演習」英宝社、¥1,600

Practical English 1 H

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至
山田豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。前期に履修した学生も、また新しい気持ちで後期も引き続き授業をうけてもらいたい。後期から履修する学生にも対応できるテキストを使用しているので、積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

*文法、ヒアリング中心の授業(週1回)

月曜日1限: 間瀬先生、村上先生

火曜日1限: 山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

*リーディング中心の授業(週1回)

水曜日1限: 山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

テキストは、半期、各1冊、使用する。

(先生の組み合わせは決まっているが、履修上、それを選択することはできない。)

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生: 定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生: 出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生: 出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生: 出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生: 出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生: 出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生: 出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生: 出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

- ・M.Aoki, *Communication in the Real World: Tasks for TOEIC Test Preparation* 成美堂 ¥1,900
- ・仙福健治、Evan Thomas、「TOEICテストリスニング基礎演習」英宝社 ¥1,600

Practical English 2 G

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

水曜日：山田豊先生、太田晶子先生、鈴木哲至先生
(文法)

金曜日：野口朋香先生、今井加寿先生、松本一喜先生
(リーディング)

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。定期試験の点数を基準に出席率、発表等の日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

- ・H.Hayase, M.Hiwatashi, Z.Mitchell *Reading Preparation Course for the TOEIC Test*、英宝社 ¥1,700
- ・S.Matsuno, R.Howser *Cutting Edge in Science* 金星堂 ¥1,900

Practical English 2 H

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

文法は各クラス等一のテキストを使用するが、リーディングは担当の先生によって異なる。

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、3回のレポート提出、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

- ・Joan McConnell, S.Takeda *Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary* 成美堂 ¥1,900
- ・西谷恒志、吉塚弘、Wayne Philips 「TOEIC Test 450 必須レッスン」 音羽書房鶴見書店 ¥1,750

Practical English 3 G

アレン・D. ウィリアムス キース・イズリー ハリー・T. ノリス
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Gは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 3 H

アレン・D. ウィリアムス キース・イズリー ハリー・T. ノリス
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Hは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4 G

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Gは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

Practical English 4 H

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Hは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

Rapid Reading 1

間瀬欣英

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Saki
The Story-teller
2. William Saroyan
The Great Leapfrog Contest
3. Erskine Caldwell
Girl on the Road
4. Roald Dahl
The Landlady
5. James Joyce
The Boarding House

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Vol.3 (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

Rapid Reading 1

野口朋香

【授業の概要】

英語読解力を養うことはもとより、カナダやアメリカの家庭、学校生活、労働、経済、医療などのトピックに関して日本と比較しながら異文化を学び、また日本文化をも再認識する。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進める。テキストのテープを一通り聞いてからパラグラフごとに大意を把握していく。

第1回～第4回	Chapter 1 – Chapter 5
第5回～第8回	Chapter 6 – Chapter 10
第9回～第13回	Chapter 11 – Chapter 16

【評価方法】

出席・授業態度	30%
筆記試験	70%

【テキスト】

Beneath the Surface 日米文化比較論
(Paul Stapleton & Akira Ito, 成美堂)

Rapid Reading 1

鈴木哲至

【授業の概要】

現代アメリカを代表する人気商品が、どのように誕生しベストセラーになったかを説明するエッセイを読み、アメリカ文化の一面を読みとると同時に、速読の基本を身につける。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

McDonald's Big Mac
Nathan's Hot Dogs
Lipton Tea
Wrigley's Chewing Gum
Scrabble
Webster's Dictionary
Band-Aids
Nikes
Zippo Lighters
Levi's
Aunt Jemima Pancakes
Planters Peanuts
Kellogg's Cron Flakes

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

"A Mini History of America's Best Sellers"
(『アメリカーヒット商品ミニヒストリー』)
Christian Ames 著、松柏社、1,250円

Rapid Reading 1

松本一喜

【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ前半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

Rapid Reading 2

間瀬欣英

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Sherwood Anderson
Paper Pills
2. Kurt Vonnegut
Adam
3. Raymond Carver
Everything Stuck to Him
4. Graham Green
Two Gentle People
5. Somerset Maugham
Mayhew

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Vol.3 (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

Rapid Reading 2

野口朋香

【授業の概要】

一般的な日本人の生活様式や考え方をアメリカ人と対比しながら、文化が人間の価値観や生活にどのように影響を与えているかを考察する。また、英文中の単語や熟語などの表現をしっかりと捉えた上で、英語の読解力・速読力を養っていく。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進めていく。

第1回～第4回	Chapter 1 – Chapter 6
第5回～第8回	Chapter 7 – Chapter 14
第9回～第13回	Chapter 15 – Chapter 20

【評価方法】

出席・授業態度	30%
筆記試験	70%

【テキスト】

Topic on Japanese and American Stereotypes

(Yoshinobu Takesue & Donald E. Barton、松柏社)

Rapid Reading 2

鈴木哲至

【授業の概要】

アメリカの大学への入学の仕方、生活への適応、勉強の仕方、課外活動など米国留学に役に立つ文章を読むことにより、日米のキャンパスライフの違いを探ると同時に、速読の技術をさらに高める。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

Getting Ready for College

How the Colleges Choose Students

On-Campus and Off-Campus Housing

Getting Oriented

Studying

Campus Activities

Off-Campus Activities

Paying for School

Sports – Varsity and Intramural

Majors

Summers

Bull Sessions

The Senior Year

Graduation and Beyond

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

“Study Hard, Play Hard — American Campus Life”
(『よく学び、よく遊べ アメリカのキャンパスライフ』)

James M. Vardaman, Jr. 著、松柏社、1,400円

Rapid Reading 2

松本一喜

【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ後半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

Rapid Reading 3

森本素世子

【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はあまり多いとはいええない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識としてもっている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言葉を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.1~36

(金曜4限)

PP.1~36

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

English and Many Cultures (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

The Background of English (Joan McConnell, 成美堂)

Rapid Reading 3

村上洋子

【授業の概要】

このクラスは比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで、英語読解力を高めることを目的とする。

【授業計画】

Unit 1 Fighting Disease

Unit 2 Genetic Testing

Unit 3 Organ Transplants

Unit 4 Insemination

Unit 5 Reproduction

Unit 6 Norplant

Unit 7 Air Bags

Unit 8 Official English

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

Rapid Reading 4

森本素世子

【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はあまり多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識としても持っている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言語を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.37~78

(金曜4限)

PP.37~82

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

English and Many Cultures (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

The Background of English (Joan McConnell, 成美堂)

Rapid Reading 4

村上洋子

【授業の概要】

このクラスは、比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで英語読解力を高めること目的とする。

【授業計画】

Unit 9 Illegal Immigrants

Unit 10 Temporary Workers

Unit 11 Gambling

Unit 12 Homosexuality

Unit 13 Gun Ownership (1)

Unit 14 Gun Ownership (2)

Unit 15 Smoking (1)

Unit 16 Smoking (2)

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

英語コミュニケーション

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

Students will work in groups, and will select their own topics with a purpose and an objective in mind. The following are topic for the first semester.

- Current events
- Entertainment
- Business issues
- Cultural differences
- Traveling

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announce on the first day of class.

英語コミュニケーション

リチャード・ハリス

【Course Content】

(1 st semester)

The aim of the course is for students to learn how to write in many different ways and styles, and to discuss their work in both small and large groups.

We will examine many different writing styles during the course. Students will be encouraged to explore different writing methods. The class will be exposed to both intensive and extensive writing, as well as some personal letter writing.

(2 nd semester)

The aim of this course is for students to practice speaking as much as possible. Students will learn how to be an active speaker and listener in both small group and large group interactions. Students will also learn how to write and perform small speeches and persuasive debates.

【Schedule】

(1 st semester)

- Lesson 1 - 2 telling a story
- Lesson 3 - 4 writing personal letters
- Lesson 4 - 5 Business letters
- Lesson 7 - 8 writing descriptions of people
- Lesson 9 writing about a fictional event in the future.
- Lesson 10-12 writing a technical paper.

(2 nd semester)

- Lesson 1 - 3 Stating personal opinions
- Lesson 4 - 5 The power of advertising
- Lesson 6 - 7 Radio announcing practice
- Lesson 8 How to write a speech outline
- Lesson 9 -10 Writing a speech
- Lesson 11-12 Speech presentations

【Assessment】

(1 st semester)

Students will be evaluated through their written work and class participation.

(2 nd semester)

Students will be evaluated through class participation, written work and course projects.

【Textbooks】

(1 st semester)

Textbook will be announced during the first class

(2 nd semester)

Textbook will be announced.

英語コミュニケーション

フランソワーズ・ダフ

【Course Content】

This course is aimed at students who wish to improve their ability to talk confidently about themselves, their friends and family, their occupation, leisure activities, likes and dislikes, etc. in English.

Everyday oral communication and listening skills will be the focus the class.

Discussion of cultural issues will also be included.

The students will be expected to be active participants in all class activities.

Frequent quizzes and regular written reports will be graded to encourage students to build up their confidence and vocabulary in English.

【Schedule】

People: self and others

Favorite things

Free time

Occupations

Celebrations

【Assessment】

-Class vocabulary quizzes: 30%

-Written reports: 30%

-Participation in class activities: 40%

【Textbooks】

J-Talk (Linda Lee et al. OUP)

英語コミュニケーション

スコット・R. グリーン

【Course Content】

The focus of this class will be on further development and expansion of previously acquired English skills.

Students will have the opportunity to discover, express and discuss different elements of language and culture. Development of vocabulary and critical thinking skills will be stressed.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on students' level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, attitude and a final project or report at the end of the term.

【Textbooks】

To be announced at a later date.

中国語基礎会話 1 G

曹 述燮

【授業の概要】

始めて中国語に接する学生を対象に、中国語の子母音と声調による音声の成り立ち、その音節のローマ字表記法、正しい発音等の中国語学習の基礎知識を習得させ簡単な構文が理解できる実力を養成する。

【授業計画】

教科の進行中に中国語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてビデオ教材を併用する予定。

第1回～4回：中国語学習の基礎としての声調・子母音・鼻音・声調変化など

第5回～7回：中国語の慣用的挨拶句と基礎構文
多少钱一包？

第8回～14回：基本会話と中国人の生活習慣
中国的夏天怎么样？

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学をはじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Gは、週 2 回コース授業である。曹先生（水 3 限）＋楊先生（金 4 限）または曹先生（水 4 限）＋楊先生（金 3 限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 G

楊 衛平

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信の持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいを、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 Gは、週 2 回コース授業である。曹先生（水 3 限）＋楊先生（金 4 限）または曹先生（水 4 限）＋楊先生（金 3 限）または楊先生（水 1 限）＋鄭先生（木 3 限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 G

鄭澤善

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

【授業計画】

第1回：ガイダンス、中国語とは？ピンイン入門。

第2～5回：ピンインと四声の集中練習。

第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容の説明とともに、朗読させ、練習問題をやらせてもらう。

第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。楊先生（水1限）、鄭先生（木3限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

曹述燮

【授業の概要】

中国語学習の基礎知識を習得して簡単な構文が理解できる実力を持っている学生を対象に、中国語の会話を楽しみながら中国の社会と文化に接することができる授業をめざす。

【授業計画】

中国語の学習をとおして自然に中国社会とその文化がしたしめるように心がけ、授業ごとに身近なトピックを取りあげていく。

第1回～4回：中国人の大学生活と家庭生活

你家有几口人？

第5回～7回：中国での旅行

你去过长城了没有？

第8回～10回：中国人の食文化

水餃子很好吃。

第11回～14回：慣用表現と中国現代社会

她怎么了？

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Hは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

楊 衛平

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語の違い、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。曹先生（水 3 限）＋楊先生（金 4 限）または曹先生（水 4 限）＋楊先生（金 3 限）または楊先生（水 1 限）＋鄭先生（木 3 限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

鄭 澤善

【授業の概要】

前期勉強の延長として、更なる基礎の勉強と会話の習得を目指す。具体的には、ピンインと四声の練習を集中的に行ない、単語から文章及び会話へ段階的に進め、中国語の応用能力の向上に努めたい。

【授業計画】

- 第 1 回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音が主眼。
- 第 2 - 7 回：テキストの勉強とともに、年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第 8 - 13 回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に重点を置く。
- 第 14 回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。楊先生（水 1 限）、鄭先生（木 3 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 G

鄭澤善

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

【授業計画】

第1回：ガイダンス、中国語とは？共通語と方言、ピンイン入門。

第2～5回：ピンイン及び発音の練習、一人一人に発音の練習を指導する。

第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容及び文法を詳しく説明するとともに朗読させ、練習問題をやらせてもらう。

第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Gは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 G

時衛国

【授業の概要】

本講義は初心者に現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。具体的には発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することが目標である。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～4回 母音・子音とそれらの組み合わせ方、四声、イントネーションなどの説明

第5～10回 初級の段階に入り、テキストを中心に進めるが、会話の練習にも力を入れる。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Gは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 H

鄭澤善

【授業の概要】

前期勉強の延長として、正しい中国語の発音の練習に重点を置きながら、簡単な会話ができるように指導するとともに、練習問題を通じて、文法と読解力の向上を目指す。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音の復習に重点を置く。
- 第2～7回：テキストの勉強とともに年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8～13回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に主眼を置く。
- 第14回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

中国語会話 1 H

時衛国

【授業の概要】

本講義は現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストの内容を中心に読みの練習と短い会話の練習に力を入れるほか、基本文型や簡単な文法について説明し、練習をする。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方に出席し、その平均で評価ができる。

中国語コミュニケーション1

陳佳平

【授業の概要】

中国語コミュニケーションをしようとするなら、まず正しい発音と声調を身に付けなければならない。そのため、色々な練習を用いて、出来るだけ早く、正しく拼音と声調及び変調などをしっかり覚え、それと共に基礎的な文法を踏まえながら、語彙力と表現力を養い、実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。

【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

勉強意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション1

陳惠貞

【授業の概要】

中国語を勉強しようとする学生に、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、楽しく学習できるよう努める。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう心がける。

【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習させ、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション2

陳佳平

【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

学習意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション2

陳惠貞

【授業の概要】

前期で習得したものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解するのに加え、書くと朗読する能力を養う。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の努力を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション3

陳佳平

【授業の概要】

中国語の学習には正しい発音、声調など基本的な表現力をしっかり覚えることが第一歩である。これは中国語コミュニケーションを始めようとする第一のステップでもある。

楽みにかつ早く中国語コミュニケーション能力を学生に習得させるため、色々な学習方法を通じて、学生の勉強の意欲と能力を出来るだけ効果的に生かしていくことを工夫する。

【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

学習意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション3

陳惠貞

【授業の概要】

中国の文化や習慣に触れながら、楽しく語学を勉強しよう。まずは、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、負担なく学習できるよう心がける。授業の進め方は、対話講義とし、それぞれ声を出し、積極的に参加することを望む。

授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう工夫する。

【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション4

陳佳平

【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

勉強意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座
(丁秀山著 光生館)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション4

陳惠貞

【授業の概要】

前期の授業で学んだものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解した上、書くと朗読する能力を養う。習得した語彙や文型を応用し、会話をする。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、随時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の講義を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座 (丁秀山著 光生館)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語読解 1

鄭澤善

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期では、ピンインの勉強を復習した上、中国の地理、少数民族、方言、苗字、祝祭日等に関連する文章をゆっくり読みながら、文法を詳しく説明して、単語の覚えるに重点を置く。読解力の基礎勉強として、ピンイン、基本文型、基本文法をマスターするために、朗読も併せて行なう。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社
必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 2

鄭澤善

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身に付けるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期勉強の延長として、中国の食文化、庶民生活、国民性、最新事情等関連の文章を、できるだけ早く読むように指導する。文章の説明につき、文法等は詳しく説明するが、黙読の速さの向上に重点を置く。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社
必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 3

時 衛国

【授業の概要】

本講義は初級中国語コースで学んだ発音の仕方・文型・文法現象及び関連知識を復習しながら、テキストをもとに総合的読解力と会話力を高めることを念頭に置く。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～12回 テキストを利用して読解・説明・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語読解 4

時 衛国

【授業の概要】

本講義は現代中国語の文型・文法現象及び関連知識を中心に、総合的読解力の養成を目標とする。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～12回 テキストを利用して読解・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

ドイツ語 a・b

浜田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間／田畑共著 第三書房）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

「Elle est gourmande」（藤田裕二、朝日出版社）

ロシア語 a・b

杉本一直

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがいっぱいなら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

TOEFL・TOEIC トレーニング I

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香
磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香
磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス
ジェームス・A. ジョー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス
ジェームス・A. ジョー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

[Course Content]

TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion.
 6. Error identification
 7. Short passages

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

[Textbooks]

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー デビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス シャレル・A. ラインツマ
アレン・D. ウィリアムス アラン・デイヴィーズ スコト・R. グラント 寺本史子

[Course Content]

TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 380 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

[Textbooks]

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー デビッド・C. ダイカス ジョージ・E. ログ ハー・T. ノス シェル・A. ラインツ
アレン・D. ウィリアムス アラン・テイヴィーズ スコット・R. グラント キンズ

【Course Content】

TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指すし、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

デビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 400 should consider doing this course.

This is a pre - intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL IV (4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングⅣ

デイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・デイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre-intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 350 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングⅤ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン
アラン・デイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 420 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングV

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン
アラン・デイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 400 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC V (5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 450 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL VI (6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 500 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

【授業の概要】

英語・アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での春期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。2月中旬から3月中旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2001年度実施夏期研修プログラムにおける1日(9:00AM~3:20PM)の学習内容は、以下の通りだった:

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽・ドラマ・ニュースレター作成・ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、終了パーティーで発表する。

【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。(期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価および研修前オリエンテーションの課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。(米国側協力団体) ポイント・オブ・ライト財団(Points of Light Foundation)

【授業計画】

- (事前研修)・インターンシップの活動分野の決定
- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体ヘフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング
- (現地プログラム)・オリエンテーション合宿
- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ
- (事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

外国文化海外研修Ⅰ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

外国文化海外研修Ⅱ（韓国）

曹 述燮

【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、金属工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間：

夏期休暇の8月中の3週間前後

内容：

1. 語学研修
 - a. 14日間、午前中、1日3時間（2コマ）授業
 - b. 現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、句型、会話などの練習
 - c. 初級と中級のクラス編成予定で初心者も授業参加可
2. 韓国文化研修
 - a. 午後週1～2回
 - b. 専門家による講演と質疑応答
 - c. 伝統文化講演の鑑賞（古典劇、音楽など）
 - d. 韓国文化にたずさわる専門家による指導と自己参加型の実習（工芸・料理、舞踊など）
3. その他の各種の課外活動

【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている

【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフそして引率教員による総合評価による。

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2. " "
3. モデリング
4. " "
5. 3次元座標変換
6. " "
7. レンダリング
8. " "
9. " "
10. 画像処理
11. " "
12. 著作権その他。

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『Computer Graphics』技術編CG標準テキストブック
(画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

- 『Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス』
(山岡祥著 森北出版)
『コンピュータグラフィックス理論と実践』
(James D. Foley他著 オーム社)

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につく指導できる。

【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2. " "
3. " "
4. " "
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6. " "
7. " "
8. " "
9. " "
10. CG検定1級の過去問題検証
11. " "
12. " "

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『CG検定1級問題集』(画像情報教育振興会)

【参考文献・資料】

- 『基礎から学ぶVisualC++プログラミング』
(山岡祥著 CQ出版)
『コンピュータグラフィックス理論と実践』
(James D. Foley他著 オーム社)

上級英語セミナー2003A

ポール・C. リンガー

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from Newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task-based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)

Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003A

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

【Reference】

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003B

ポール・C. リンガー

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from Newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task-based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)

The past
Current events in the news
Relationships
Food & Health
Fashion
The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003B

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

【Reference】

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003C

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003C

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2003C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003D

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献して欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003D

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2003D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003E

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2003E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003E

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003F

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- Vocabulary tests - 3 types
- Preparation for (and participation in) class discussions
- Listening comprehension activities
- Attendance

「上級英語セミナー2003F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003F

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人とのcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

ASU TOEIC I C

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEIC Dレベル (220-465) で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル (470-725) の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、文法・語彙問題、Reading、リスニングの基礎に重点を置いて学習するため、日本人教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・ 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
- ・ 前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
- ・ 演習 (文法問題・Reading・リスニング) (30分)
- ・ 問題解説 (25分)

第15回 模擬テスト

* 宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

リスニング演習 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

【授業用 共通テキスト】

Successful Steps for the TOEIC Test 成美堂

【TOEIC Cレベルを目標とするコース用 課題テキスト】

『TOEICテスト実践講座 標準総合』南雲堂

『TOEICテストよく出る英語表現』ナツメ社

【TOEIC Bレベルを目標とするコース用 課題テキスト】

『TOEIC TESTこれ1冊で860点突破』アスカ

『TOEICテスト よく出る英単語・熟語』ナツメ社

※星が丘キャンパスの課題テキストはTOEIC Bレベル用とします。

ASU TOEIC I D

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。

スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

プール実習 平成15年9月1日（月）～6日（土）
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成15年9月8日（月）～11日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成15年5月21日（水）5限目

第2回説明会 平成15年7月5日（土）10：00～

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）

用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）

海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）

その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

4. 定員 約20名

* 諸経費については、14年度のものでありますので変更になる場合があります。

* 説明会には必ず参加すること。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座（マリンスポーツ）

松田秀子

【授業の概要】

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成13年8月6日（月）～9日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日（水）5限目

第2回説明会 平成13年7月4日（水）5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

（定員に満たない場合は中止になります。）

* 実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

* 説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

**本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。**

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成15年9月3日（水）・4日（木）

5日（金）・8日（月）

9日（火）・10日（水）

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成15年7月9日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 星ヶ丘ボウル

4. 実習費 6,000円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）

5. 定員 60名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成16年2月3日（火）・4日（水）

5日（木）・6日（金）

9日（月）・10日（火）

6日間 午前のみ

2. 説明会 平成16年1月7日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）

4. 実習費 約7,200円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）

5. 定員 60名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スキー）

【授業の概要】

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成14年2月17日（日）～2月21日（木）
4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日（水）5限目

第2回説明会 平成14年1月9日（水）5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

（宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費）

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円（レベルによって異なる）

レンタルスキー（板、ブーツ、ストック） 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物（帽子、手袋、ゴーグル） 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画（体験）

スノーボード（レンタル代、講習費） 6,000円

ヘリスキー（ヘリコプターの搭乗費） 6,000円

スキー検定（検定料） 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関しての料金は、12年度のものでありますので、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

**本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。**

地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
4. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
5. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
6. 大分県日田市：歴史的景観を生かした都市づくり
7. 兵庫県神戸市：港町の歴史を生かした景観形成
8. 兵庫県出石町：城下町の歴史を生かした景観形成
9. 岡山県倉敷市：民芸のまちの成り立ち
10. 岐阜県高山市：市街地景観保全
11. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
12. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
13. 受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）
西村幸夫『町並みまちづくり物語』（古今書店）
大河直躬編『歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり』（学芸出版社）
大河直躬編『都市の歴史とまちづくり』（学芸出版社）
全国町並み保存連盟『新・町並み時代』（学芸出版社）
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義Ⅴ（比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 政治的近代化とは？
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科挙官僚制と中国の近代化
- 4 両班（ヤンパン）と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か？
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 state と nation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートとによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W. Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学——（佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載）

メディアプロデュース特別講義Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

【授業の概要】

映像をベースにした放送番組の成り立ちを歴史的に振り返りながら、番組をどのように企画し、一つの作品として作り上げていくかを理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

プロの制作者のノウハウを探りながら、番組はどのように開発し、制作していけば良いのかをメディアリテラシーの視点から試作を通じて理解研究する。

本講では、実際に放送された教育・教養番組をモデルに番組形式や内容を分析するとともに、グループ・ワークで実際に番組を制作する。

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステイナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ポーニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義Ⅲ（情報化建築論）

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のありおおよびそこの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

情報化の進展によって大きな変化を受けつつある住居とオフィスを取り上げ、インテリジェント化、マルチメディア化、ネットワーク化によって、建物の機能や構成要素がどのように変化してきたか、今後どのように変化するかを考察する。また、建築の設計や生産の方法に対しても情報化は大きな影響を与え、建築生産情報の統合化が急務となっている。その動向を概観し、今後の方向を探る。

【授業計画】

講義によるオーバービューと併せて、下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー（ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社）

国際社会プロジェクトⅡa

江藤恭二

【授業の概要】

教育近代化の過程を、世界教育史上の人物をとり上げることによって明らかにしていく。たとえば、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなどの名を挙げうるであろう。彼らが教育史上、どのような実践と思想の軌跡を残しているかを刻明に探っていきたい。

【授業計画】

1. コメニウス 「大教授学」
2. ロック 「教育論」
3. ルソー 「エミール」
4. ペスタロッチー 「隠者の夕暮」
5. フレーベル 「人間教育」

これらの古典を読みつつ、著者たちの生涯を明らかにする。

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

【参考文献・資料】

1. 西洋教育史叙説（江藤 恭二 福村出版）
 2. 西洋教育史（長尾 十三二 東大出版会）
- その他、西洋教育古典シリーズ（明治図書）を用いる。

国際社会プロジェクトⅡb

西尾林太郎

【授業の概要】

Max Weberの著作（日本語訳のもの）やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキー・ワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。

【授業計画】

- 1 Max Weber、丸山真男、大塚久雄について
- 2～8 M. ウェーバー『社会と経済』の一節（特にカリスマ、官僚制、権力に関する部分）、大塚久雄によるウェーバーに関する著作を輪読
- 9～12 近代国家論に関する論文を輪読
- 13 まとめとディスカッション
広く現代社会、アジア社会および現代国家の分析をめぐるフリーディスカッションを実施

【評価方法】

出席状況および平常点による。輪読の際、各自の担当部分について簡単なレジュメを作成してもらう。

【テキスト】

授業中にその都度指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

主題講義Ⅰ

大西 誠 五島幸一

【授業の概要】

現代社会におけるメディアプロデュースとは何かを、映像プロデュースやイベントプロデュースなど実践事例を基に検討し、メディアの生産から流通、消費について現状と課題を明らかにする。

本講では、特に生産者であるメディアのプロ（送り手）と消費者である受け手との相互関係を今日的課題でもあるメディア・リテラシーの観点から概観してみたい。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。初回は、講義概要と現状報告を行なう。以降は、専門的な立場から講義を行ない、最終回に質疑・討論と総括で終える。詳細は別途、決定次第公表する。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用しない。参考文献は講義中に紹介するとともに、適宜、資料を配布する。